

AvadAnakalpalatA 55章、91-92章と Karmazataka 125-126話 -- SarvaMdada, Zibi, Maitrakanyaka の 校訂・和訳 --

岡野, 潔
九州大学大学院人文科学研究院 : 教授 : インド哲学史

<https://hdl.handle.net/2324/17842>

出版情報 : 南アジア古典学. 3, pp.57-155, 2008-07. Kyushu University Department of Indology
バージョン :
権利関係 :



Avadānakalpalatā 55章、91-92章と Karmaśataka 125-126話 —— Sarvaṃdada, Śibi, Maitrakanyaka の校訂・和訳 ——

九州大学 岡野 潔

本論文は Bodhisattvāvadānakalpalatā の第55章 Sarvaṃdada、第91章 Śibisubhāṣita、第92章 Maitrakanyaka の校訂と翻訳を行う。Martin STRAUBE (2006): *Prinz Sudhana und die Kinnarī* (IeT 46) の仕事を手本とする私のこの校訂の作業は昨年(2019)の第50章 Daśakarmapluti の校訂・翻訳に続くものであるが、この度も Michael HAHN 先生と出本充代夫人に原稿を最終段階でチェックしていただき、沢山の修正意見をいただくことが出来た。心から HAHN 先生御夫妻に感謝する。また原稿作成の最初の段階でこれらの章の訳読を九州大学大学院の授業で取り上げた際に、授業に出席してしばしば有益な修正意見をくださった片岡啓准教授に感謝する。院生の山崎一穂君は授業に積極的に参加してくれた。またネパールの国立古文書館から写本 E のフィルムをもってきて下さった Sudan SHAKYA 博士に感謝する。おかげで E の異読を追加することが出来た。

これらの方の御協力によって論文がいったん出来た後、提出締切日までに時間があつたので、Avadānakalpalatā 第91章と密接に関連する Karmaśataka 第125話 Śibi [1] と第126話 Śibi [2] の和訳を行い、論文に追加した。この二話の全訳は、第91章 Śibisubhāṣita の源泉資料における話のかたちを確認し、また元の話と比較して Kṣemendra の詩形改稿の手法を知るために、必要であった。

使用した略号は基本的に STRAUBE (2006) に従う: δ = DT; β = GNQ; Ed. = editio princeps of Dās & Vidyābhūṣaṇa など。ただし例外的に $\beta \delta$ = DGNQTとする^[1]。

Avadānakalpalatā 第55章と91章はともにシビ王の説話に関わっている。松村恒が語るように^[2]、「シビ本生話」と呼ばれる物語群には異なる話型のものが含まれており、布施者名がシビ王でなくても、鳩の身代わり型であれば、この群に入るものと見なすことができる。私が次に翻訳する第55章サルヴァンダダ王の話は、布施者名がシビ王ではないが、話型が鳩の身代わり型のシビ王説話と同一であり、その差異はごく表面的なものである。

^[1] STRAUBE (2006) がDGNQT全部を示すために用いる大文字のオメガの記号は、私の作業環境では使えないので、DT (δ) + GNQ (β) つまり、 $\beta \delta$ と表記する。

^[2] 松村恒 (2004): 「シビ王本生話と捨身供養」、『印仏研』52-2、*76-82頁。

一つの物語群に、どの範囲までのヴァリエーションを認めるかという問題は難しく、また興味深い。私がこの問題でつい連想するのは、オランダの画家 M.C. エッシャーの、メタモルフォーシス(変容)を主題にした一群の絵であり、たとえば『メタモルフォーシス II』という作品(1939-40)では、物の形の「繰り返し模様」を徐々に少しずつ変化させることで、蜜蜂がいつの間に鳥になり、鳥がいつの間に魚になるという驚くべき変容を私たちに見させてくれるが、シビ王説話の物語群の場合も、話の中の小さな変化を追いかけてゆくと、次第にいつの間に別の有名な本生話の話になってしまい、またその本生話も次第に別の話に変化してゆき、仏教の諸説話が際限なく網の目のように連続し合ってしまうのを見出すことになる。シビ王の話と他の本生話の境界線をどこで区切るかという判断は、話型の確定の作業とかかわっており、大変微妙なものであるが、少なくとも第55章サルヴァンダダ王の話は鳩の身代わり型のシビ王説話の一つに間違いはない。

以下に、現存資料におけるシビ王説話と類似話のメタモルフォーシスを示す。

- (1)シビ王が | 鳩を助けるために | 鷲(<インドラ神)の求めに応じて | 自分の肉を切って与え、ついには身体をすべて施与するが | 真実の力により体が元通りになった。
- (2)ウシーナラ王が | 鳩を助けるために | 鷲(<インドラ神)の求めに応じて | 自分の肉を切って与え、ついには身体をすべて施与したので | インドラ神が彼を誉め[傷を癒し]た。
- (3)薩波達(Sarvaṃdada?)王が | 鳩を助けるために | 鷲(<インドラ神)の求めに応じて | 自分の肉を切って与え、ついには身体をすべて施与したので | インドラ神が彼の傷を癒した。
- (4)サルヴァンダダ王が | 鳩を助けるために | 獵師(<インドラ神)の求めに応じて | 自分の肉を切って与え、ついには身体をすべて施与したが | 真実の力により元通りになった。
- (5)シビ王が | 鳩を助けるために | 鷲(<インドラ神)の求めに応じ | 次にバラモン(<インドラ神)の求めに応じて | 自分の両目を抉って与えたが | 真実の力により体が元通りになった。
- (6)シビ王が | 盲目のバラモン(<インドラ神)が目を求めるのに応じて | 自分の両目を抉って与えたが | 真実の力により目が元通りになった。
- (7)月光王が | バラモンが目を求めるのに応じて | 自分の両目を与えた。
- (8)月光王が | バラモンが頭を求めるのに応じて | 自分の頭を切って与えて | 死後に天界に行き、塔が立てられた。
- (9)シビ王が | 善説を得るために | 羅刹(<インドラ神)の求めに応じて | 自分の肉を切って与え、ついには身体をすべて施与したが | 真実の力により体が元通りになった。
- (10)シビ王が | 善説を得るために | 羅刹(<インドラ神)の求めに応じて | 千釘を打ち込んだ二枚の板の間で自分の身体を圧搾して、流れ出た血を与えたが | 真実の力により体が元通りになった。

(11) 毘楞竭梨王が | 善説を得るために | バラモン(の求めに応じて | 千釘を自分の身体に打たせたが | 真実の力により体が元通りになった。

(12) スルーパ王が | 法(善説)を得るために | 夜叉(<インドラ神)の求めに応じて | 妻子を夜叉に食わせ、自分の身体も与えようとしたので | インドラ神が彼を誉めて、妻子を返した。

(13) 善説求(Subhāṣitagaveśin)王が | 善説を得るために | 夜叉(<インドラ神)の求めに応じて | 火坑(agnikhadā)の中に身を投じたが | 火坑は変じて蓮池となった。

(14) 曇摩鉗(Dharmakāma?)太子が | 善説を得るために | バラモン(<インドラ神)の求めに応じて | 火坑に身を投じたが | 火坑は変じて蓮池となった。

(15) 善説求王が | 善説を得るために | 残忍な獵師の求めに応じて | 山の崖から身を投じたが | 夜叉が空中で抱きとめて、彼を助けた。

(1)は大智度論卷四(T25 87c-88c)、賢愚経卷一(T4 351c-352b)、衆經撰雜譬喻經(T4 531b-c)、大莊嚴經論卷十二(T4 321a-323c)、仏本行経卷五(T4 89b)、Avadānakalpalatā [2] Śrīsenā (vs. 109)

(2)は Mahābhārata III 130.16-131.32

(3)は 六度集経卷一(T3 1b-c)

(4)は Avadānakalpalatā [55] Sarvaṃdada

(5)は Avadānaśataka [34] Śibi

(6)は Pāli Jātaka No. 499 と Āryaśūra Jātakamālā 第2章

(7)は 仏本行経卷五(T4 89b)

(8)は Divyāvadāna [22] Candraprabha と Avadānakalpalatā [5] Candraprabha

(9)は Avadānakalpalatā [91] Śibisubhāṣita と Karmaśataka [125] Śibi (1)

(10)は Karmaśataka [126] Śibi (2)

(11)は賢愚経卷一(T4 350a-c)

(12)は Avadānaśataka [35] Surūpa、賢愚経卷一(T4 349a-b)

(13)は Avadānaśataka [38] Dharmagaveśin、根本有部毘奈耶雜事卷十四(T24 266c-267b)

(14)は賢愚経卷一(T4 350c-351b)

(15)は Avadānakalpalatā [53] Subhāṣitagaveśin

話のメタモルフォーシスのリストはこのように並列的に広がってゆく。上記のリストはさらに資料を増やして、一層横の方向に拡大することもできよう。

シビ王説話に関して、町田順文は三つの型に分ける^[1]。その三つの型とは上記の(1)の「鷲と

^[1] 町田順文 (1980): 「シビジャータカについて」、『印度学仏教学研究』28巻2号、

鳩・施身」型(最もポピュラーな型)と、(6)の「バラモン・施眼」型、(5)の「鷲と鳩・バラモン・施眼」型(先の二つの型の折衷)である。松本純子はさらに第4の型として(9)の「施身聞偈型」のタイプを追加した^[1]。しかしこのような研究の方法論には疑問が残る。従来のこれらの研究は、シビ王の名前が話に出てくるかどうかという表面的な違いだけで、考察する説話を自ら限定してから、分類に入るために、上記のリストの、シビ王の名前が出てこないその他の型を全く考察の対象としていない。

このような主人公の名前だけを手がかりに資料を集めて、「シビ王」の四つの型を区別することに、暫定的な資料整理の作業以上のどれほどの意味があるのか、疑わしいと思う。上記のリストから、「シビ王」の複数の型を相互にリンクする役割を果たすような、他の説話があることは明らかであるから、シビ王という名も一つの可変項にすぎないことも考慮に入れて、類話を集めて、話の変容可能性、話の「可能態」を話の「現実態」と同時に研究の主題に据えて、これまでのような静的な分類学的なあり方を超えようとするべきであろう。一つの説話コンプレックスと他のコンプレックスの関係が複雑に絡み合っている以上、シビ王説話の研究はそれだけでは完結しない。また個の説話があたかも名称ごとに「実体」として存在するかの如く仕切りを設けて、その中で分類・分析を行って、それで事足りりとするのではなく、話型と変容を考察しつつ、仏教説話の絶えざる生成を理解するための動的な研究を行うことこそ、「説話」を含め、物事を縁起として成立したものとみる、仏教の理念に忠実な研究法というべきである^[2]。

Avadānakalpalatā, 55 Sarvaṃdadāvadāna

D: Khe 36b5-42a3 Q: Ge 216a6-219a2 N: Ge 190a6-192b6

G: Ge 270a1-273a4 T: 358a1-362b5

Skt. Mss.: A *225b5-*228b5; B 15a7-17b2; E 18b2-20b7

636-637頁。

[1] 松本純子 (2002) : 「シビ王伝説 一仏典における捨身物語の諸相」、『善通寺教学振興会紀要』8号、50頁。

[2] ただしインド古典説話の研究は今では文献学による土台作りの段階にあり、まずは目ぼしい文献から校訂と翻訳を出してゆくことが私たちの急務となる。未だ十分にインド系言語の説話文献の校訂テキストや翻訳が出来ておらず、漢訳やチベット訳などの資料も多くは訳されていない現在の学界の状態で、一次的資料の蓄積の絶対的な不足の中で、一足飛びに古典説話に関する話型論・構造論の研究をまとめようとすることは大変困難である。基礎研究の充実が当面の課題となる。

/ cintāmaṇiḥ kila vicintitavastudātā

kalpadrumaś ca parikalpitam eva sūte /

tasya stutau samucitāni padāni kāni

dehapradānasamaye svayam udyato yaḥ // 55.1 //

/ {D36b5, T358a1} cinta ma ṇiḥ ki la bi ci ti ta bastu dā tā kalpa dru maśca pa ri kalpi ta me ba
pū te // ta sya stu tau sa mu ci tā ni pa dā {D37a1} ni kā ni de ha pra dā na sa ma ye sva ya mu
dya to yaḥ // [1]

如意宝珠は[心に]思念された財を与えるといわれ、また如意樹もまさしく[心で]想像されたもの
を生じるといわれる。[自分の]肉体を与えるという約束を自ら意欲する者を讃歎するために、
どんな言葉がふさわしいだろうか。

Metre: Vasantatilaka.

/ yid bzhin nor bu nges par rnam bsams dngos po ster byed cing // dpag bsam
shing yang yongs su brtags pa kho na skyed par byed /

/ lus ni rab sbyin dam tshig dag la rang nyid brtson pa gang // de dag bstod la
yang dag 'os pa'i tshig ni gang zhig yin /

1b brtags] δ : btags β . 1c rang] δ : rab NQ : rag G.

/ ghātopagghātakau śāstā vinīyonmadaguhyakau /

keśinīkānanād anyad vanam antarahito yayau // 55.2 //

/ ghā ṭa pa ghā ṭa ko śāstā bi ni yonma da gu hya kau // ke śi nī kā na nā danyadba na mantarhi
to ya yau // [2]

師(仏)は、ガータとウパガータカという狂酔したグヒヤカ(夜叉)を調伏して、ケーシニーの森か
ら姿を消し、別の森へと行った。

/ ghā ṭa *u pa ghā ṭa ka // smyo byed gsang ba pa btul nas /

/ skra can nags las mi snang bar // ston pa nags tshal gzhan du gshegs /

2a ghā ṭa *u pa ghā ṭa] ex coni : ghā ṭa a pa ghā ṭa δ Q : ghā ḍa a pa ghā ḍa GN.

/ prāgvṛttasmarāṇasmeravadanaḥ smitakāraṇam /

sa tatra pṛṣṭaḥ śakreṇa praṇayāt punar abravīt // 55.3 //

/ prāgbṛtta sma ra ṇa sme ra ba da naḥ smi ta kā ra ṇam // sa ta tra sṛṣṭaḥ śakre ṇa pra ṇa yatpu
na ra bra bīta // [3]

そこで以前の出来事を思いだして顔に微笑を浮かべた彼(仏)は、シヤクラによって微笑の理
由を尋ねられて、親しく答えた。

/ der ni sngon byung dran gyur nas / bzhin 'dzum mdzad la 'dzum pa'i rgyu /
/ brgya byin gyis ni gus pas dris // de yis slar yang rab gsungs pa /

/ abhūt sarvāvatī nāma vasatiḥ sarvasaṃpadām /
nagarī gaganālagnamaṇiharmyāṃśuhāsinī // 55.4 //

/ a bhūtparbbā ti nā ma ba sa tiḥ sarbbā sampa dām // na ga rī ga ga nā la ga ma ṇi harmyāṃ śu
ha si nī // [4]

4d hāsinī] ABT : bhāsinī E.

サルヴァーヴァティーという名の、あらゆる幸(sampad)をもつ者たちの住まいとして、天空に接する宝石の宮殿の[発する]光線の笑いを有する都市があった。

/ grong khyer thams cad ldan pa zhes // nor bu'i ba gam nam mkha' la /
/ reg pa'i 'od zer rgod pa can // phun tshogs kun gyi gnas su gyur /

4a ldan pa zhes] δ : ldan zhes pa β .

/ āsīt sarvaṃdadas tasyāṃ rājendur amaladyutiḥ /
yasya tribhuvanajyotsnā babhau kīrtir divānīśam // 55.5 //

/ ā pītsarba da dasta syā rā jyendu ra ma ladyu tiḥ // ya sya tri bhu ba najyotsna ba bhau
kīrtirdi bī ni śaṃ // [5]

そこに穢れない輝きを有する、サルヴァンダダ(一切施)という名の、月のような王がいた。彼の名声は、三界における月光として、昼も夜も輝いた。

Note 5a Sarvaṃdada] この王の名が出てくる仏教説話として、説話集 Avadānasārasamuccaya (本来 Gopadatta の Jātakamālā の一部) に Sarvaṃdada-jātaka という章があり(R. HANDURUKANDE, *Five Buddhist Legends in the Campū Style*, IeT 4, 1984, pp. 58-87)、その章は説話集 Mahajjātakamālā で Sarvaṃdada-bhiddhānamahārājavadāna という章として詩形改稿されたが、その Sarvaṃdada 王の本生話は、この Avadānakalpalatā 第55章の話とは全く別のものである。Sarvaṃdada-jātaka の粗筋は、次のようなものである:サルヴァンダダ王が、国を敵国の軍に攻略され、苦行森に入るが、そこで彼に布施を求める一人のバラモンに財を与えるために、自分の身柄を敵国の王に引き渡して財を得るように提案し、自ら進んでバラモンに拘束されて敵国の王の許に連れて行かれる。しかし彼の気高い行為に感動した敵国の王の配慮により、元の国で再び王になる。この話は漢訳大蔵經にも見出せ、大智度論卷十二(T25 146b)、大莊嚴經論卷十五(T4 339b-340a)、雜譬喻經(T4 530a-c)等にある。Cf. Mppś, pp. 714-715. なお GREY (2000): *A Concordance of Buddhist Birth Stories*, Third Ed., s.v. Sarvaṃdada (pp. 364-365) では、この Kalpalatā 第55章の Sarvaṃdada と上記の話との話の違いに気づかずに、混同して一緒に扱っている。

/ der ni rgyal po'i zla ba dag // dri med 'od ldan kun ster byung /
/ gang gi grags pa zla 'od kyis // srid gsum nyin dang mtshan mor mdzes /
5b ster] δ : sder β .

/ śobhājuṣaḥ sukṛtasāradaśāviśeṣair
labdhasthiter vinayavartmani bhadramūrteḥ /
yasyāyayau vijayamaṇḍanaḍiṇḍimatvaṃ
dānena kuñjarapater iva sādhuṇvādaḥ // 55.6 //

/ śo bhā ju ṣaḥ su kṛ ta sā ra da śāṃ bi (śe D : śa T) ṣairlabdhasthi tirbi na ya bartma ni bha tra
(mūrṭtiḥ D : mūrṭtaḥ T) // {T 358b} ya sya ya yau bi {D37b} ja ya maṇḍa na ḍiṇḍi ma tvaṃ dā
ne na kuñja ra pa te ri ba sā dhu bā deḥ // [6]

象王がよく作られた最良の(sukṛtasāra)特別な衣服の縁(daśāviśeṣa)によって輝きをもつように、王は善行の精髓(sukṛtasāra)[を行う]卓越した境遇(daśāviśeṣa)によって輝かしさをもっていた。象王がすばらしい姿をもち、調教の道(vinayavartman)によって安定[した歩み方]を獲得しているように、王はすばらしい姿をもち、戒の道において(vinayavartman)安定性(専心)を獲得していた。象王が[こめかみから出す香ばしい]愛液(dāna)によって[人々の]称讃を有するように、布施(dāna)によって[人々の]称讃を有した。称讃は、勝利という[象王の／王の]装飾に対する太鼓の響きの如き[かまびすしさ]となった。

Metre: Vasantatilaka.

/ mdzes ldan legs byas snying po'i gnas skabs dag gi khyad par gyis // 'dul ba'i
lam du gnas pa thob cing gzugs bzang ldan gyur pa /
/ gang gi legs smra dul ba'i rgyan ldan sgrogs pa'i rnga nyid du / sbyin *pas gyur
te glang po'i bdag po dag gi bzhin du 'o /

6a dag gi] δ : dag gis β || khyad par] β : khyab pa δ . 6c rgyan] δ : rgyal β ||
sgrogs] β : sgrog δ . 6d sbyin *pas] ex coni : sbyin pa β δ .

Note 7c dul ba'i] ここで蔵訳者は vijaya ではなく *vinaya と読んだらしい。

/ sa kadācit prajākāryadarśanānugrahonmukhaḥ /
bheje bāhyāṅgaṇasthānabhuvam bhūmiśatakratuḥ // 55.7 //

/ sa ka dā cinpra jā kārya darśa nā nu gra honmu khaḥ // bheje bā hyāṃ ga na sthā na bhu baṃ
bhū mi śa ta kra duḥ // [7]

かの、地上のインドラ神(王)はある時、人々の仕事を視察し利益を与えようと願い、他国の宮廷の地に逗留していた。

/ nam zhig sa yi brgya byin de // skye rgu'i bya ba lta byed cing /
/ rjes su gzung la mngon phyogs pas // phyi rol khyams gnas sa gzhi bsten /
7a de] δ : de de β . 7b rgu'i] δ : dgu'i β (also correct). 7c gzung] δ : bzung β .

/ sa tatrānantasāmanta^{maulir}atneṣu bimbitaḥ /
śuśrāva pṛthivīkāryam asaṃkhyair iva vigrahaiḥ // 55.8 //

8d asaṃkhyair iva] AT : asaṃkhyair eva E : asukhaivaca B.

/ sa ta trā nanta sā manta mau li ratne ṣu bimbi taḥ // śu śrā ba pṛ thi bi kārya ma saṃ khyai ri
ba bi gra haiḥ // [8]

彼はまるで無数の肉体をそなえているかのように、そこでおびただしい藩王たちの王冠の宝
石に[沢山の彼の]姿を映していたが、[彼は]地上でなすべき仕事を聞いた。

/ der ni mtha' yas rgyal phran gyi // mgo bo'i rin chen la snang des /
/ lus ni grangs med dag *gis bzhin // sa yi bya ba thos par gyur /
8c *gis] ex coni : gi β δ .

/ candrakāntamaye tasya saṃkrāntāḥ praṇatāḥ puraḥ /
pādapīṭhe punaś cintātāpaṃ tatyajur arthinaḥ // 55.9 //

/ (candra D : caṇḍa T) kānta ma ye tasya saṃ krāntāḥ pra ṇa tāḥ pu raḥ // pā dā sī thi pu
naścinta tā paṃ ta dya ju rarthi na // [9]

彼のチャンドラ・カーンタ石で出来た足載せ台に懇願者たちはやってきて、[その]前でお辞
儀し、懸念の熱苦を再度捨てた。

Note 9c punaś] ここで再度というわけは、まず冷たいチャンドラ・カーンタ石の足載せ台で熱苦を捨て、
次いで懸念の熱苦を捨てるからである。参照：宇野惇 (1996):『インド論理学』、法蔵館、188頁。燃えてい
る火の上に candrakāntamaṇi を置くと、火が消える。しかしその上に sūryakāntamaṇi を置くと、消えたはず
の火が再び燃え始めるという。

/ de yi rkang stegs zla shel gyi // rang bzhin la ni 'phos gyur cing /
/ mdun du rab btud slong ba rnams / slar yang bsam pa'i gdung ba btang /

/ atrāntare paritrastaḥ srastapakṣa ivāgatīḥ /
pārāvataḥ kṣītipater ūrumūlam aśīśriyat // 55.10 //

10a paritrastaḥ] A, confirmed by tib. rab skrag cing (Skt. *paritrastaḥ) : paribhrastaḥ
B (= Ed.). Cf. de JONG. 10b srasta] A : [sru]ṣṭa B : [plu]ṣṭa Ed. Cf. de JONG.

/ a trānta re sa dra sta sa bakṣa kṣa ya ibā ga tiḥ // pā ra ba taḥ kṣi ti pa te rū ru mū la ma śi śri

yata // [10]

さてある時、非常に怖れた鳩が、まるで翼を落としてしまったかのように、行き場を失って、王の膝元に逃げ込んだ。

/ skabs der phug ron rab skrag cing // 'dab gshog zad pa bzhin du ni /

/ 'gro ba med pas sa bdag gi / byin pa'i rtsa la rab tu bsten /

10c pas] δ : pa'i β || gi] β T : gis D. 10d la] β : ba δ .

/ taṃ kātaratarodbhrāntanetraṃ saṃkocitāṅgakam /

dr̥ṣṭvā dayāvidheyo 'bhūt sahasā pr̥thivīpatiḥ // 55.11 //

/ ta kā ta ra ta ro tra bhā ta ne traṃ saṃ ko ci tāṃ ga kaṃ // dr̥ṣṭā da yā bhi dhe yo bhū ta sa ha
sā pr̥ thi bī pa tiḥ // [11]

ひどく恐怖して視線さだまらぬ目を有し、体をちぢこめたその[鳩]を見たとき、たちまち王は憐愍に支配された。

/ rab skrag mig ni 'khrul byed cing // yan lag kun tu 'khums pa de /

/ mthong nas sa yi bdag po ni // 'phral la brtse ba'i dbang du gyur /

11a 'khrul] δ : 'phrul β . 11b de] δ : des β .

/ sa samutphullakamalālinā kamalinīṭviṣā /

kuto 'sya bhayam ity āśā dr̥śā kṣipraṃ vyalokayat // 55.12 //

12a kamalā] lakṣmī (as gloss in the margin) A. 12ab kamalālinā] tib. padma'i 'phreng ldan gyis (Skt. *kamalālinā) : kalālinā B : kamalālilā AE.

(sā D : sa T) mutphulla ka ma lā lī ka ma {D38a} lī nī i bā ga tiḥ / ku to sya bha ya mi tya śā dṛ
śī kṣī praṃ bya lo ka {T 359a} yata // [12]

彼は、大きく開いた蓮群を具えた、蓮池の美 (tviṣ) を有する視線 (dr̥ś) をもって、「この者は何を怖れているのか」と諸方角をただちに眺めた。

Note 12ab] この箇所では kamalālilā- と読むか、kamalālinā (kamala+ālīnā or kamala+alinā) と読むかを選択しなくてはならない。蔵訳は「蓮の列・蓮群を有する」(kamala+ālīnā) と解釈している (cf. de JONG)。もし kamalālinā の後、kamala+ali (m. "bee") の具格として、「大きく開いた蓮と蜂を具えた (視線)」と解釈するならば、蓮と蜂とはこの場合、白目と瞳を意味するかもしれない。またもし kamalā-lilā- と読むなら「[目を] 見開いた (samutphulla)、蓮女 (女神ラクシュミー) の優美さの (外見の) 蓮池の輝きを有する視線をもつて」という意味になるだろうが、少し不自然な表現である。

/ 'di yi 'jigs pa gang las shes // rab rgyas padma'i 'phreng ldan gyis /

/ padmo can ltar 'od gsal ba'i // spyang gyis myur du phyogs rnam bletas /

12b gyis] δ : gyi β .

/ tasminn avasare sattvaṃ jijñāsuḥ pākaśāśanaḥ /
māyayā lubdhakākāraḥ samabhyetyābravīn nṛpaṃ // 55.13 //

/ tasminna ba sa re satva ji jñā su pā ka śā sa naḥ // ma ya yā lubdha kā kā raḥ sa ma bhye dya
bra tī nṛ paṃ // [13]

この機会に、善人たる性質 (sattva) を試そうとインドラ神 (パーカの処罰者) は魔術によつて (māyayā) 狩人の姿をもち、近づいて王に語った。

/ skabs der smin pa gsod byed ni // snying stobs brtag par 'dod pa yis /
/ sgyu mas rgon pa'i rnam par ni // 'ongs nas mi bdag la smras pa /

13b yis] β : yi δ .

/ deva muñca cirāvāptaṃ bhakṣyaṃ mama vihaṅgamam /
iyaṃ naḥ sahaajā vṛttir anivṛttir ayācitā // 55.14 //

/ de ba muñca bi cā trāptaṃ bha kṣyaṃ ma ma bi haṃ ga maṃ // i yaṃ naḥ sa ha jā bṛtti ra na
bṛtta ra yā ca nā // [14]

陛下、ようやく得た (追いつめた)、私の食べものである鳥をお放しください。このことは、所求ではない (ayācitā)、やめることができない、わたしどもの生まれつきの (sahaja) 稼業なのです。

/ lha gcig yun ring na rnyed pa'i // bdag gi bza' ba bya de thong /
/ 'di ni ma bslangs mi zlog pa'i // bdag cag lhan skyes 'tsho ba yin /

14a gcig] δ : cig β . 14c mi] δ : ma β .

/ nisargasiddham etan me bhojanaṃ jagatīpate /
tyajato jīvitam nāsti prāṇa hy aśanadhāraṇāḥ // 55.15 //

15d dhāraṇāḥ] AT : dhāraṇā BE.

/ ni sarga siddha me tadme bho ja naṃ ja ga tī pa te // tyajato jī bi taṃ nāsti pra ṇā hya śa na
dhā ra ṇāḥ // [15]

王よ、これが私の食べ物であることは、自然に定められていることです。それを放棄すれば、私に命はありません。なぜなら生命とは食物で維持されるものですから。

/ 'gro ba'i bdag po bdag gi zas // rang bzhin gyis ni grub pa 'di /
/ med na 'tsho ba gtong bar 'gyur // gang phyir zas ni srog gi gzungs /

15d phyir] β T : phyer D || gzungs] β : zungs δ .

Note 15cd] 蔵訳は pāda cd で文の作りが梵文と異なる: 「なければ命を捨てるでしょう。なぜなら食物は

命の維持ですから」。

/ kṣaṇe 'sminn aśanacchedān mayi saṃtyaktajīvite /
vināṅkṣyati viluptāśā saputrā me kuṭumbinī // 55.16 //

/ kṣa ṇe tasminna śacche dānma yi sa tyakta jī bi te // bi natkṣā ti bi lubhā śā sa pu tā me ku
ṭuṃ bi nī // [16]

この時に食物を断たれることによって、私が命を捨てるならば、望み(āśā)を失った私の妻は、
息子ともども滅びるでしょう。

Note 16c viluptāśā] ここで言葉遊び: 望み(āśā)を失った = 食物(āśa)を奪われた。

/ dus 'dir zas ni chad pa las // bdag gi 'tsho ba btang gyur na /
/ bdag gi khyim thab bu dang bcas // re ba chad pas rnam nyams 'gyur /
16c thab] β D : thabs T. 16d rnam] NQT : rnam] DG.

Note 16d re ba chad pas] 蔵訳者は āśa "food" でなく āśā "hope" と訳した。

/ ekasaṃrakṣaṇenaiva yaḥ karoti bahukṣayam /
sa dharmo yatra dharmātmann adharmas tatra kīḍṛśaḥ // 55.17 //

/ a ka saṃ kṣa ṇe nai ba yaḥ ka ro ti ba hu rakṣa (yaṃ D : ya T) // sa dharmmo ya tra dharmātta
ta dharma staṃ tra kī ṭṛ śaḥ // [17]

正義の心をもつ方よ(dharmātman)、一人を守るために正義が(dharmo)多くの人を滅ぼすな
ら、その場合(tatra)不正義とはいかなる者でしょうか。

Note 17c sa dharmo] もし蔵訳のように sadharmo と読むなら「正義の人が」という意味になるが、yaḥ ...
saḥ ... の構文と取る。

/ chos ldan gang gis gcig nyid ni // bsrungs pas gang du mang po dag /
/ chos las nyams par gyur na bkye // de la chos ni ci zhig 'dra /

17c bkye] β : bye D : b[y]e T.

Note 17c bkye] この bkye (fut. of 'gyed pa) の語は意味不明である。チベット文字梵文転写が pāda c の
dharmātta ta の箇所ですら少し違っており、そのため蔵訳者は私たちとは別な様に梵文を読んだのであろう。
もし蔵訳者が dharmātmann adharmas を *dharmāt *kara dharmas と読んだとするなら、bkye は *bgyi (= *kara?) と読むべきだが、それも確信がもてない。

/ mayi pārāvataprītyā na dveṣaṃ kartum arhasi /
na hi kāraṇarāgeṇa pravartante bhavadvidhāḥ // 55.18 //

18a pārāvata] A(post corr.)B : pārādhāta A(ante corr.)

/ ma {D38b} yi pā rā ba tyā prī tyā na dve ṣa kartu marha si // na hi kā ra ṇa rā ge ṇa pra
barttante bha badve dhāḥ // [18]

鳩への愛によって、私に憎悪をなさないでください。なぜなら、あなたのような[立派な]方々
は、原因としての愛情によって活動しないものです。

/ phug ron la ni byams pa yis // bdag la zhe sdang bya mi 'os /
/ gang phyir khyod nyid lta bu ni // *rgyu ldan chags pas 'jug pa min /
18d *rgyu] ex coni : sgyu β δ .

/ yathaivāyaṃ tathaivāhaṃ ko viśeṣas tavāvayoḥ /
sarvabhūtasamāḥ santaḥ kṛpāṃ naikatra kurvate // 55.19 //

/ ya thai bā (ya D : yaṃ T) ta thai {T359b} bā haṃ ko bi śe khasta bā ba yauḥ // sarba bhū ta sa
maḥ santaḥ kṛ sānnai ka tra kurbba te // [19]

この者(鳩)があるのと同じように、私があります(この者がどれほど価値があろうと、それと同じ価値
が私にあります)。あなたにとって(tava)わたしたち二者の間に、いかなる違いがあるのでしょうか。
すべての生類に公平な、高貴な人々は、一方の側に同情はしないものです。

/ ji lta 'di nyid de bzhin bdag // khyed la nged gnyis bye brag ci /
/ dam pa 'byung po kun la snyoms // gcig la brtse ba byed pa min /
19b khyed] δ : khyod β (also correct).

/ ity ukte tena nṛpatir līnaṃ kaṅkaṇarāviṇā /
na bhetavyam itīvāha khagaṃ pracchādya pāṇinā // 55.20 //

20d pracchādya] AB : prācchādya E : pracchadya T.

/ i tyukte te na nṛ pa tirlī naṃ ka ka na rā bī ṇā // ne bha ta bya mi tī bā ha kha gaṃ praccha dya
pā ṇi nā // [20]

このようにその者(狩人)が語った時、王はまるで「怖れることはない」と語っているかのような音
を発する腕輪が鳴り響く手で、[彼に]ひたと身を寄せている鳥を覆い隠して ——

/ des 'di smras tshe mi bdag gi // lag pa gdub bu'i sgra ldan pas /
/ 'jigs par mi bya zhes smra bzhin // bya ni phyag gis rab bsgribs te /
20b gdub] δ : gdu β (also correct). 20d phyag gis rab bsgribs] δ : chags pas rab
bsgrims β .

/ sa tataḥ snigdhajīmūtaghoṣagambhīrayā girā /
uvāca sarvasattvārtiparitrāṇakṛtakṣaṇaḥ // 55.21 //

/ sa ta taḥ snigdha jī mū ta gho ṣa (gambhī D : mbhī T) ra ya mi ba // u bā ca sarbba satvārtti pa
ri trā ṇa kṛ ta kṣa ṇaḥ // [21]

そして一切の生けるものの苦しみを救う機会を待ち受けている彼はやさしい、雷鳴の[ような]
深い声で、語った。

/ de nas sems can gzir ba kun // yongs bskyab dus ni byas pa des /
/ char sprin 'jam pa'i sgra dbyangs ltar // zab pa'i tshig gis rab smras pa /
21b des] β : yi δ .

/ mā kṛthāḥ kṣaṇatṛptyarthī viṣamaṃ prāṇivaiśasam /
tulyavyathāvikāro 'yaṃ prāṇasnehaḥ śarīriṇām // 55.22 //

22b vaiśasam] E : vaiśasam AB.

/ ma kṛ thaḥ kṣa ṇa tṛ styarthī bi ṣa maṃ prā ṇi bai śa ma // tu mya bya thā bi kā ro yaṃ prā ṇa
sne haḥ śa rī ri ṇām // [22]

刹那の満足のために、無道な殺生をすべきではありません。この者には[他と]等しく苦しみに
よる[心の]変化(悩み患い)があります。肉体あるものたちは命への愛着をもちます。

Note 22c vyathāvikāro] この表現に関して次を参照: 91.28a vyathāyāṃ nirvikāro 'haṃ.

/ skad cig tshim pa don gnyer bas // mi bzad srog chags gsod ma byed /
/ lus can srog la chags pa yi // gdung ba'i rnam 'gyur mtshungs pa nyid /
22b ma] δ : mi β .

/ paraprāṇāpahāreṇa yā vṛttiḥ parikalpyate /
nivṛttiḥ śreyasām sā hi pāpatāpaṃ prayacchati // 55.23 //

/ pa ra srā ṇa pa ha re ṇa yā bṛttiḥ pa ri kalpya te // ni bṛttiṃḥ śre ya sām ma hi pā pa tā (paṃ D
: pa T) pra {D39a} yaccha te // [23]

他のものの命を奪うことによって生計を営むこと、それは至福からの遠離であり、罪惡による苦
しみをもたらします。

/ gzhan gyi srog ni phrogs pa yis // gang zhig yongs su 'tsho byed pa /
/ de yi dge legs ldog 'gyur te // gang phyir sdig pa'i gdung ba ster /

Note 23c de yi] ここで梵文の sā に合わせて de yi を de *yis とする必要はない。

/ adhunaiv*āparicchinnaṃ *nijecchāsammatam *varam /
gr̥hyatām aśanam yad yan madartham upakalpitaṃ // 55.24 //

24a *āparichinnaṃ] ex coni : āparicchinne AT : āparicchinna BE. 24b

*nījecchāsaṃmatam *varam] ex coni (HAHN) : nījecchāsaṃmatādaram ABE.

/ a dhu nai vā pa ricchinne ni jeccha samma tā da raṃ // gr̥hya tā ma śa naṃ yadyanma dartha
mu pa kalpi taṃ // [24]

絶えざる(*aparicchinna)、御自身の欲求が尊重された、最高の(*vara)、私のために用意されたあらゆる食事を今すぐ、受け取りなさい。

Note 24b *nījecchāsaṃmatam *varam] 写本の nījecchāsaṃmatādaram の読みは、蔵訳もそれを支持する。しかしその読みは表現が明快でなく、ādara という語が抽象的なため、めりはり感がない。va と da の字の読み間違えから、ādaram という読みが起ったと考え、*varam という M. HAHN が提案する conjecture に従う。しかし一詩節の中に三箇所もの訂正があるのは異例なので、最小限の、一箇所の訂正で済ます立場をもし取るならば、āparicchinne *nījecchāsaṃmatādare と読むことが考えられる。その場合は「御自身の欲求が尊重された配慮が途切れることなく続く中で、私のために用意された、あらゆる食事を…」となるう。

/ da lta nyid du ma chad par // rang 'dod yang dag bzhed cing gus /
/ bdag gi don du zas gang gang // nye bar bsgrubs pa blang bar mdzod /
24c gi] δ : gis β .

/ śrutveti rājavacanāṃ parimlānānanaḥ śvasan /
varopabhogavimanāḥ pratyabhāṣata lubdhakaḥ // 55.25 //

/ śru tve ti rā ja ba ca naṃ pa ri mla nā na nāḥ śva pa na // ba ro (ba D : pa T) bho ga bi ma
{T360a} nāḥ pra tyā bhā ṣa ta lubdha kaḥ // [25]

王の言葉を聞いて、失望した顔で、賜物(vara)の享樂を喜ばない狩人は、ためいきをつきながら、返答した。

/ ces pa rgyal po'i tshig thos nas // yongs su bzhin log shugs rings can /
/ longs spyod mchog la yid byung ba'i // rñgon pas lan ni rab smras pa /

/ na vayaṃ rājabhogānāṃ rasajñā vanavāsinaḥ /
na hi śaṣpāśanābhyāsā modante modakair mṛgāḥ // 55.26 //

26b rasajñā vana] BET : rasajñā[dhṛ]vana A(post corr.) : rasajñā[ghṛ]vana A(ante corr.).

/ na (pa D : ba T) yaṃ rā ja bho gā nāṃ ra sā jñā ba na bā si naḥ // na hi śa syā śa na nāmbā sā
mo dante mo da kai mṛ gāḥ // [26]

われわれ森に住む者は、王の食事の味を理解できない者です。若枝の食事が習慣となった鹿たちは、砂糖菓子で喜びません。

/ bdag cag nags na gnas rnams kyis // rgyal po'i longs spyod ro mi shes /

/ 'bru zas nyams su ma myong ba'i // ri dwags la dus dga' ma yin /

26d dwags] β : dags δ .

Note 26c] ここで蔵訳者は śaṣpa を 'bru つまり sasya と読み間違えたのに連動して、abhyāsāḥ を別な語か意味にとつたらしい。「穀物を食べることを享受しない鹿は」と訳す。nyams su ma myong ba'i を自然に還梵すると *ananubhūta か *anāsvāda となる。

/ alabdhvā niṣpattrāṃ maruparicitāṃ kaṇṭakalatāṃ

vane snigdhaśyāme kim api karabhāḥ śuṣyati śucā /

na kākaḥ *saṃpākaṃ kavalayati cūtaṃ viṣam iva

svabhāvānāṃ bhedād ucitam iha sarvasya sukhadam // 55.27 //

27c *saṃpākaṃ] ex conī, confirmed by tib. rab smin (Skt. *saṃpākaṃ) : satpākaṃ ABE.

/ a labdhā niṣpa traṃ ma ru pa ri ci tāṃ kaṇṭa ka la tāṃ ba ne snigdha śyā me ki ma pi ka ra
bhāḥ śu śya ti śu cā // na kā kaḥ satpā kaṃ ka ba la ya ti cū taṃ bi ṣa mi ba sva bhā bā nāṃ bhe
dā du ci ta mi ha sarbba sya su kha daṃ // [27]

砂漠でよく見かける (paricita)、葉がない、とげとげのつる草が見つからないため、べとべとした(湿気ある)深緑の森において、駱駝が苦しげに (śucā) 干からびてしまうのはどうしてだろうか。カラスは、よく熟したマンゴーを食べたりしない、まるで毒のように。さまざまな自性の違いにより、[各自に]適したものが、この世ではすべての者にとって、快を与えるものである。

Note 27c satpākaṃ] この語は蔵訳では rab smin と訳され、原語として *saṃpākaṃ が推測される。しかし saṃpāka の語が形容詞として「熟しきった」の意味で使われる用例は辞書に無く、*saṃpākaṃ と読むのは無理がある。写本どおり satpākaṃ 「よい成熟を有する」と読む。

/ tsher ma'i 'khri shing 'dab med mya ngan dag la yongs 'dris ma thob nas // nags

tshal ljang zhing snum par rnga mo mya ngan dag gis ci yang skam /

/ tsū ta rab smin dug bzhin bya rog gis ni za bar mi byed de // rang bzhin dag gi

dbye bas 'os pa 'dir ni kun la bde ba ster /

28b par] δ : pas β . 28c tsū] D : tsu β T. 28d dag gi] δ : dag gis β || ster] δ : ste β .

/ rājārhabhogam bhuktvādyā prātar bhoktāsmi kiṃ punaḥ /

tad bhuktaṃ sukham ādhatte yad anyedyur na durlabham // 55.28 //

/ rā jārha bho gam bhugtva (dya D : bya T) prā tarbhoktrā smi kiṃ pu naḥ // tadbhaktam

{D39b} su kha mā dhante ya da nya dyu na durla bhaṃ // [28]

王に価する食事を今日食べて、明朝は私は何を再び食べるでしょうか。別の日でも容易に得られる食事が、[人に]快を与えるのです。

/ rgyal la 'os zas dīng zos nas // nang par slar yang bdag ci za /
/ gang zhig nyin gzhan rnyed dka' min // de dag zos na bde ba skyed /
28d skyed] δ : bskyed β .

/ rasodārāhārair na hi paricito 'śnāti virasaṃ
na tiṣṭhaty ekākī bahuparijanārambhapatitaḥ /
rathārūḍhaḥ padbhyāṃ gamanasamaye śocatitarāṃ
avāptārthabhraṃśaḥ kaṣati viṣamakleśāparusaḥ // 55.29 //

29d avāptārtha] AET, confirmed by tib. don thob : avātārtha B: avāttārtha Ed. Cf. de JONG.

/ ra so dā rā ha re na hi pa ri ci taśnā ti bi ra sanna tiṣṭha tye kā kī ba hu pa ri ja nā raṃ bha pa ti
taṃ // ra thā ru ḍhaḥ padbhya ma ma na sa ma ye śo ca ti ta rā ma bāptārtha bhraṃ śaḥ ka ṣa ti bi
ṣa ma kle śa pa ru ṣaḥ // [29]

味がすばらしい食事に慣れ親しんだ人は、味気ない[食事]が食べられない。取り巻きの人たちの多くの行為の中にいる人は、たった一人で住むことができない。[いつも]車に乗る人は、両足で行かねばならない時はとても苦しむ。[一度]得た財産の喪失は、耐えがたい煩悩のゆえに激烈で、[財を失った人を]苦しめる。

/ rgya che ro ldan kha zas yongs 'dris ro dang bral ba za mi byed // 'khor gyi
rtsom pa mang por ltung rnams gcig pu nyid du gnas mi byed /
/ shing rta zhon pa rkang pas 'gro ba'i dus na shin tu mya ngan byed // don thob
nyams na mi bzad nyon mongs rtsub mor shin tu gdung bar byed /

29a za] β : zad δ . 29b por] δ GQ : po N || ltung] β : lhung δ . 29d mor] δ : mos
β .

/ deva tvadṛṣṭidrṣṭānāṃ satataṃ naiva durlabhaṃ /
rājārhabhojanaṃ kiṃ tu janmāpūrvam na me priyam // 55.30 //

/ de ba tvadṛṣṭā ḍṛṣṭā (nā D : nām T) sa ta taṃ nai {T360b} ba durla bhaṃ // rā jāra bho ja
naṃ kiṃ tu janma pūrbbaṃ na me pri yaṃ // [30]

王よ、あなたの目によって見られた[人々]にとって、王にふさわしい食事は、常に入手し難いものではありません。しかし王にふさわしい食事は、私にとっては、生まれて初めてのことで、好

ましいものではないのです。

/ lha gcig rgyal po la 'os zas // khyod kyi spyan gyis gzigs rnams la /
/ rtag tu rnyed dka' min mod kyang // skye bar sngon med bdag mi dga' /
30a gcig] δ : cig β . 30b gyis] GQT : kyis DN

/ mṛgayābhihataṃ māṃsam asmākaṃ jīvitāyate /
tat svadehasamutkṛtaṃ khagadviguṇaṃ arpyatām // 55.31 //

/ mṛ ga yā bhi ha taṃ mānsā mas mā kaṃ jī bi tā ya te // tatsva de ha sa mutkṛtaṃ kha gaṃ dvi
gu ṇa marbba tāṃ // [31]

狩猟によって殺された肉は私たちにとって命の糧です(命同然です)。それゆえ、[あなた]自らの
身体から切り取られた、鳥の二倍のそれ(肉)をお与えください。

/ rñgon pas mñgon par bsad pa'i sha // bdag cag rnams kyi srog ltar spyod /
/ des na rang lus rab chod la // bya yi nyis 'gyur sbyin par mdzod /
31d nyis] δ : gnyis β .

/ cintāviṣaṇṇaḥ śrutvaitad vacanaṃ sahasā nṛpaḥ /
prahaṣotphullanayanāmbhoroḥ tam abhāṣata // 55.32 //

/ cittā ba ṣaṇṇaḥ śru tvai tadba canaṃ sa ha sā nṛ paḥ // pra haṣatphulla na ya nāṃ bho ru hasta
ma bhā ṣa taḥ // [32]

心が沈んでいた王は、この言葉を聞くや否やすぐさま、蓮のような目を歓喜によって大きく開
き、彼に語った。

/ mi bdag bsaṃ pa 'khrugs pa yis // tshig de thos nas 'phral la ni /
/ dga' bas spyan gyi chu skyes dag / rab tu rgyas pas de la smras /

/ khagasya tava ca prāṇaraksāyai tulyasaṃśaye /
mamopadiṣṭaḥ spaṣṭo 'yam upāyaḥ sudhiyā tvayā // 55.33 //

/ kha ga sya ta ba ca prā ṇa rakṣā yai tu lya saṃ śa yai // {D40a} ma mo pa diṣṭaḥ spaṣṭo ya mu
pā yaḥ su dhi yā tva yā // [33]

[鳥とあなたの]命の守護をするために、鳥とあなたが同じ困難[に直面した]時に、賢いあな
たによって、私の[なすべき]この方法が明白に示されました。

/ bya dang khyod kyi srog dag ni // bsrung slad mtshungs pa'i the tshom la /
/ blo bzang khyod *kyis thabs 'di ni // gsal bar bdag la nye bar bstan /
33c *kyis] ex con : kyis β δ .

/ ubhayaprāṇasaṃdehadolārohaṇavihvalam /

tvayaiva dhṛtim ānītaṃ vayasyeneva me manaḥ // 55.34 //

/ u bha ya prā ṇa sande ha do lā ro ha ṇa bi hva laṃ // tva yai ba dhṛ ti mā nī taṃ ba ya sye ne
ba me ma naḥ // [34]

両方の命のジレンマという、[揺れる]ブランコ(dolā)に乗って悩み苦しむ私の心は、まるで友人のような、あなたによって固い決心に導かれました。

/ gnyis ka'i srog la the tshom gyi // khyogs la zhon pas 'khrugs gyur pa /

/ bdag gi yid ni grogs kyis bzhin / khyod nyid kyis ni brtan par byas /

34a gyi] NQ : gyis δ G.

/ tvaddṛṣṭipāśabaddho 'yaṃ vihaḡaḡ pravimucyatām /

manmāṃsaiḡ kriyatām tāvat saṃprati prāṇadhāraṇam // 55.35 //

/ tva dhṛṣṭi pā śa baddho yaṃ bi ha ḡaḡ pra ti mu cya tāṃ // manma saiḡ kṛ ya tāṃ tā bat saṃ
pra ti prā ṇa dhā ra ṇam // [35]

あなたの視線という投げ縄に捕まったこの鳥は逃がしなさい。今はとりあえず私の肉によって命を保ちなさい。

/ khyod kyī mig zhags kyis bcings pa'i // bya 'di rab tu gtang bar mdzod /

/ da lta nyid du bdag gi shas // re zhig srog gi gzungs thag mdzod /

35a kyī] δ : kyis β . 35c gi] β : gis δ || shas] Q : shis δ : shes N : bshad G.

/ rājñā satyapratijñena kārūṇyād ity udīrite /

amātyā mumuhur viddhā viśadigdhaiḡ śarair iva // 55.36 //

/ rā jñā sa tya pra ti jñe na ka ru ṇya di dyu dī ri tiḡ // a mā tyā mu mu hurbbiddhā {T361a} bi
ṣa digdhiḡ śa rai ri ba // [36]

真実な約束を有する王が、憫れみから、このように語った時、毒が塗られた矢に貫かれたように、大臣たちは気を失った。

/ rgyal po dam bca' bden pa yis // snying rje las ni 'di brjod tshe /

/ dug ldan mda' yis phug pa bzhin // blon po rnams ni rmongs par gyur /

36a bca' bden] β : bcas 'den δ .

/ na dānāvasare vācyam sacivair me hitāhitam /

ity abhūt samayas tasya śarīratyāḡaniścayaḡ // 55.37 //

/ na dā nā ba sa re bā cye sa ci bairmme hi tā hi tā hi taṃ // i tya bhūtsa ma yasta sya śa rī ra
tyā ga niśca yaḥ // [37]

「布施の機会においては、友(大臣)らによって私の利益や不利益が語られるべきではない」
と、彼は捨身の決意としての取り決めを有した。

/ sbyin pa'i skabs su phan mi phan // grogs kyis bdag la brjod mi bya /
/ zhes pa de yi dam tshig gis // lus ni gtong bar nges par gyur /

/ athābravīn narapatis tasmai vittam prayacchata /
tulām āropayati me mām̐sam utkr̥tya yas tanoh // 55.38 //

38c tulām] E, confirmed by tib. srang (Skt. *tulām) : tulyam ABT.

/ a tha bra bīnna ra pa ti stasmai bittam pra yaccha taḥ // tu lya mā ro pa ya ti me mām̐ sa
mudkr̥tya yasta noḥ // [38]

そして王は語った。私の体から肉を切り取って天秤に載せる人に財をあなたがたは与えなさい。

/ de nas mi bdag gis smras pa // gang zhig bdag gi lus las sha /
/ bcad nas srang la 'debs byed pa // de la nor ni rab tu byin /

38d byin] β : sbyin δ .

/ hiraṇyavarṣiṇā rājñā samāhūtās tato janāḥ /
kukarmakūṇitadhiyaḥ pidhāya śravaṇau yayuḥ // 55.39 //

/ hi ra ṇya barṣi ṇa rā jñā {D40b} sa mā hū tāsta to ja naḥ // ku karmma kū ṇi ta dhi yaḥ pi dhā
ya śra ba ṇe ya yuḥ // [39]

すると黄金を雨降らす王によって呼びかけられ、悪行に対して心を閉ざし、[制止の声に]両
耳をふさいだ人々は、[王のもとに]行った。

/ de nas rgyal po gser gyi char // 'bebs pas bos pa'i skye bo rnams /
/ ngan pa'i las kyi blo rmus phyin // rna ba bsgribs shing song bar gyur /

/ ekas tu dāruṇamatir nāmnā kapilapiṅgalah /
abhūt kanakam ādāya samnaddhaḥ krūrakarmaṇi // 55.40 //

/ e ka stu dā ru ṇa ma tira namnā ka pi la piṃ ga lah // a bhutka na ka mā dā ya sanna ddhaḥ
kru ra karma ṇiḥ // [40]

ダールナ・マティ(残酷な心)という、茶色・赤茶色の[目の]或る男は黄金を受け取って、残酷
な仕事の準備をした。

Note 40ab dāruṇamatir nāmnā kapilapiṅgalaḥ]「茶色・赤茶色」の解釈は難しいが、第56偈を見ると、piśaṅga-puruṣa (赤茶色の男)と呼ばれている。kapila, piṅgala, piśaṅga は同じ色を別の語で言換えているにすぎないと思われる。なお蔵訳は、残忍な心という名の「目が茶色・赤茶の者」と解釈している。piṅgala には pw によれば "rötlich-braune Augen habend" (MW: "having reddish-brown eyes") という意味がある。

/ gdug pa'i blo zhes bya ba gcig // ser skya'i mig ni ser po yis /
/ gser dag blangs nas gdug pa yi // las la chas su zhugs par gyur /

/ saralacchedadakṣāṇām vakrāṇām ca nisargataḥ /
krakacānām iva krauryāt kim akṛtyaṁ durātmanām // 55.41 //

41b vakrāṇām] AT, confirmed by tib. 'khyog pa yi (Skt. *vakrāṇām) : cakrāṇām BE.

/ sa ra la cchai dā dakṣā ṇām ba krā ṇām ca ni sarga taḥ // kra kā cā nā mi ba krautyā ta ki ma
kṛ tyam du rātma nām // [41]

まっすぐな[木]を(sarala)切る能力があっても、自然に(nisargatas)歪んでいる(vakra)、たちの悪いノコギリには、硬さにより(krauryāt)、切ってはならないものがないように、生まれつき(nisargatas)ねじけた(vakra)、悪しき本性の者には、正しい者を(sarala)処刑する資格が与えられた時、残忍さの故に(krauryāt)、してはならない仕事はどうしてあろうか(罪の行為でもするであらう)。

Note 41d akṛtya] これは「してはならない仕事」(akṛtya) = 「切ってはならないもの」(akṛtya, akartya)の言葉遊び。Cf. SCHMIDT, Nachtr, s.v. kṛtya ("= bhedyā").

/ gdug pa las ni sog le bzhin // drang po gcod la mkhas gyur cing /
/ rang bzhin gyis ni 'khyog pa yi // gdug pa'i bdag nyid ci mi byed /
41a pa] T : pa'i β D. 41c 'khyog] δ : 'khyogs β .

/ na śāstraiḥ śakyam yad vidalayati tat kelivacasā
na śakyam yad vaktum kim api kurute tac ca sahasā /
na śakyam kartum yat tad api kalayaty eva manasā
khalāḥ sarvāścaryam kirati caritair apratihataḥ // 55.42 //

/ na śāstram śaktam yadbi da la ya ti tatke li ba ca sā na śa kyaṁ yadbaktum ki ma pi ku ru te
taccha sa ha sā // na śa kyaṁ kartum {T361b} yatta da pi (kā D : ka T) la ya tye ba ma na sā kha
laḥ sarbbaścaryam ki ra ti ca ri tai ra pra ti ha taḥ // [42]

[悪人は]武器によって[壊す]ことの出来ないものを、戯言で破壊する。言うことができないようなことを、何でもただちに実行する。実行できないことでも、心の中で思念する。邪悪な者は(khala)、抑止不可能であり(apratihata)、[身口意の]さまざまな行いによって、あらゆる信じ

がたいこと(害)をまき散らすものだ。

/ gang zhig mtshon gyis mi nus de dag kyal ka'i tshig gis 'joms par byed // gang
zhig brjod par mi nus ci yang de dag 'phral la sgrub par byed /
/ gang zhig bya bar mi nus de dag kyang ni yid kyis sems par byed // ma bsdams
brlang po dag gis spyod pas ngo mtshar thams cad rgyas par byed /
42a zhig] β : gi δ . 42b sgrub] δ : bsgrub β . 42d brlang] β : glang δ . || gis] β T
: gi D.

/ sa pārāvatam āropya tulām atha mahīpateḥ /
dakṣiṇorusamutkṛttaṃ māṃsaṃ tattulyam ādadhe // 55.43 //

/ sa pā rā ba ta mā ro pya tu lā ma tha ma hi pa tiḥ // dakṣi ṇo kaṃ sa mutkṛttaṃ mānpa tattū
lya mā da dhe // [43]

彼は鳩を天秤に置くと、次にそれに等しい重さの、王の右太股の切った肉を置いた。

/ de nas de yis phug ron ni // srang la gzhal nas sa bdag gi /
/ byin pa g.yas pa'i sha dag ni // rab bcad de dang mtshungs par bkod /
43b gi] β : gis δ .

/ prathamair atha bhūbhartuḥ sprṣṭā rudhirabindubhiḥ /
vighūrṇamānā suciraṃ vihvalevābhavan mahī // 55.44 //

/ pra tha me {D41a} ra tha bhū bhartuḥ sprṣṭa ru dhi ra bindu bhiḥ // bighurṇa mā nā su ci
raṃ bi hva le bā bha batma hī // [44]

大地を支える者(王)の最初の血の滴りが大地に触ると、大地は長い間、大揺れしつづけた、
まるで[悲しみに]惑乱したかのように。

/ de nas sa yi bdag po yi // khrag thigs dang po reg pa yis /
/ 'khrugs pa bzhin du sa gzhi ni // yun ring rnam par g.yos par gyur /
44a po yi] δ : po yis β . 44b yis] β : yi δ .

Note 44b reg pa yis] ここで蔵訳者は sprṣṭā rudhi を sprṣṭa-rudhi と読んだ可能性がある。T の sprṣṭa ru
dhi ra の読みはその推測を支持する。

/ pārāvate 'tha gurutāṃ māṃse ca laghutāṃ gate /
dīyatāṃ anyad utkṛtya māṃsam ity āha bhūpatiḥ // 55.45 //

/ pā rā ba te tha gu ru tāṃ mānpe ca la ghu tāṃ ga te // dī ya tā mā nya dutkṛtya māṃ sa mi tyā
ha bhū pa tiḥ // [45]

鳩が重く、肉が軽いように[秤が]傾いた時、「別の肉を切って与えよ」と王は言った。

/ de nas phug ron lci ba dang // sha ni yang ba nyid gyur tshe /
/ sha ni gzhan dag rab chod la // byin zhes sa yi bdag pos smras /

/ kṛttorubhujamāṃse 'pi na prāpte khagatulyatām /
trailokyasaṃśayatulām āruroha tulām nṛpaḥ // 55.46 //

/ kṛtto ru bhu ja māṃ se pi na prāpte kha gaṃ tu lya tām // trai lo kya saṃ śa ya tu lā mā ru ro
ha tu lā nṛ pa taḥ // [46]

[新たに]切り取られた太股や腕の肉も鳥[の重量]と同じにならなかった。全世界の疑念
が[揺れ動くかに]似た(tulā)、[揺れ動く]秤の上に、王は[自ら]乗った。

/ brla dang dpung pa'i sha bcad kyang // bya dang mtshungs pa nyid ma gyur /
/ 'jig rten gyi ni the tshom dang // mtshungs pa'i srang der mi bdag zhugs /
46d zhugs] β : bzhugs δ .

Note 46d zhugs] cf. LC s.v. zhugs pa "(6) ārūḍha".

/ nṛpatau svayam ārūḍhe snāyuseṣatanau tulām /
tattyāgadurgrahodvignā yayau kīrtir digantaram // 55.47 //

/ nṛ pa tau sva ya ma rū ḍhe snā yu śe śa ta nau tu lām // tatyā gā durgra hodbignā ya yau
kīrttardi ganta raṃ // [47]

腱が残っている[だけの]体を有する王が、自ら天秤の上に載った時、この捨身の理解しがた
さの故に戦慄した名声は、他の空間(天空)にまで届いた。

/ mi bdag chu rgyus lhag ma'i lus // rang nyid srang la 'dzegs pa'i tshe /
/ de yi gtong ba bzung dka' bas // yid byung grags pa phyogs mtshams song /
47c bzung] δ : gzung β .

/ tasmin kṣaṇe kṣītipater aparikṣatena
dhairyeṇa vismayamayas tridaśāṅganānām /
dhammillamālyaparipūritapāṇipadmah
pūjādarah kim api taccarite babhūva // 55.48 //

48c dhammilla] keśa (as gloss in the margin) A.

/ tasmina kṣa ṇe kṣi ti pa te ra pa ri kṣa te nā dhairye ṇa bisma ya ma yastri {T362a} da śāṃ ga
nā nām // mammalla mā lya pa ri pū ri ta pā ṇi padmah pū jā da rah ki ma pi taccha ri tā ba bhū
bah // [48]

まさにその時(刹那)、彼の行為に対して、礼拝[を強く欲する]敬いの心が(ādara)天女たちに甚だしく(kim api)生じた。[その敬いの心は]王の減じることがない堅固心に起因する驚愕から成り、またダンミツラの花輪によって満たされた[彼女たちの]蓮のような掌をとまなうものであった。

Note 48c dhammillamālya] ダンミツラ(dhammilla)とは Apte によれば編みあげた髪を頭に巻きつけて花や真珠をちりばめた女の髪形である。ダンミツラの花輪とは、天女たちのそのような髪形の頭を飾る花輪であろう。王の英雄的な行為を目の当たりにして、彼を礼拝せんとする欲求があまりに急激に生じたため、天女たちはさしあたって自分の髪に差している花輪を取り、蓮のような両の掌に満たして、それを彼に対して捧げたのである(Hahn の解釈)。

/ de yi dus na sa yi bdag po dag gi brtan pa ni // nyams pa med pas ya mtshan gyur pa'i lha yi bu mo rnams /

/ gtsug phud 'phreng bar 'os pa'i padmos yongs gang lag pa yis // de yi spyod tshul dag la mchod pa'i gus pa ci yang byung /

48a ni] NQ : 'di δ G. 48d yi] δ : yis β .

Note 48c] 蔵訳は「ダンミツラ花輪にふさわしい('os pa'i)蓮華をもって満たされた手をもって」と訳す。

/ nirvikāraṃ samālokya tulārūḍhaṃ mahīpatim /

krūrakārī sa papraccha puruṣas taṃ sasādhvasaḥ // 55.49 //

/ nirbbi kā raṃ sa mā lokya {D41b} tu la rū ḍha ma hī pa tiṃ // krū ra kā rī sa pa praccha pu ru ṣa staṃ sa sā yva saḥ // [49]

[心境・表情に]何ら変化がない、天秤に載った王を見て、恐ろしい仕事をなすその男は畏怖を抱いて、彼に尋ねた。

/ rnam 'gyur med par sa yi bdag // srang la 'dzegs pa mthong gyur nas /

/ skyes bu gdug pa byed pa po // skrag bcas de yis de la dris /

49d bcas] δ : byas β .

/ anena dehadānena na jāne kiṃ tavepsitam /

sarvalābhasamārambhāḥ śarīrārthā hi dehinām // 55.50 //

/ a ne na de ha dā ne na na jā ne kiṃ ta bessa tiṃ // sarbba lā bha sa ma raṃ bha śa rī rārthā hi de hi nām // [50]

「この、身体の布施によって、あなたが何を欲しているのか、私にはわからない。なぜなら生ける者たちは[自分の]からだのために、すべてを得ようと企てるものであるから」。

/ lus kyi sbyin pa 'di yis ni // khyod ni ci bzhed yong mi shes /

/ gang phyir lus can rnyed pa kun // yang dag rtsom pa lus kyi don /

50b yong] NQ : yongs DGT.

Note 50b yong mi] ここに見られる強調の副詞 yong + 否定辞 mi (or ma) + 動詞、という語法について、
次を参照:M. STRAUBE (2006), op. cit., <IeT 46>, S. 46-47.

/ satyaṃ brūhi tanutyāge cittam yadi na khaṇḍitam /

iti bruvāṇaṃ taṃ rājā babhāṣe sasmitānanaḥ // 55.51 //

/ sa tyaṃ bru hi ta nu nyā ge cittam ya di na khaṇḍi taṃ // i ti bru bā ṇaṃ taṃ rā jā ba bhā ṣe sa
smi tā na naḥ // [51]

「真実を語れ、もし体の喜捨に際して、心が壊れた(狂乱した)のでなければ」。そのように語る
彼に、王は微笑んだ顔で、[次のように]語った。

/ gal te lus ni btang la sems // nyams pa med dam bden par smros /

/ zhes smras de la rgyal po ni // bzhin 'dzum ldan pas rab smras pa /

51c smras] δ : smra β .

/ na prāpyam asti me kiṃcil loke 'smin kiṃ tv anuttarām /

hitāya sarvajagatām samyaksambodhim arthaye // 55.52 //

/ na prā pya masti me kiñcita lo kesminkim tva nu tatta rām // hi tā ya sarba ja ga tām
samyaksaṃ bo dhi martha ye // [52]

「私にはこの世では何一つ欲しいものは無いけれども、しかしすべての生けるものたちの利益
のために、無上の正しい完全な悟りを私は欲する」。

/ 'jig rten 'di na ni thob bya // bdag la ci yang med mod kyi /

/ 'gro ba kun la phan pa'i slad // bla med rdzogs pa'i byang chub 'dod /

52b kyi] δ : kyis β .

/ akhaṇḍitam idaṃ cittam yadi satyena tena me /

astu prakṛtim āpannaṃ śarīram aparikṣatam // 55.53 //

/ a khaṇḍi ta mi daṃ citta ya di sa tye na te na me // astu pra kṛ ti mā pannaṃ śa rī ra ma pa ri
kṣa taṃ // [53]

「もしこの心が壊れたのでなければ(狂乱したのでなければ)、その真実[の力]によって、私の身
体は無傷の、もとの形に戻ったものとなれ」。

/ gal te bdag gi sems 'di ni // nyams pa med na bden pa des /

/ lus ni yongs su ma nyams shing // rang bzhin rdzogs pa nyid gyur cig /

53b med] δ : min β .

/ ity udīritamātreṇa satyaśīlasya bhūpateḥ /

aklībacandraruciraṃ rūḍhavraṇam abhūd vapuḥ // 55.54 //

/ i tyu dī ri ta mā tre ṇa {362b} sa tya śī la sya bhū pa teḥ // aklī ba (candra D : caṇḍa T) ru ci
raṃ rū ḍha bra ṇa ma bhūdba suḥ // [54]

そう語ったとたん、[言葉に]誠実たること(satya)を性格とする(śīla)王は、欠損を取り戻した月
(満月)のように輝く、傷が癒された美しい身体を有する者となった。

/ ces pa brjod pa tsam nyid kyis // sa bdag bden pa'i ngang tshul gyis /

/ lus kyī rma ni rab gsos te // ma nyams zla ba ltar mdzes gyur /

54b gyis] δ : gyi β . 54c gsos] δ : bsos β .

/ tataḥ pārāvate yāte lubdhake ca mahotsavaḥ /

bhūpālabhāsvadudaye prakāśavibhavo 'bhavat // 55.55 //

55a yāte] BE, confirmed by tib. song zhing (Skt. *yāte) : pāte A : pate T.

/ ta taḥ pā rā ba te pa te lubdha ke {D42a} ba ma hotpa baḥ // bhū pā la bhā sva du da ye pra kā
śa bi bha bo bha bata // [55]

そして、鳩と獵師が去った時、王という太陽の昇る時に(bhūpāla-bhāsvad-udaye)、輝きに富ん
だ大祝祭があった。

/ de nas phug ron rgon pa dag // song zhing sa skyong 'od ldan ni /

/ shar tshe spro ba chen po dang // rab gsal 'byor ba ldan par gyur /

Note 55b-c] ここで蔵訳を直訳すると「王[という]太陽は、昇る時に大祝祭と輝きに富んだものになった」
となる。

/ sarvaṃdadaḥ kṣitipatiḥ kila yo babhūva

so 'haṃ piśaṅgapuruṣaḥ sa ca devadattaḥ /

tadvṛttasaṃsmaraṇataḥ prasṛtasmito 'haṃ

śrutveti śāstur amarādhīpatir nananda // 55.56 //

56a sarvaṃdadaḥ] BT : sarvaṃdada A.

/ sarbbanda daḥ kṣi ti pa tiḥ ki la yo ba bhū bā so haṃ pi śaṃ ga pu ru ṣaḥ sa ca de ba dattaḥ //
tadvṛtta saṃ sma ra ṇa taḥ pra sṛ tasmi to haṃ śru tve ti śāstu rā ma rā dhi pa tinna nandana //
[56]

実に、サルヴァンダダ(一切施)王であったところの彼は、私であり、その茶色の目の男はデー

ヴァダッタである。その出来事を思いだしたため、私は微笑を發したのだ、と師から聞いて、神々の王は歡喜した。

/ gang zhig nges par sa yi bdag po thams cad ster gyur pa / / de nyid nga yin
skyes bu ser skya de yang lhas byin no /

/ de yi sngon byung yang dag dran nas bdag gis 'dzum pa spros / / zhes pa ston
pa las thos 'chi med bdag po dga' bar gyur /

56b lhas byin] β : lha sbyin δ . 56c gis] δ : gi β .

iti kṣemendraviracitāyāṃ bodhisattvāvadānakalpalatāyāṃ
sarvaṃdadāvadānaṃ pañcapañcāśaḥ pallavaḥ //

sarvaṃdadāvadānaṃ pañcapañcāśaḥ pallavaḥ] AET : sarvaṃdadāvadānaṃ (om.
pañcapañcāśaḥ pallavaḥ) B.: ~āvadānaṃ nāma pañcapañcāśattamaḥ pallavaḥ Ed.

i ti kṣe mendra bi ra ci tā yāṃ bo dhi satvā ba dā na kalpa la (tā D : ta T) yāṃ sarbbanda dā ba
dā naṃ pañca pañca śaḥ palla vaḥ //

以上、クシェーメンドラ作『菩薩のアヴァダーナの祈願成就の蔓草』における「一切施[王]
のアヴァダーナ」という第55の小枝(章)。

/ ces pa dge ba'i dbang pos byas pa'i byang chub sems dpa'i rtogs pa brjod pa
dpag bsam gyi 'khri shing las thams cad ster ba'i rtogs pa brjod pa'i yal 'dab ste
lnga bcu rtsa lnga pa'o /

(Colophon:) ces pa] β T : zhes pa D

第55章の非重要な異読の報告

1. チベット訳の諸版の正字法上の異読

以下、]] という特別な記号を用いるが、その記号より前にある語形が、校訂テキストの語形であり、その記号の後ろにある語が、或る版の正字法上の異読を示す。

4b nam mkha']] namkha' G. **7c** rjes su]] rjesu G. **8b** rin chen] β D : rin cen T. **12b** 'phreng]
δ : phreng β. **23b** yongs su]] yongsu G. **25b** yongs su]] yongsu G. **26c** nyams su]] nyamsu G.
37a skabs su]] skabsu G. **48c** 'phreng] δ : phreng β. **53c** yongs su]] yongsu G.

2. チベット訳の諸版の特殊な異読 (Sonderlesungen)

以下、]] の記号より前にある語形が、校訂テキストの語形(正しい語形)であり、その記号の後ろにある語が、或る一つの版の特殊な異読を示す。例えば、1a rlabs]] blabs G. という記述は 1a rlabs] DNQT : blabs G と表現するのと全く同じであり、それは STRAUPE (2006), S. 245 の

記述の仕方なら blabs st. rlabs G と表現される。

1b yong su]] yongsu G. **4b** la]] las G. **5c** gi]] gis G. 11d 'phral]] 'pral G. **19b** ci]] cig G. **20c** bzhin]] ni G. **25b** log]] logs G. 25d000 lan]] las G. **28d** pa]] pa'i G. **30c** tu]] su N. 35a bcings]] bcing G. **39b** 'bebs]] 'beb N. **46a** sha]] bsha G. **46d** srang]] sang D. **47b** la]] ma T. **53d** cig]] te G. **56b** yin]] yir Q. **56c** spros]] spro G.

3. 梵文写本における特殊な異読 (Sonderlesungen)

以下、]] の記号より前にある語形が、私の校訂テキストにある語形(正しい語形)であり、その記号の後ろにある語形が特殊な異読を示す。これは写本の中に沢山ある無意味な書き誤り等の異読をすべて本文の異読注として挙げると、真に重要な異読がそれらの無視してよい異読の中に埋もれてしまい、見えづらくなってしまうので、そうならないようにする配慮として、本文の異読注とは別に記するものである。本文の異読注には重要な異読のみを挙げた。

1a dātā]] dārā B. **1c** samucitāni]] samacitāni E. **2c** keśinikānanād]] keśinikānikānanād B. **2cd** anyad vanam]] anyaddhanam B. **3b** vadanaḥ smita]] vadanasmīta B. **6a** śobhā]] śobhrā B || sāra]] śāra B. **6b** sthiter vinaya]] sthitevinaya B || vartmani]] vratmani B. **7a** kadācit]] kadākācit B. **9b** saṃkrāntāḥ]] saṃkrāntā B. **9d** tatyajur]] tattyajar B. **10d** aśīśriyat]] aśīśrayat AE. **11a** taṃ]] ta BE. 11b netraṃ]] netra B. **12c** kuto 'sya bhayam ity āśā]] kutosā bhayabhīty āśī B. **13d** ābravīn nṛpaṃ]] ābravīnṛpaṃ B. **14a** cirāvāptaṃ]] cirārāptaṃ B. **14b** vihaṃgamam]] vihagamam B. **15a** nisarga]] nisargā B. **15b** jagatī]] jagadī B. **16a** kṣaṇe 'sminn]] kṣaṇarasminn B. **16c** vinamṣyati]] vilakṣyati B. **17a** eka]] ekaḥ E. **19a** yathevāyaṃ tathevāhaṃ]] yathaivāyaṃ tathaivāhaṃ A. **19d** naikatra]] nekatra B. **20c** na]] ne B. **21ab** snigdhañīmūtaghoṣagambhīrayā]] snigdhagaṃbhīrajīmūtaghoṣayā B. **23c** śreyasāṃ]] śreyasī E. **23d** pāpa]] pāpaṃ E. **24a** adhunaivā]] adhunevā A. **25b** parimlānānanaḥ]] pariññānānanaḥ B. **25c** varopabhoga]] rājopabhoga E. **26c** śaṣpāśanābhyāsā]] saṣyāśanābhyosā B. **27a** alabdhvā *niṣpattraṃ]] alabdhā niḥpatraṃ B || maru]] miru E. **27c** kākaḥ]] kāka B. **28c** bhuktaṃ]] bhaktaṃ B. **28d** anyedyur]] anyadyur B. **29d** kaṣati]] kaśati B. || paruṣaḥ]] śaruṣaḥ A. **30a** dṛṣṭānāṃ]] dṛṣṭānā B. **30d** na me]] na ma E. **31a** māṃsam]] māṃsaṃ B. **31d** arpyatām]] arpatām B : arpratām E. **32a** viṣaṇṇaḥ]] viṣaṇaḥ B || śrutvaitad]] śrutvetad A. **33b** saṃśaye]] saṃsaye B. **34c** dhṛtim]] dhṛtam B. **34d** vayasyeneva]] vayasyenedha E. **35b** pravimucyatām]] pratimucyatām E. **36d** digdhaiḥ]] diḥgdhaiḥ E. **37a** dānāvasare]] donāvasare A. **38a** athābravī narapatis]] athābravī narapati B. **39a** rājñā]] rājā B. **39b** janāḥ]] dvijāḥ B. **39d** śravaṇau]] śravraṇau E. **41a** sarala]] śarala ABE. **41c** krakacānām]] krakacānām B. **42c** kalayatya]] kalayaṃtya B. **43c** dakṣiṇoru]] dakṣiṇeru B. **44c** vighūrṇa]] vighurṇa B. **46c** trailokya]]

trelokya A. **47a** ārūḍhe]] ārūḍhai B. **47c** durgraho]] dugraho B. **48a** tasmin]] tasmi B. **48b** dhairyēṇa]] dheryēṇa A. **48c** dhammilla]] dhammilya B || mālyā]] pāśa E. **51b** khaṇḍitam]] khaṇḍitraṃ E. **52c** jagatām]] jagamṭām E. **53d** aparīkṣatam]] aparīkṣatam A : uparīkṣatam B. **56a** sarvaṃdadaḥ]] sarvaṃdada E. **56b** piśaṅga]] piśaṅgu B. **56c** saṃsmaṇaṇa]] sasmaṇa B.

Avadānakalpalatā, 91 Śibisubhāṣitāvadāna

D: Khe 239a3-242a6 Q: Ge 321b6-323a7 N: Ge 289b7-291b1

G: Khe 411a6-413b4 T: 539a5-542a2

Skt. Mss.: A *353b1-*355a5; B 119a11-121a6; E 112b2-114b4

/ subhāṣitam satyapathaprakāśanam karoty anālokapadeṣu dīpavat /
sadopakārād ata eva vallabham vivekacarcāsu mahātmanām api // 91.1 //

1b padeṣu dīpavat] ABE : pade sudīpavat Ed. Cf. de JONG. 1d carcāsu] BE : carcāsu
A : caryāsu Ed. : tib. spyod la (Skt. *caryāsu?; v. note below).

/ {D239a3, T539a5} su bhā ṣi tam sa tya pa thā pra kā śa nam ka ro tya nā lo ka pa de ṣu di pa
bata / sa do pa kā rā da ta e ba balla tam bi be ka ca cā su ma hātma nā ma pi // 91.1 //

光が無い場所における燈明のように、善説(金言)は真理の道を照らし出す。[善悪の]判断熟慮において常に役立つので、まさにそれゆえ[善説は]、偉大な人々にも、愛好される。

Note 1d vivekacarcāsu] この読みは ABT に拠る。しかし Ed. は viveka-*caryāsu と訂正して読み、蔵訳 spyod la がその *caryāsu の読みを支持する。もし後者の読みを取るならば「独居(世を遠離した生活 cf. BHSD s.v. viveka)における行いにおいて」と訳せるが、しかし文脈への適合性から考えて lectio difficilior である carcāsu の読みを取るべきである[Sugg. HAHN]。viveka-carcāsu の表現は「[正しい]判断をしようと熟慮する時に」という意味と、「独居において、繰り返し読誦する時に」という意味の、二重義をもつ。蔵訳 spyod la は写本を caryā と誤読した誤訳の可能性があるが、しかし本来は *dpyod la ときちんと訳されていたのに、後で spyod la と崩れた可能性も考えられる[Sugg. HAHN]。蔵梵辞典 Tshe ring dbang rgyal によれば dpyod pa = carcā (= carcā) である(J. BACOT (1930): *Dictionnaire Tibétain-Sanscrit*, 102b)。なお carcā の語が dpyod と訳されている他の用例を Kalpalatā 蔵訳中を探してみたが、19.70b, 30.1c, 41.45b, 51.45c, 53.43c, 59.1c に carcā の語が見出されるものの、それらの箇所においては dpyod の訳語で訳されていない。HAHN が提案する *dpyod la (= carcāsu) から spyod la へ誤伝した仮説は今のところ典拠が不十分なので、蔵訳校訂文では *dpyod la と訂正せず、一応 spyod la の形のままにしておく。

/ snang ba med pa'i gnas rnams dag tu sgron me bzhin // legs par bshad pa bden
 pa'i lam ni gsal bar byed /
 / de nyid phyir na rtag tu nye bar mkho ba las // bdag nyid che rnams dben pa
 spyod la yid du 'ong /
 1a me] δ : ma β . 1c na] β : ni δ (also possible) || mkho] δ : 'kho β (also right).
 1d dben] β T : bden D.

/ kuśīpuryām bhagavatā yadā mallajanāspade /
 arhatpadaṃ bhikṣugaṇaḥ prāpitaḥ kuśalaiṣiṇā // 91.2 //

/ ku śī suryām bha ga ba tā ya dā malla ja nā spa de / arhatpa daṃ bhikṣu ga ṇaḥ prā pi taḥ ku
 śa lai {T539b} śi śā // 91.2 //

マツラ族が住む地、クシ城において、善を求める方、世尊によって一群の比丘たちが阿羅漢
 の境地に導かれた時のことであるが、

Note 2a kuśīpuryām] クシ城 kuśi-purī とは P. kusinārī, Skt. *kuśinagarī のこと。

/ gang tshe gyad kyi skye ba'i gnas // ku sha'i grong du bcom ldan 'das /
 / dge ba 'tshol bas dge slong tshogs // dgra bcom gnas la bkod gyur pa /
 2a ba'i] δ N : bo'i GQ. 2c 'tshol] δ : tshol β || slong] β T : ba'i D.

/ tadā kathayatām dharmaṃ bhikṣūṇāṃ madhuraṃ mithaḥ /
 svayaṃ śuśrāva sugataḥ prītiyuktaḥ subhāṣitam // 91.3 //

3d prītiyuktaḥ] A(post corr.) : pratiyuktaḥ A(ante corr.)BE.

/ ta dā ka tha ya tā dharmmaṃ bhikṣu ṇāṃ ma dhu {D239b} rammi thaḥ / sva yaṃ śu śrā ba su
 ga taḥ prī ti yuktaḥ su bhā śi taṃ // 91.3 //

その時、耳に快い教法をお互いに語り合っている比丘たちの善説を、世尊は喜びをもって自
 らお聞きになった。

/ de tshe phan tshun snyan par chos // smra byed dge slong rnams dag gi /
 / legs bshad bde bar gshegs pa ni // dgyes pa dang ldan rang gis gsan /
 3b gi] β : gis δ .

/ subhāṣitavyasanitām tām dṛṣṭvā tasya bhikṣavaḥ /
 tam ūcus tava sarvajña katham asmadvacaḥ priyam // 91.4 //

/ su bhā śi ta bya sa ni tāṃ tām dṛṣṭvā ta sya bhikṣa baḥ / ta mū custa ba sarba jña ka tha
 mas mādba caḥ pri yaṃ // 91.4 //

かの[仏]の、その善説への愛好を比丘たちは見て、彼に語った。一切智よ、私たちの言葉をあなたが好まれるのはなぜなのですか。

/ de yi legs bshad la gcags pa // de mthong dge slong rnams kyis ni /
/ de la gsol ba kun mkhyen nyid // nged kyi tshig la ji ltar dgyes /
4a bcags] GN : gcags ḍ Q.

/ ity ukte bhikṣusamṅghena bhagavān abhyadhāḥ jinaḥ /
janmāntareṣv api paraṃ vallabhaṃ me subhāṣitam // 91.5 //

/ i tyukte bhikṣu saṃ ghe na bha ga bā na bhya dhajji naḥ / janmānta re ṣva pi pa ra balla bha
me su bhā ṣi taṃ // 91.5 //

そのように比丘僧伽に尋ねられて、世尊・勝利者は語った。他の生においても私は善説がと
ても好きであった。

/ dge slong tshogs kyis de brjod tshe // bcom ldan rgyal bas bka' stsal pa /
/ bdag ni skye ba gzhan du yang // legs bshad dag la mchog tu dga' /

/ śivavatyāṃ purā puryāṃ śibir nāma nareśvaraḥ /
babhūva sarvabhūtānāṃ dayādayitabāndhavaḥ // 91.6 //

/ śi ba ba tyāṃ pu rā puryāṃ śi birnnā ma na re śva raḥ / ba bhū ba sarbba bhū tā nām da yā da
yi ta bāndha baḥ // 91.6 //

むかしシヴァヴァティーという都城において、シビという名の王が、憐憫によってあらゆる生け
るものに愛される友人として、[世に]現われた。

/ grong khyer zhi ldan dag tu sngon // mi dbang shi bi zhes bya ba /
/ 'byung po kun la brtse ba yi // yid 'ong gnyen du gyur pa byung /

/ tatpuṇyaśāsanāsīnaiḥ svargam āpūritaṃ naraiḥ /
dṛṣṭvā śatakratur jñātum sattvaṃ tasya samāyayau // 91.7 //

7b svargam] E (=Ed.) : svarg[y]am A : svargas B : svarggām T || naraiḥ] AB : janaiḥ
T (also possible).

/ tatpu ṇya śā sa nā sī naiḥ svarggā mā pū ri taṃ ja naiḥ / dṛṣṭvā śa ta kra tu jñā tum sva tvaṃ ta
sya sa mā ya yau // 91.7 //

彼の福德ある教令に服した人々によって天界が満たされたのをインドラ神は見て、彼の堅固
心を知ろうと、[地上に]やってきた。

/ de yi bsod nams bkar gnas pa'i // mi yis mtho ris kun gang ba /

/ mthong nas de yi snying stobs ni // *brtag tu mchod sbyin brgya pa 'ongs /

7a bkar] δ : dkar β . 7b mi yis] β : mi yi δ . 7d *brtag tu] ex coni : rtag tu β δ .

Note 7d *brtag tu] 蔵訳の諸版の rtag tu 「常に」を訂正して、梵文の jñātum 「知るために」に近い意味の語として、*brtag tu 「観察のために」と読む。

/ ratnaprāsāda*śikharākrāntaṃ nṛpatim etya saḥ /

rakṣorūpaṃ vidhāyogṛaṃ tadagrābhimukho 'bravīt // 91.8 //

8ab *śikharākrāntaṃ] ex coni (Ed.) : śikharākrāntaṃ ABET.

/ ratnā prā sā da śi kha ra krāntaṃ nṛ pa ti me bhya saḥ / rakṣo rū pāṃ bi dhā yo gṛaṃ ta da grā
bhi mu kho bra bīt // 91.8 //

彼(インドラ)は宝石の宮殿の頂きに登った王のもとに、恐ろしい羅刹の姿をとってゆき、かの[王]の前で、対面して語った。

Note 1a *śikharākrāntaṃ] ここで写本の読みは śikharākrāntaṃ であるが、古典梵語で krānta の語が「登った」という意味で使われることは滅多にないことから(cf. PW, ii 478, s.v. kram)、*ākrānta の語に訂正した。

/ de ni rin chen khang bzang rtser / 'dzegs pa'i mi bdag can song nas /

/ 'jigs rung srin po'i gzugs bsgrubs te // de yi mdun du mngon phyogs smras /

8c bsgrubs te] δ : bsgrub ste β .

Note: mi bdag can の末尾の can は can du (postpos.) の省略形とみる。

/ anityāḥ saṃskārās taralataravidyuddytinibhāḥ /

samutpannotpannapralayapariṇāmapraṇayinaḥ // 91.9 //

9a saṃskārās] ABE, confirmed by tib. 'du byed : saṃsārās Ed.

/ a ni tyāḥ (saskāṃ D : saskā T) rā sta ra la ta ra bi dyuddyu ti ni bhāḥ / sa (mutpannotpanna D :
mutpannetpanna T) pra la ya pa ri ṇā ma pra ṇa yi {T540a} naḥ // 91.9 //

諸行は無常であり、とても不安定な電光の輝きに似たものであり、生じたものから生じ、消滅し変異しやすいものである。

Note 9 この半詩節は、本話の源泉であると思われる Karmaśataka 125 の対応文では次のように短い:
kye ma 'du byed rnams mi rtag // skye zhing 'jig pa'i chos can yin / (ああ諸行は無常であり、生じては滅する法を有する)。それに対応するパーリ聖典での詩句は次のとおり: aniccā vata saṃkhārā
uppādayadhammino / (PTS ed. DN, II, p. 157)。聖典の短い詩句を Kṣemendra はここでわざと長い詩句に変えたわけであるが、特にその P. vāya (Skt. vyaya) の語には "adj. liable to change or decay" という意味があるため、その語を長い表現に言い替えて Kṣemendra は pralayapariṇāmapraṇayin と表現したので

あろう。praṇayin は "liable to" の意味と思われる。

Metre: Śikharīṇī. [pāda ab only]

/ 'du byed mi rtag shin tu g.yo ba'i glog rab mdzes pa dag dang mtshungs /
/ rab tu skyes shing skyes shing 'jig pa'i yongs su 'gyur ba dag la chags /
9c skyes shing skyes shing] δ : skyes shing β .

/ subhāṣitārdham ity uktvā tūṣṇīm āsīt sa rākṣasaḥ /
taṃ praṇamya kṣitipatiḥ kṛtāñjalir abhāṣata // 91.10 //

/ {D240a} su bhā ṣi tārdha mi tyuktvā tūṣṇī mā sitsa rā kṣa saḥ / taṃ pra ṇa myakṣi ti pa tiḥ kṛ
(hām D : tām T) ja li ra pra bhā ṣata // 91.10 //

このように善説の[前]半分を語って、その羅刹は沈黙した。王は合掌し、彼を礼拝して、語った。

/ zhes pa'i legs bshad phyed brjod nas // srin po de ni mi smra gyur /
/ sa yi bdag pos thal sbyar nas // phyag 'tshal de la rab smras pa /

/ sādho subhāṣitasyārdham śeṣaṃ śaṃsa manasukham /
vāṇīm bodhyaṅgabhūtām tām śiṣyo bhūtvā śṛṇomy aham // 91.11 //

11c tām] T, confirmed by tib. de (Skt. *tām) : te ABE (=Ed.).

/ sā dho su bha ṣi ta syārdham śe ṣaṃ sa ma naḥ su kham / ba ṇī (po D : bo T) dhyāṅga bhā tām
tām śi kṣo bhū tvā śṛ ṇo mya ham // 91.11 //

聖者よ、心に快い、残りの善説の半分をお説き下さい。私は弟子となり、悟りの支分であるあの御言葉をお聞きたいのです。

/ dge ba legs par bshad pa'i phyed // yid bde lhag ma gsung bar mdzod /
/ byang chub yan lag gyur skad de // slob mar gyur nas bdag nyan no /

/ iti bruvāṇaṃ vinayān nṛpaṃ provāca rākṣasaḥ /
tvayā śiṣyeṇa rājendra niṣphalena karomi kim // 91.12 //

/ i ti bru ba ṇaṃ bi na yāta nṛ paṃ pro bā ca rākṣa saḥ / tva yā śi ṣye ṇa rā jendra niṣpha le na ka
ro mi kiṃ // 91.12 //

このように謙虚さをもって語る王に、羅刹は語った。王よ、何の益ももたらさない弟子としてのあなたが私に何の用があろうか。

/ dul bas de smra mi bdag la // srin po yis ni rab smras pa /
/ rgyal dbang slob ma 'bras bu med // khyod kyis bdag la ci zhig bya /

/ pipāsāparibhūto 'haṃ kṣuṇṇakukṣir bubhukṣayā /
naitaṃ mamepsitaṃ rājan kevalaṃ gurugauravam // 91.13 //

/ pi pā sa pa ri bhū to haṃ kṣūṇṇa ku kṣirbu bhukṣa yā / ne tatma mepsi taṃ rā janke ba laṃ gu
ru gau ra baṃ // 91.13 //

私は渇に支配され、飢えによって腹が衝かれている。王よ、こんな師としての尊敬だけでは、私の望むところではない。

/ skom pas bdag ni yongs nyen cing // bkres pas dku ni yongs su nyams /
/ rgyal po bdag ni bla ma yi // zhe sa 'ba' zhig 'di mi 'dod /
13b dkres pas dku] Q : bkres pas dgu G : dkres pas dgu N : bkres pas sku δ .

/ kṣuttṛṣṇāvyākulatayā yat kiṃcit pralapāmy ahaṃ /
śeṣaṃ vaktuṃ na śaknomi mā kṛthā me kadarthanām // 91.14 //

/ kṣuttū ṣṇā byā ku la ta yā yatkiṃ citpra la bā mya haṃ / śe ṣaṃ baktuṃ na śakno mi mā kṛ tā
me ka bartha nām // 91.14 //

飢えと渇に満たされているために、何でも[思い浮かんだことを]しゃべっているのだ。[その善説の]残りを話すことは出来ない。どうか私を煩らわせないでくれ。

/ bkres skom dag gis gzir gyur pas // gang zhig cung zad bdag smra'o /
/ lhag ma brjod par yongs mi nus // bdag la sdug bsngal ma mdzad cig /
14a pas] δ : pa β . 14c yongs] δ : yong β .

Note 14d ma mdzad cig] 否定命令文なので、現在形+cig(山口瑞鳳『概説チベット語文語文典』、188頁)。

/ mādhyadhyāyāni rasocitāni saṃcarcyamāṇāni subhāṣitāni /
naiva kṣudhaṃ na kṣapayanti tṛṣṇām etāni tṛptasya sukhapradāni // 91.15 //

15b saṃcarcyamāṇāni] A : saṃvar[dh]yamāṇāni B : saṃvarddhyamāṇāni E :
saṃcāryamāṇāni Ed.

/ mā dhurya dhuryā ṇi ra so ci tā na sampardha mā nā ni su bhā ṣi tā ni / nai baṃkṣu dhaṃ
nakṣa pa yanti tūṣṇā me tā ni tṛpta sya su kha pra dā ni // 91.15 //

甘美さをもちうる、味わうに適した、繰り返し暗唱されている(saṃcarcyamāṇāni)様々な善説 — これらは、満腹した者に快を与えるものであって、飢えも渇も減らしはしません。

Metre: Indravajrā.

/ snyan pa'i gdangs ldan ro ni 'os pa can // legs par bshad pa rab tu rgyas gyur pa
/
/ tshim la bde ba ster byed 'di dag ni // nges par bkres dang skom pa *zad byed
min /

15d *zad] ex conī : za β δ .

Note 15b rab tu rgyas gyur pa] 蔵訳者は saṃcarcyamāṇāni ではなく *saṃcāryamāṇāni あるいは
*saṃvardhyamāṇāni (cf. T sampardha mā nā ni) と誤読して、「普及させられている (cf. rgyas pa "to
spread")」という意味に介した可能性がある。

/ śrutam gītam kāvyam śramaparicayaḥ kautukavidhir
mañijñānam bhūtagrahadaviṣonmādaśamanam /
nṛṇām bhūbhṛtsevā jaladhitarāṇam hemakaraṇam
tad etat paryante gaṇitam akhilam bhojanaphalam // 91.16 //

16ab vidhir maṇi] BE : vidhir mmaṇi A : vidhiḥ maṇi Ed.

/ śru tam gī tam kā byam śra ma pa ri ca yaḥ kau tu ka bi dhi ma nṛjñā nam bhū ta gra ha
{D240b, T540b} ga da (pi D : bi T) ṣonmā da śa ma nam / nṛ ṇām bhū bhṛtsa bā ja la (dhe D :
dhi T) ta ra nam he ma ka ra nam ta de tatparyante ga ni ta ma khi lam bho ja na (pa D : pha T)
lam // 91.16 //

学問、歌や芸術詩、疲労を伴う熟練[技]、式典・宗教的儀式、宝石鑑定学、鬼(ブータ)や惑
星(グラハ)の鎮静、病氣・毒・狂気の鎮静、また宮仕え、海の貿易、錬金術、これらすべては人
にとって結局は、食べ物という報酬を期待するものです。

Note 16a kautukavidhir] この複合語は意味が明確ではないが、一応「式典・宗教的儀式」と訳した。別
の解釈として、人々を驚かせ娯楽を与える magic のような具体的な意味も考えられる。

Note 16b graha[...].śamanam] 惑星の鎮静 (graha-śamana) については、『ヤージュニャヴァルキヤ法
典』、1.290-303 を参照。

Metre: Śikhariṇī.

/ thos dang glu dang snyan dngags ngal bas yongs 'dris dge mtshan sgrub byed
dang // nor bu shes dang 'byung po gdon nad dug dang smyo ba zhi byed dang /
/ sa 'dzin bsten dang chu gter sgrol bar byed dang gser 'gyur dag dang rtsis // 'di
dag ma lus mthar thug 'bras bu mi rnams dag gi bza' ba yin /

16b smyo] β : skyo δ .

/ sadyaḥkṛttasya rudhiram māṃsam ca mama tarpaṇam /

ahimsābaddhaniyamāt tvattas tad atidurlabham // 91.17 //

/ sa dyaḥ kṛta sya ru dhi raṁ mām sām ca ma ma tarpa ṇaṁ / a hiṁ sā bandha naṁ ya
māttvatta sta da ti durla bhaṁ // 91.17 //

切られてまもない者から[取った]肉と血が私を満足させうるが、それは不殺生に縛られた制約をもつあなたからは、得難いものである。

/ 'phral la bcad pa'i sha dang ni // khrag dag bdag la tshim byed pa /

/ 'tshe med sdom pas bcings gyur pa // khyod las shin tu rnyed par dka' /

17b la] δ : ni β . 17c 'tshe] δ : 'tsho β . 17d par] δ : pa β .

/ gacchāmi yācitum kaṁcit tvatsamīpe karomi kim /

krīḍā kathāś ca śobhante tulyāhāravihārayoḥ // 91.18 //

/ gacchā mi yā ci tum kiṁ cita tvatsa mī pe ka ro mi kiṁ / krī ḍā ka thāśca śo bhante tu lyā hā
ra bi hā ra yauḥ // 91.18 //

誰かに物乞いするために私は去ろう。あなたのもとの、私は何をすることがあろうか。食や楽しみが同等な者どうしの間では、遊びや会話はよいものだ。

/ khyod dang nye bar bdag ci byed // 'ga' zhig la ni slong du 'gro /

/ zas dang gnas ni mtshungs pa yi // rtsed mo dang ni gtam dag mdzes /

/ ity uktas tena nṛpatis tam abhāṣata sādaraḥ /

nijadehasamutkṛtaṁ sāsṛṇ māmśaṁ dadāmi te // 91.19 //

/ i tyuktaste na nṛ pa tista ma bhā ṣa taṁ mā da raḥ / ni ja de ha sa mutkṛti sā sṛgmaṁ saṁ da
dā mi te // 91.19 //

このように彼が語った時、王は恭しく彼に語った。[この]自らの体から切り取った、血がついたままの肉をあなたにさしあげましょう。

/ zhes des brjod tshe mi bdag ni // gus dang bcas pas de la smras /

/ rang gi lus ni rab bcad pa'i / khrag bcas sha ni khyod la sbyin /

19d bcas] β : dang δ .

/ tvaṁ pratītyasamutpādapūrvadvāram udāhara /

nirvāṇanagarasyāgryaḥ panthās tava subhāṣitam // 91.20 //

20b pūrvadvāram udāhara] ABET : pūrvārdhaṁ samudāhara Ed. Cf. de JONG.

/ tvaṁ pra tī tya sa mutpā da pūrbba dvā (ra D : raṁ T) mu dā ha ra / nirbba ṇa na ga ra syā
gryaḥ panthāsta ba su bha ṣi taṁ // 91.20 //

あなたは「縁起」の最初の門です。[さあ]お説きください、あなたの善説は、涅槃という都城への最高の道です。

/ rgya che blo gros ldan pa khyod // rten cing 'brel 'byung dang po'i sgo /
/ khyod kyi legs bshad myang 'das kyi // grong khyer gyi ni lam gyi mchog /

Note 20a rgya che blo gros ldan pa] この蔵訳「広大な知性を有する」は梵文の udāhara と合わない。rgya che は *udāra を予想させる。udāhara を蔵訳者は *udāra-dhīḥ と読んだのだろうか。

/ ity ukte rājacandreṇa tam uvāca kṣapācaraḥ /
śrūyatām sumate tūrṇaṃ dīyatām ca pratiśrutam // 91.21 //

/ i tyukte rā ja candre ṇa ta mu bā ca kṣa pā ca raḥ / śrū ya tāṃ su ma te turṇa (dām D : dī T)
ya tāṃ ca pra ti śru taṃ // 91.21 //

このように、月のような王（諸王の中の月）によって語られた時、夜の徘徊者（羅刹）は彼に語った。賢い人、さっさと[次の詩節を]聞かれよ。そして約束したものを与えよ。

Note 21d dīyatām ca] この pāda d にある ca の位置により、tūrṇaṃ の前で文が切れると解釈する。そこで「速やかに(tūrṇaṃ) 約束したものを与えよ」ではなく「さっさと(tūrṇaṃ) 聞かれよ」となる。

/ rgyal po zla bas 'di brjod tshe // mtshan mo rgyu bas de la smras /
/ blo gros bzang po myur du nyon // dam bcas pa dag sbyin par mdzod /

/ anityāḥ saṃskārās taralataravidyuddiyutinibhāḥ
samutpannotpannapralayapariṇāmapraṇayinaḥ /
tadutthair jantūnām bhramaṇaparivartaiḥ śramavatām
nirodhād viśrāntiṃ diśati vivaśānām upaśamaḥ // 91.22 //

22a saṃskārās] ABET : saṃsārās Ed. 22b pralaya] AT : praṇaya BE.

/ a ni tyāḥ saṃ skā rāsta ra la ta ra bi dyuddyu ti ni bhaḥ sa mutpannotpanna pra la ya pa ri nā
ma pra ṇa {D241a} yi naḥ / {T541a} ta dudthe jaṃ tu nām bhra ma ṇa pa ri barttaḥ śra ma ba
tām ni ro dhādbi śrintaṃ di śa ti bi ba śā nā mu pa śa maḥ // 91.22 //

諸行は無常であり、きわめて不安定な電光の輝きに似たものであり、生じ生じては消滅と変異の中にあるものである。それに起因して[輪廻を]彷徨い、廻転することで疲れ果てた無力な（不自由な）人々に、寂滅は[煩悩の]止滅によって休息を与える。

Note 22 この詩節と内容的に対応する Karmaśataka 125 の詩節の全文は次の通り: kye ma 'du byed
rnams mi rtag // skye zhing 'jig pa'i chos can yin // skyes nas 'gog par 'gyur pa ste // de dag nye bar zhi ba
bde / ああ諸行は無常であり、生じては滅する法を有する。[それらは]生じては滅する。それらの寂滅は安
楽である)。この一詩節にあたるパーリの全文は: "aniccā vata saṃkhārā uppāḍavayadhammino / uppajjitvā

nirujjhanti tesam vūpasamo sukho" ti (PTS ed., DN, II, p. 157)。

Metre: Śikharinī.

/ 'du byed mi rtag shin tu g.yo ba'i glog rab mdzes pa dag dang mtshungs // rab
tu skyes shing skyes shing 'jig pa'i yongs su 'gyur ba dag la chags /
/ des bskyed 'khor zhing yongs su sgyur bas srog chags dag ni dbang bral zhing /
/ ngal dub ldan pa rnams la nyer zhi 'gog pas ngal gso ster bar byed /
22b skyes shing skyes shing] D : skyes shing β T.

/ etad ākarṇya nṛpatiḥ praharṣotphullalocanaḥ /
dadau svadeham utkr̥tya tasmai mām̐sam saṣoṇitam // 91.23 //

/ e ta dā kārṇya nṛ pa tiḥ pra harṣotphulla lo ca naḥ / da dau sva de ha mutkr̥ tyah tasmai mām̐
sa sa sro ṇi tam // 91.23 //

これを聞いて、大きく開いた目に歓喜をたたえた王は自分の体を切って、彼に血のしたたる肉
を与えた。

/ de dag thos nas mi bdag ni // dga' mgu mig dag rab rgyas pas /
/ rang gi lus ni bcad pa'i sha // khrag dang bcas pa de la byin /

/ utkr̥tyotkr̥tya dadataḥ svamāṃsāni mahīpateḥ /
nirvikāreṇa sattvena vismito 'bhūn niśācaraḥ // 91.24 //

24d vismito] T, confirmed by tib. ya mtshan (Skt. *vismita) : viśruto ABE.

/ utkr̥tyotkr̥tya da da taḥ sva mām̐ sā ni ma hī pa tiḥ / nirbbi ka re ṇa sa tve na bismi to bhūnni
śā ca raḥ // 91.24 //

自分の肉を次々に切っては与えてゆく王の、変化のない堅固心に、夜の徘徊者(羅刹)は驚
かされた。

/ rang sha bcad cing bcad cing ni // ster bar byed pa sa bdag gi /
/ snying stobs rnam 'gyur med pa yis // mtshan mo rgyu ba ya mtshan gyur /

/ sa dattvā sarvagātrebhyaḥ piśitam piśitāśine /
praṇidhānam vyadhāt sarvasattvasaṃtāraṇe nṛpaḥ // 91.25 //

25a gātrebhyaḥ] A(post corr.)BET : gāstrebhyaḥ A(ante corr.)

/ sa da tvā sarbba gā tre bhyaḥ pi śi tam pi śam tā śi ne / pra ṇi dhā nam bya dhātsa rbba sa tva
sam tā ra ṇe nṛ paḥ // 91.25 //

全身から[取った]切り肉をか王は肉食者に与えながら、すべての生けるものの救済のため

に誓願をなした。

/ de yis lus ni thams cad las // sha za dag la sha byin nas /
/ sems can thams cad sgrol ba la // smon lam mi yi bdag pos byas /

/ tatas taṃ praṇayād ūce rakṣorūpaḥ puraṇdaraḥ /
api te marmavicchede viṣādajananī vyathā // 91.26 //

/ ta ta staṃ pra ṇa yā du ce ruṃ rakṣo rū paḥ pu randa raḥ / a pi te marmma bicche da bi ṣā da ja
na nī bya thā // 91.26 //

すると羅刹の姿をしたインドラは親しく彼に語った。急所が切り裂かれる時に、苦しみはあなたに意気阻喪を生じさせたか。

/ de nas de la gcugs pa las // 'byer 'jig srin po'i gzugs kyis smras /
/ khyod kyi gnad ni bcad pa la // gdung bas mi dga' bskyed dam ci /

26a gcugs] δ : bcugs NQ : bcug G. 26b 'byer] δ : 'jer β . 26c kyi] δ : kyis β .

Note 26c 'byer 'jig] cf. J. S. NEGI (1993-2005): *Tibetan-Sanskrit Dictionary*, 4069b. Tib. 'byer 'jig = Skt. puraṇdhara (NEGI の挙げるこの語の典拠は Kalpalatā だけであり、Derge 版を用いた)。ただし北京版・N arthang 版等の 'jer 'jig の綴りが間違いかどうかは確かではない。Sarat Chandra Dās の辞書に 'jer 'jigs という綴りで載っている (p. 461a)。その典拠は Mngon brjod mkhas pa'i rna rgyan である。NEGI の辞書には 'jer 'jigs / 'jer 'jig の綴りでは出ていない。

/ prṣṭas tridaśarājena rājarājas tam abravīt /
na viṣādo 'sti me dehe paropakaraṇīkṛte // 91.27 //

/ prṣṭastri da śa rā je na rā ja rā jasta ma bra bīt / na bi ṣā do sti (me D : ma T) de he pa ro pa ka
ra ṇī kṛ te // 91.27 //

天界の王に問われて、王中の王はこう答えた。[この]体が他の者の役に立つ時、私に意気銷沈はない。

/ skabs gsum rgyal pos dris pa na // rgyal po'i rgyal pos der smras pa /
/ lus kyis gzhan la phan pa dag // byas la bdag ni mi dga' med /
27c kyis] D β : kyi T.

/ vyathāyāṃ nirvikāro 'haṃ yadi satyena tena me /
nirvraṇaṃ svastham evāstu pūrvarūpam idaṃ vapuḥ // 91.28 //

28c nirvraṇaṃ sva] BET : nirvvaṇaṃ sva A: nirvraṇasva Ed. Cf. de JONG.

/ {D241b} bya thā yāṃ ni bi kā ro haṃ ya di sa tye na te na me / nirbra ṇaṃ svastha me bāstu

pūrbba rū pa mi daṃ ba puḥ // 91.28 //

もし苦しみの中で私[の心]に変化がなかったならば、その真実によって、私のこの体は傷のない健康な、もとの姿になれ。

/ gal te gdung ba dag la bdag // rnam 'gyur med na bden pa des /

/ bdag gi lus 'di sngon gzugs bzhin // rma med bsos pa nyid gyur cig /

/ iti bruvāṇasya bhuvah patyuh satyopayācanāt /

sahasaiiva vapuḥ pūrvarūpaṃ nirvraṇatām yayau // 91.29 //

/ i ti bru bā ṇa {T541b} sya bhu baḥ pa tyuḥ sa tyo pa yā ca nāt / sa ha sai ba ba puḥ pūrbba rūpaṃ nirbra ṇa tām ya yau // 91.29 //

このように大地の主(王)が語った時、真理にかけて祈願することによって、たちまち体は以前の姿どおり、傷がないものとなった。

/ ces smras sa yi bdag po yi // bden pa'i tshig ni brjod pa las /

/ 'phral nyid lus ni sngon gyi gzugs // rma dang bral ba nyid du gyur /

29a po yi] NQT :po yis D : po yin G. 29b tshig] δ : tshigs β .

/ taṃ puṣpavarṣair vipulaiś chādyamānaṃ nabhaścariḥ /

rakṣorūpaṃ parityajya praśaśaṃsa sureśvaraḥ // 91.30 //

/ taṃ puṣpa barṣairbi pu laiśchā dya mā naṃ na bhaśca raiḥ / rakṣo rū paṃ pa ri tya jya pra śa śaṃ sa su re śva raḥ // 91.30 //

天空を行く者(神)たちによって[降らされた]おびただしい花の雨に覆われた彼を、神々の王(インドラ)は、羅刹の姿を捨てて、讃歎した。

/ mkha' la rgyu bas me tog char // yangs pas de ni g.yogs byas shing /

/ lha yi dbang pos srin po'i gzugs // yongs su btang nas rab tu bsngags /

30b ni δ : na β . 30c po'i δ : pos β .

/ prasādyā nr̥patiṃ yāte dṛṣṭasattve śatakratau /

acintayat sudhāsvādaṃ bhūpatī tat subhāṣitam // 91.31 //

31b dṛṣṭasattve] ABET (dṛṣṭasatve), confirmed by tib. stobs mthong ba (Skt. *dṛṣṭasattva) : dṛṣṭasatye Ed. Cf. de JONG.

/ pra sa dya nr̥ pa ti yā tā dṛṣṭa sa tve śa ta kra tau / acinta yatsu dhā sva daṃ bhū pa tistatsu bhā ṣi taṃ // 91.31 //

堅固心を見たインドラ神が王を喜ばせて(prasādyā) 去った時、王はこの善説が甘露(神々の

食)の味わいがあると思った。

/ brgya byin snying stobs mthong ba yis // mi bdag la ni dad byas so /
/ de yis legs bshad bdud rtsi yi // nyams myong sa yi bdag pos bsams /
31a mthong ba] β : ldan pa δ . 31c yis] D : yi β T.

/ śibir nareśvaraḥ so 'ham abhavaṃ pūrvajanmani /
iti prāṇapaṇenābhūd vallabhaṃ me subhāṣitam // 91.32 //

/ śi birna re śva raḥ so ha ma bha baṃ pūrbba janma ni / i ti pra ṇa ba ne nā bhūdbālla bhaṃ me
su bhā ṣi taṃ // 91.32 //

かの王シビは前生の私であった。善説は私にとって命の代価をもって支払う、大切なものであった。

/ nga nyid sngon gyi skye ba la // mi dbang shi bi der gyur te /
/ de ltar srog gi zong gis bdag // legs bshad la ni dga' bar gyur /
32b te] β : nas δ .

/ tathāgatena kathitāṃ janmāntarakathāṃ nijāṃ /
ākārṇya bhikṣavaḥ sarve praśāsaṃsuḥ savismayāḥ // 91.33 //

/ ta thā ga te ba ka thi tā (janmantra D : janmanta T) ra ka thāṃ ni jām / ā karṇya bhikṣa baḥ
sarbbe pra śaṃ suḥ sa {D242a} bi sma yāḥ // 91.33 //

如来が語られたご自分の前生話を聞いて、すべての比丘たちは驚き、賞賛したのだった。

/ rang gi skye ba gzhan gyi gtam // de bzhin gshegs pas gsungs pa dag /
/ thos nas ya mtshan ldan pa yi / dge slong kun gyis rab tu bsngags /

/ dṛṣṭādrṣṭasukhe subhāṣitarucir *mārge pradīpāyate
*susvādena subhāṣitāmṛtarasaḥ prītiṃ parāṃ varṣati /
sarvajña 'pi subhāṣitārthaviṣaye yāty arthanīyo 'rthitāṃ
tasmān nāsti subhāṣitena sadṛśaṃ kiṃcit satāṃ vallabham // 91.34 //

34a *mārge] ex conī (Ed.) : mārگاḥ AB : mārگا E : mārگاḥ T : tib. lam ni. Cf. de JONG (v. note below). 34b: *susvādena] ex conī (HAHN) : sasvādena A : tib. nyams myong ldan pas (Skt. *sāsivādena or *sasvādena) : saṃivādena BET (=Ed.) || varṣati] ABET : vindati Ed. Cf. de JONG.

/ dṛṣṭā dṛṣṭa su khe su bhā ṣi ta ru cirmmārگاḥ pra bhā dī pa yata saṃ bā de na su bhā ṣi tā mṛ ta
ra saḥ prī tiṃ pa raṃ barṣa ti / sarbba jña pi su bhā ṣi tārtha bi ṣa ye dyartha nī yarthi nām

tasmānnāsti su bhā śi te na sa dṛ śaṃ kiṃ citśa tām balla {T542a} bhama // 91.34 //

この世とあの世の安楽への道において、善説の光は、ランプとしての役割を果たす。すばらしい美味を伴って、その善説という甘露のジュースは最高の歓喜を雨ふらせる。[人から]求められるべき一切智も、善説という財産の領域では、求める者となる。それゆえに、善説に匹敵するほど愛好されるものは、高貴な者たちにとって、何一つ存在しない。

Note 34a *mārge] もし de JONG の指摘のように、写本 AB に従い mārgaḥ と読むなら、「善説の光は、この世とあの世の安楽への道として(同格)ランプとしての役割を果たす」と訳せないでもない(この場合 loc + mārgaḥ で「～に通じている(loc)道」という意味になると解釈する)。しかし mārgaḥ の読みはかなり無理なように思われる。私は Bibliotheca Indica 版のように *mārge と読む。これなら「この世とあの世の安楽をもつ道において、善説の光は、ランプとしての役割を果たす」と訳せる。

Note 34b *susvādena] この箇所では写本 A は sasvādena と読めるが、しかし写字生が sambādena と書いてから sasvādena と訂正したようにも見えないでもない(svā / mbā の字の違いは微妙であり見間違えやすい)。sasvādena A の読みに従うなら、sa svādena (=saḥ + svādena) と切って「美味を伴って(svādena)、その(saḥ)善説という甘露のジュースは・・」と解釈することも考えられるが、しかしその場合、代名詞 sa は文中で無駄な語である。そこで HAHN の提案であるが、*susvādena と訂正して読む可能性が考えられるべきである。この *susvādena と読む提案は、文脈上無駄な代名詞 sa を無くすことが出来る利点があるが、しかし susvāda の語はふつう形容詞として使われ、「すばらしい(su-)美味(svāda)」という名詞としての使用は Böhrling になく、珍しいという難点もある。しかし SCHMIDT, Nachtr. s.v. susvāda に名詞としての意味 "Wohlgeschmack" が 1 用例で報告されているので、この読みを採用した。また、もし蔵訳の解釈のように *sa-āsvādena (or *sa-svādena?) と読むなら、「[その]味わいを楽しむ者(仏)によって、善説の甘露の味をもつ者(男性名詞。= mārgaḥ)は最高の歓喜を雨ふらせる」と理解できようが、文脈上やや不自然な感を否めない。また B や T のように saṃvādena と読むなら、「唱えることによって、善説という甘露のジュース(rasa)をもつ[人](仏)は最高の歓喜を雨ふらせる」と解釈できるが、しかし saṃvāda の語が「唱える」とか「一緒に唱和する」の意味で使われる用例が辞書等に見出せない。*so *vādena と読むのも無理であろう。これらの読みの可能性の中で *susvādena が最も良い。

Metre: Śārdūlavikṛīḍita.

/ mthong dang ma mthong bde la lam ni legs bshad kyis gsal sgron ma lta bur spyod //
legs bshad bdud rtsi'i ro ni nyams myong ldan pas mchog tu dga' ba'i char dag 'bebs /
/ legs bshad don gnyer yul la gnyer bya kun mkhyen dag kyang don gnyer nyid du 'gyur
// de slad dam pa rnams la legs bshad dang mtshungs dga' ba ci yang yod ma yin /

iti kṣemendraviracitāyāṃ bodhisattvāvadānakalpalatāyāṃ
śībisubhāṣitāvadānam ekanavatitamahā pallavaḥ //

/ i ti kṣe mendra bi ra ci tā yām bo dhi satvā ba dā na kalpa la tā yām śi bi su bhā śi tā ba dā na
me ka na ba ti ta maḥ palla vaḥ //

以上、クシェーメンドラ作『菩薩のアヴァダーナの祈願成就の蔓草』における「シビ[王]の善
説のアヴァダーナ」という第91の小枝(章)。

/ zhes pa dge ba'i dbang pos byas pa'i byang chub sems dpa'i rtogs pa brjod pa dpag
bsam gyi 'khri shing las shi bi'i legs bshad kyi rtogs pa brjod pa'i yal 'dab ste dgu bcu
rtsa gcig pa'o /

第91章の非重要な異読の報告

1. チベット訳の諸版の正字法上の異読

8a chen]] cen T. **9c** yongs su]] yongsu G. **13b** yongs su]] yongsu G. **22b** yongs su]]
yongsu G. **22c** yongs su]] yongsu G.

2. チベット訳の諸版の特殊な異読(Sonderlesungen)

3d gsan]] gnas G. **5c** ni]] gyi N. **6c** yi]] yis G. **7a** de yi]] de yis N || gnas om. G. **8c**
srin]] sin Q. **9c** 'jig]] 'jigs G. **16a** dngags]] dngag G. **16c** dang om. Q. **16d** dag gi]] dag
gis G. **17b** dag]] dang G. **18d** gtam]] gtum D. **25a** yis]] yi G. **34a** kyis]] kyi G. **34b**
ni]] na T. **34c** yul la gnyer]] yul la gnyer yul la gnyer G.

3. 梵文写本における特殊な異読(Sonderlesungen)

1c sadopakārād ata]] sadopakārātada E || vallabham]] vallabha B. **1d** mahātmanām]]
manātmanām E. **2d** kuśalaiṣiṇā]] kuśaleṣiṇā B : kuśaleṣiṇām E. **6b** nareśvaraḥ]] nnareśvaraḥ
A. **8b** nṛpatim]] nṛpatis B. **9b** vidyuddutyi]] vidyudyuti E. **10a** uktvā]] uktā B. **12a** bruvāṇam]]
bruvāṇām B. **12d** niṣphalena]] niḥphalena ABE. **13b** kṣuṇṇa]] kṣusma E. **13c** naitan]] netan A
|| rājan]] rājana A. **14a** kṣutṛṣṇā]] kṣutṛṣṇā E. **14b** kiṃcit]] kiñci A. **14d** kdarthanām]]
kdarthatām B. **15a** rasocitāni]] rasonitāni E. **15b** saṃcārya]] saṃvar[dh]ya B. **16d** paryante]]
paryanteḥ / A. **17d** atidurlabham]] atidullabham E. **18a** kaṃcit]] kaṃci E. **19d** māṃsaṃ]] māsa
B. **20c** āgryaḥ]] āgpraḥ B. **20d** panthās]] panthā A. **21c** tūrṇam]] turṇam B. **22a** taralatare]]
taralataracala A || vidyuddutyi]] vidyudyuti BE. **24c** sattvena]] svatvena B. **29b** satyopa]]
patyopa E. **29c** sahasaiva]] sahaseva A. **29d** nirvraṇatām]] nirvvaṇatām A. **30d** praśaśaṃsa]]
praśaśaṃsa B. **33b** janmāntara]] <<ja>>nmātara B. **33d** praśaśaṃsuḥ]] praśaśaṃsuḥ B. **34a**
subhāṣita]] subhāṣitaṃ B. **34c** 'rthitām]] rthinām B. **34d** vallabham]] vallabhām E.

(Colophon:) śibisubhāṣitāvadānam]] om. śibi E.

Avadānakalpalatā, 92 Maitrakanyakāvadāna^[1]

D: Khe 242a5-248b2 Q: Ge 323a7-326a5 N: Ge 291b1-294a7

G: Ge 413b5-418a3 T: 542a1-547a6

Skt. Mss.: A *355a5-*359a1; B 121a6-123b7; E 114b4-119a4

/ gurūṇām apy agre gurutarapade saiva mahatī

sadā sadbhiḥ pūjyā tridaśataṭinīpāvanatanuḥ /

dharitrī bhūtānām sakalarasasārāprasavinī

śarīraṃ puṣṇāti praṇayam iva mātā na vasudhā // 92.1 //

/ gu rū ṇa ma sya gre gu ru ta ra pa de sai ba ma ha tī sa dā sadbhiḥ pū jyā tri da śa ta ṭi nī pā ba
na ta nuḥ / dha ri trī bhūṃ tā nām sa ka la ra sa sā ra pra sa ci nā śa ri raṃ puṣṇā {D242b} ti pra
ṇa ya mi ba mā tā na ba su dhā // [1]

偉大な彼女こそは、尊敬に値する人(グル)たちの前ですら最も敬重される席(序列)を占める。善い人々によって常に供養されるに価する者である。天界の川(ガンジス)のように[罪の穢れを]清める[働きの]身体をもつ者である。生類を維持する者である。あらゆる美味の精髓を産出する者である。愛情を[育む]ように身体を育む者である。——[その彼女とは、ここでは]大地のことでない、生みの母のことである。

Note 1c dharitrī] 「維持する者」とは、母については子らを養育する女(cf. dhātṛī)を意味し、大地については固有名詞として Vasudhā の別名をも意味する(cf. Amarakośa 2.2)。

Note 1c rasasāra] 「美味の精髓」とは、母に関しては子らに飲ませる母乳を意味し、大地に関しては大地を栄養として産出されるあらゆる農産物の液汁や家畜たちの乳を意味する。

Note 1d mātā na vasudhā] この詩節の作り方は謎々遊びであり、詩節の第4句目の最後に、このように謎々の答えが示される。謎々には予想を裏切る「ひっかけ」が隠されていて、大地という平凡な答えを予想

^[1]この第92章の作成にあたって Kṣemendra が依用した源泉資料は Avadānaśataka [36] Maitrakanyaka と思われる。その翻訳は L. FEER (1891) の仏訳と、奈良康明の和訳(『仏弟子と信徒の物語』、筑摩書房、123-136頁)がある。Avadānaśataka の Maitrakanyaka を含む八つの並行する説話資料を比較して原形を考察した研究として、伊藤千賀子(1984):「『彌蘭本生』の諸相とその原形」、『東洋の思想と宗教』、創刊号、84-94頁、がある。

した読者はもう一度、母という意味から詩節全体を読み直すことになる。

Metre: Śikharinī.

/ bla ma rnam kyī mdun dag tu yang shin tu bla ma'i gnas su che / / 'byung po
rnam ni 'dzin byed mtha' dag ro yi snying po rab tu bskrun /
/ lus ni mdza' gcugs bzhin du rgyas byed skabs gsum chu bo gtsang ba'i lus / /
ma de nyid ni rtag tu mkhas pas mchod bya yin gyi nor 'dzin min /
lc ba'i] δ : ma'i β .

/ śrāvastyāṃ vistaraṃ dharmam jetavane rame jinaḥ
pratipādyā punar bhikṣusaṃgham saṃkṣiptam abravīt // 92.2 //

2a vistaraṃ] T, confirmed by tib. rgya che'i (*Skt. vistaraṃ) : vistarataṃ ABE. 2b
rame] T, confirmed by tib. dga' bar (Skt. *ramye, but metri causa *rame) : this word
om. AB (AB read vistarataṃ dharmam jetavane jinaḥ /). Metrically vistaraṃ dharmam
is preferable to vistarataṃ.

/ śrā bastyāṃ bista randharmma je ta ba ne ra me ji naḥ / pra tisā dya pu narbhikṣu saṃ ggham
saṃ kṣipta ma bra bīta // [2]

シュラーヴァステイーの美しいジェータ林で、勝者は詳細な教えを教えられた後、比丘衆に再
び要約した[教え]を語った。

Note 2a vistaraṃ dharmam] この「詳細な教え」とは、この第92章の源泉資料である Avadānaśataka [36]
Maitrakanyaka の話の冒頭にある、両親を敬うべきことを散文で説いた説法を指している (SPEYER, I, p.
193, l. 6, sabrahmāṇi [...]). その後に、仏陀が唱えた三詩節から成る韻文があり (p. 194)、それがここ
で「要約した教え」と呼ばれている。

/ mnyan yod dag gi rgyal byed tshal / / dga' bar rgyal bas rgya che'i chos /
/ rab tu bstan nas mdor bsdus pa / / slar yang dge slong tshogs la gsungs /

/ pitarau paramam brahma jaṅgamaḥ puṇyasaṃgamaḥ /
kulāni tāni dhanyāni yeṣāṃ dharmas tadarcanam // 92.3 //

/ pi ta rau pa ra maṃ brahma jaṃ ga maḥ puṇya saṃ ga maḥ / ku lā ni tā ni dhya nyā ni ye
ṣāndharmma sta da cca ni // [3]

両親とは至高のブラフマンであり、生きた「福德との結合」(そのもの)であり、それ(両親)を崇め
ることを法とするなら、家々は繁栄する。

Note 3a pitarau paramam brahma] この表現について Avadānaśataka [36] Maitrakanyaka の相当箇所でも
brahmā hi mātāpitarau と説かれる (SPEYER, I, p. 194, l. 3)。

/ pha ma mchog tu tshangs pa ste // g.yo ba'i bsod nams dag gi grogs /
/ gang zhig de mchod chos ldan pa'i // rigs de bsngags par 'os pa yin /

/ satyopamaṃ nāsti tapas triloke na kvāpy ahiṃsāsadr̥śo 'sti dharmah /
gurur garīyān na pituḥ paro 'sti mātuh paraṃ daivatam asti nānyat // 92.4 //

/ pa tyo pa maṃ nāsti ta pastri lokyā na kva pya hiṃ sā sa dṛ śosti dharmmah / gu rurga rī
yānna pi tuḥ pa rosti mā tuḥ pa (raṃ D : ri T) dai {T542b} ba tā masti nā nyata // [4]

真実(約束を守ること)に匹敵する苦行は三界になく、不殺生に匹敵する[行いの]法はどこにも
ない。父のほかに最も敬われるべき長上はいないし、母のほかに最も神々しい存在はない。

/ 'jig rten gsum na bden mtshungs dka' thub med // 'tshe med mtshungs pa'i chos
ni gang na'ang med /

/ bla ma lci ba pha las gzhan yod min // lha yi mchog ni ma las gzhan pa min /
4a bden] δ : bde β .

/ sevitaṃ prasabhabhaktinirbharaiḥ pādapuṣkarayugaṃ guror na yaiḥ /
te paraṃ jalarucaiva kevalaṃ sarvatīrthagamane 'pi niṣphalāḥ // 92.5 //

5c jalarucaiva] AT : jalaruceva BE. 5d niṣphalāḥ] T : niḥphalāḥ ABE.

/ se bi taṃ pra pa bha bha kti nirbha raiḥ pā da puṣka raṃ yu ga gu ranno yaiḥ / te pa raṃ jaṃ
la ru cai ba ke ba laṃ sarbba tīrtha ga ma ne pi niṣpha lāḥ // [5]

熱烈な献身の心で、長上(親)の蓮華のような御足に奉仕していないのに、[聖なる]水ばかり
をひたすら欲して、あらゆる水辺の聖場に行ったとしても、そんな人々は、何の果報も得られな
い。

Metre: Rathoddhatā.

/ gang zhig lhag par gus pa rab rgyas pas // bla ma'i zhabs kyi padma zung mi
bsten /

/ de dag mchog tu chur sred 'ba' zhig gis // 'jug ngogs kun tu song yang 'bras bu
med /

5b bsten] δ : sten β .

/ sevyah sukhair avimukhaḥ satataṃ kṣamābhṛt
tīvravratādinīyamair avitīrṇaśoṣaḥ /
alpe 'py analpaphaladaḥ prāṇayopacāre
mātuh pituś ca na samo 'sti gurus tṛtīyaḥ // 92.6 //

6a kṣamābhṛt] ABET : kṣamābhūh Ed. Cf. de JONG. 6c praṇayopacāre] BET :
praṇayopacāra A. 6d samo 'sti] AT (samosti) : samopi BE.

/ pai byaḥ su khai ra bi mu khaḥ sa ta taṃ kṣa mā bhṛtī bra bra tā di ni ya mai ra ci tīrṇa śo
ṣaḥ / alpe {D243a} pya nalpa pha la daḥ pra ṇa yo pa cā re mā tuḥ pi tuśca na sa mo sti gu rustī tī
yaḥ // [6]

[奉仕者(子や弟子)に]そつぽを向かず、つねに忍耐心をもつ方、厳しい警戒のような抑制を
課すことによって[奉仕者を]枯れさせてしまわない方(長上)は、さまざまな安樂を用いて仕えら
れるべきである。[その長上は]愛情ある奉仕がたとえわずかであっても、多大の果報をもたら
す。そして父と母に匹敵するほどの第三の長上は、存在しない。

Metre: Vasantatilaka.

/ bde bas bsten bya phyi rol mi phyogs rtag tu bzod pa 'dzin / / drag po'i brtul
zhugs la sogs nges pas gdung ba ster mi byed /
/ gus pa'i rim gro chung ngu la yang mi chung 'bras bu ster / / pha dang ma dang
mnyam pa'i bla ma gsum pa yod ma yin /
6b pas] δ : par β . 6d ma yin] δ : pa min β .

/ ācāryaḥ sukr̥tārthadeśikatayā kair *nābhinandyaḥ sadā
prāṇānām janakaḥ kathaṃ na janakaḥ pūjyo gurūṇām guruḥ /
tatrāpi kṣaṇagarbhadhāraṇabharakleśasya mātuh param
kenānṛṇyavidhānapuṇyanicaye nāsādyate nirvṛtiḥ // 92.7 //

7a *nābhinandyaḥ] ex coni, inferred from T (nā bhi na dyaḥ) and tib. mngon par dga'
mi bya (Skt. *nābhinandya) : nābhivandyaḥ A : nābhivandyaḥ BE.

/ ā cāryaḥ su kṛ tārtha de śa ka ta yā kair nā bhi na dyaḥ sa dā prā ṇa nām ja na kaḥ ka thaṃ na
ja na kaḥ pū jya gu ru nām gu ruḥ / ta tā pi kṣa ṇa garbha dhā ra ṇa bha ra kle śa sya mā tuḥ pa
raṃ ke nā nṛ nya bi dhā na pu nya ni ca ye nā sādyate nirvṛ tiḥ // [7]

[師は]善い行為の利益を示してくれる者であるから、師(ācārya)を誰が常に称えないであらう
か。また[子らの]命を生じさせた者として父が、長上の中の長上としてどうして供養されないで
あろうか。[しかし]そうであっても、一刹那[でも]妊娠による重荷がもたらした母の苦しみに対し
て無負債となる(帳消しになる)行為として、大いに[母への孝行という]福德の集積をなすなら、
誰が浄福(寂滅)を達成しないだろうか。

Note 7c tatrāpi [...] kleśasya param] ここで tatrāpi は解釈が難しいが、「そうであっても」(Und trotzdem)
の意味と取る。蔵訳は de bas kyang ni 「彼らと比べても」と訳しており、原語に *tato 'pi (= taylor api) を想
定させるが、韻律上 *tato 'pi の読みを採ることは出来ない。次に kleśasya の語は anṛnya- (無負債) の語

にかかると解釈する。また param は動詞的意味をもつ動作名詞 nicaye にかかると解釈し「大いに」と訳した。蔵訳も param を副詞として mchog tu と訳している。

Note 7d nicaye nāsādyate] ここで Bibliotheca Indica 版では nicayenāsādyate (nicayena + āsādyate) と読んでいるが、nicaye nāsādyate と切る [Sugg. HAHN]。つまり kena ... na の、二重否定文として解釈する。なお蔵訳者はこの切り方をしなかったらしく、否定辞の na を訳していない。

Metre: Śārdūlavikrīḍita.

/ legs byas don ston byed pas slob dpon rtag tu su yis mngon par dga' mi bya / /
srog rnam skyed byed bla ma rnam kyi bla ma pha ni ji ltar mchod mi bya /
/ de bas kyang ni mchog tu skad cig mngal gyi khur bzung ma yi ngal dub la / /
bu lon dag par sgrub byed bsod nams tshogs ni ci yis dag pa thob par 'gyur /
7d dag par] δ : dag pa β .

/ mātur nikārakaṇam apy avivekapāka-
saṃprāpta*pātakagaṇaḥ kila yaḥ karoti /
tasya jvalajjvalanajālaśikhākālāpaḥ
pāpavrate bhavati mūrdhni jaṭākāṭapraḥ // 92.8 //

8b *pātakagaṇaḥ] ex coni, confirmed by tib. sdig pa'i tshogs (*pātakagaṇaḥ) :
pātakuśalaḥ ABE (= Ed.). The letters kuśalaḥ in A resemble closely kagaṇaḥ.

/ mā turnni kā ra ka la ma sya bi be ka pā ka saṃ prāpta sā taka ku laḥ ki la yaḥ ka ro ti / ta sya
jva lajjva la na jā la śi khā ka lā paḥ pā pa bra te bha ba ti mūrdhī ja ṭa ka ṭa yuḥ // [8]

母に対して、わずかな暴力であっても、[それを]なした者は、気づかぬままに成熟する多量の罪惡を得た者になる。悪い行状において、その者の頭頂の弁髪は[これから述べるマイトラカンヤカのように]燃え上がる炎のたばになる。

Note 8d kaṭapra] この語義に関して参照 : SCHMIDT, Nachtr s.v. *kaṭapra "Menge".

Metre: Vasantatilaka.

/ dben pa ma smin sdig pa'i tshogs ni yang dag thob gyur pa / / gang gis ma la
smod pa'i cha yang nges par sgrub byed pa /
/ sdig pa'i brtul zhugs de yi spyi bor ral pa'i tshogs dag ni / / rab 'bar me yi dra
ba'i rtse mo'i tshogs pa dag tu 'gyur /
8a tshogs ni] δ : tshig gi β . 8b gis] β : gi δ . 8c brtul] GDT : btul NQ.

Note 8a dben pa ma smin] この蔵訳は誤訳であり、viveka の語を「識別」ではなく「遠離、独居」(cf. BHSD s.v. viveka) の意味に取って「熟さない独居」と解釈した。

/ nikārakāriṇā mātur mayāpy aparajanmani /

pāpaśāpamayasa tāpaḥ prāptaḥ paryāptavaiśasaḥ // 92.9 //

9a nikāra] T, confirmed by tib. smod par (Skt. *nikāra) : vikāra or nikāra
A(post corr.) : kikāra A(ante corr.) : vikāra BE (= Ed.). 9d paryāpta] ABET :
paryāya Ed. Cf. de JONG.

/ ni kā ra kā ri ṇā mā turmma yā sya ba ra janma {T543a} ni / pā pa śā pa ma yanta paḥ prā
ptaḥ paryāpta bai śa paḥ // [9]

母に粗暴な振舞をした私(仏陀)も、別の生において、罪惡[が発した]呪詛そのものである、
[罪の重さに]十分匹敵する罰(paryāptavaiśasaḥ)である苦しみを得た。

/ skye ba gzhan du ma la ni // smod par byed pa bdag gis kyang /

/ sdig dmod rang bzhin mi 'dod pa // yongs su rdzogs pa'i gdung ba thob /

/ vārāṇasyāṃ gr̥hapatir maitro nāma purābhavat /

patnī vasundharā nāma tasyābhūd ativallabhā // 92.10 //

/ bā rā (ṇa D : ṇā T) syaṃ gr̥ ha pa {D243a} tirmai tro nā ma pu rā bha bata / ba sundhā rā nā
ma ta syā i ti bhū da ti balla bhā // [10]

むかしベナレスにマイトラという富豪がいた。彼の妻はヴァスンダラーといい、とても夫に愛さ
れた。

/ bā rā ṇa sī dag tu sngon // khyim bdag mdza' bo zhes pa byung /

/ de yi chung ma nor 'dzin ma // zhes pa shin tu yid 'ong gyur /

10a bā rā ṇa sī] D : ba ra ṇā si β T.

/ jātāmātreṣu putreṣu tasyāḥ prāpteṣu pañcatām /

paścime vayasi śrīmān ekaḥ sūnur ajāyata // 92.11 //

11d ekaḥ sūnur] ABE : ekasūnur T (e ka pū nu r).

/ jā ta mā tre ṣu pu tre ṣu ta syāḥ prāpte ṣu pañca tām / paści me ba ya pi śrī mā ne ka pū nu ra
jā yata // [11]

彼女の息子たちは生まれるや否や死んでしまったが、人生の最期の時期に一人のすばらし
い息子が生まれた。

/ de yi bu rnams skyes tsam na // lnga pa nyid ni thob pa'i tshe /

/ na tshod mtha' ru bu dag ni // dpal dang ldan pa gcig btsas gyur /

11a tsam na] δ : tsam la β .

/ vipattibhītyā tasyāpi kanyākhyām akarot pitā /
maitrakanyakanāmāsau tenābhūd viśrutah śīśuḥ // 92.12 //

12b kanyākhyām akarot] T and probably A(ante corr.) : kanyānāmākarot A(post corr.)BE.

/ bi pa ti bhī tya ta syā pi ka nyā khyā ma ka rotpi tā / mai tra ka nya kā nā ma sau te nā bhūdbi
śru taḥ śī śuḥ // [12]

彼にも不慮の死があるのではないかと恐れて、父は娘の名をつけた。その[父]によってその子はマイトラカンヤカ(マイトラの娘)という名をもつ者として世に知られることとなった。

/ de yang 'chi bas 'jigs pa yis // pha yis bu mo zhes par btags /
/ de yis mdza' bo'i bu mo zhes // byis pa de ni grags par gyur /
12a pa yis] D : pa yi β T. 12c de yis] β : de yi δ .

/ samudragamane tasya janake nidhanam gate /
ekaputraiva janani nidhitulyam rarakṣa tam // 92.13 //

/ sa mu dra ga ma ne ta sya ja na ke ni dha nam ga te / e ka pu trai ba ja na nī ni dhi tu lyam ca
rakṣa tām // [13]

彼の父は航海の途中死んだため、一人の息子だけをもつ母は彼を宝のように守った。

/ de yi pha ni rgya mtsho ru // song zhing shi bar gyur pa'i tshe /
/ bu gcig pa nyid ma yis ni // gter dang mtshungs pa dag tu bsrungs /

/ kulakramāgatām tasya dvīpayātrām nivārya sā /
ādideśa svadeśārham svalpavikrayajīvikām // 92.14 //

/ ku la tra mā ga tā ta sya dvi pa yā trām ni barye sa / ā di de śa sva de śa rham svalpa bi kra (ye
D : ya T) jī bi kām // [14]

かの[母]は家で代々継承されてきた海上貿易を彼に禁じ、自分の国に適した、ちっぽけな商売をなりわいにすることを命じた。

/ rigs kyi rim pas 'ongs pa yi // gling du 'gro ba bzlog nas des /
/ de la 'tsho thabs rang yul du // 'os pa chung ngu 'tshong ba bstan /
14a pa yi] β : pa yis δ . 14d 'os pa] β : 'os pas δ || 'tshong] δ : 'tsho β .

/ sa pūrvavikrayotpannam kārṣāṇacatuṣṭayam /
tato dviguṇam anyasmin dine 'py atha caturguṇam // 92.15 //

/ kārṣa pa ṇa ca tuṣṭa (pūrbbam D : purbbam T) yaṇ bi kra (yotmannam D : yotpannam T) / ta

to dvi gu ṇa ma nyasmina ndi ne pya tha ca turgu ṇaṃ // [15]

彼は最初の商売によって生じた4カールシャーパナを、翌日にはその二倍を、さらに四倍を、――

/ dang por tshong las skyes pa ni // karṣa pa ṇa bzhi dag dang /

/ de nas nyi ma gzhan la ni // de las nyis 'gyur bzhi 'gyur dang /

/ tataś cāṣṭaṇaṃ lābhaṃ sarvaṃ māt্রে nyavedayat /

kulocitāṃ dvīpayātrāṃ śrutvābhūd atha sotsukaḥ // 92.16 //

/ ta taścāṣṭa gu ṇaṃ lā bhaṃ sarbbaṃ mmā tra nya be da yata / ku lo ci tāṃ dvī pa yā trāṃ śru {D244a} tvā bhū da tha sotsu kaḥ // [16]

そして八倍となった利益すべてを、母に献じた。[彼の]家系に親しまれた[生業]が海上貿易であることを聞くと、彼は[それを]切望するようになった。

/ de nas brgyad 'gyur dag kyang rnyed // thams cad de yis ma la phul /

/ de nas gling bgrod rigs la ni // 'os pa thos nas 'dod ldan gyur /

16d 'os pa] δ : 'os par β .

/ samudragamanārambhasaṃbhārarasasādarah /

sa māt্রে vāryamāṇo 'pi nāmanyata nivartanam // 92.17 //

/ sa mu dra ga ma nā raṃ bha saṃ {T543b} bhā ra ra pa pā da rah / sa mā drā barya mā ṇo pi nā ma nya ta ni bartta naṃ // [17]

航海の開始作業や準備資財に愛着し熱中した彼は、母から制止されても、やめようと思わなかった。

/ rgya mtshor 'gro ba rtsom pa yi // tshogs la chags shing gus ldan de /

/ ma yis bzlog par gyur mod kyang // ldog pa nyid du khas ma blangs /

17d ldog] β : bzlog δ (also correct).

/ tataḥ sa pādapatitāṃ jananīm śokavīhvalām /

dr̥ptaḥ śriyam ivotsārya caraṇena viniryayau // 92.18 //

/ ta taḥ pa pā da pa ti tāṃ ja na nīm śo ka bi hva lām / duṣṭaḥ śri ya mi botparya ca ra (ṇe D : ṇa T) na bi niryayau // [18]

それ故、悲しみのあまり惑乱して[彼の]足許に倒れた母を、まるで傲慢な男が繁栄の女神を足で蹴り払うように、彼は母を足で蹴り払い、出ていった。

/ de nas ma ni mya ngan gyis // 'khrugs shing rkang pa la 'gyel bas /

/ gdug pa de yis dpal bzhin du // rkang pas rab tu spangs nas song /

18c de yis] β : de yi δ .

/ peyūṣaṃ skhalitārdhavarṇalalitālāpaiḥ śīśur varṣati

prītiṃ sphīṭamanorathotsavaśatair dhatte vineyas tataḥ /

paścād utkaṭayauvanoṣmavikaṭāhaṃkāravādī *paṭur

dūṣputraḥ sphuṭakālakūṭakaṭukaḥ kaṣṭāṃ karoti vyathāṃ // 92.19 //

19a peyūṣaṃ] AT : paiyūṣaṃ BE : pīyūṣaṃ Ed. 19c *paṭur] ex conī (cf. tib.) : patuḥ
Ed. : paṭu A(post corr.)BET : paṣu(?) A(ante corr.).

/ pe yū ṣaṃ skha li tārdha barṇṇa la li tā lā bai śī śurbbarṣa ti prī ti sphī (ta D : taṃ T) ma no ra
thotsa ba śa (tairdhatte D : tairddhatte T) ba ni yasta taḥ / paścātpatka ṭa yo ba noṣma bi ka ṭā
ṭadkā ra bī dī pa ṭu duḥ pu traḥ sphu ṭa kā la kū ṭa ka ṭu kaḥ kaṣṭā ka ro ti bya thāṃ // [19]

吃った半分[欠けた]字音のかわいらしい発声によって、幼児は[親たちに]天の甘露を雨ふらせ
る。その後[やや成長すると]、ひどく膨らんだ[無邪気な]願望・空想の百の祭典によって、
訓育されるべき者(子供)は喜びを与える。その後、異常な青春の発熱をともなって物凄い自我
の主張をなし、狡くなった不良息子は、明白に現れたカーラクター毒のように激烈な者として、
[親に]ひどい苦しみを生じさせる。

Note 19d kākakūṭa] カーラクター毒は乳海攪拌の時生じた、不死の甘露(amṛta)の正反対の毒。詩の初
めと最後にこの甘露と毒の二つの譬喩を用いて、両極にあるが同時に生まれた、必然的に結びついてい
る二者を対にして示すことで、子をもつことが大きな喜びと苦しみを共に親にもたすことを語る。

Metre: Śārdūlavikrīḍita.

/ dang por byis pa 'khrul zhing yi ge phyed brjod yid 'ong bdud rtsi'i char dag

'bebs // de nas dul bas yid la re ba'i dga' ston rgyas pa brgya yis dga' ba 'dzin /

/ phyi nas mi bzad lang tsho'i tsha ba drag pos brlang po dag tu smra byed mkhas

// gsal bar nag po brtsegs pa ltar rtsub ngan pa'i bu yis sdug bsngal gdung bar

byed /

19a zhing] δ : cing β . 19b dul bas] β : dul ba'i δ . 19c tsho'i] δ : tsho β . 19d
nag] δ : nags β .

Note 19d : brlang po dag tu smra byed] ここで蔵訳は ahaṃkāravādin を直訳せず、「[親に向かって]粗
暴な言をなす者」(brlang po dag tu smra byed)と遠回しに表現した。

/ vipulaṃ jananiśokam iva prāpya sa sāgaram /

samāruhya pravahaṇaṃ yayau ratnārjanotsukaḥ // 92.20 //

/ bi pu lam ja na nī śo ka mi ba prā (pye D : pya T) sa sā ga ram / sa mā ru hya pra ba ha nam
ya yau ratnārja notsu kaḥ // [20]

宝石を得ようと欲する彼は、広大な母の悲しみのような、広大な海に至り、船に乗って、出発した。

/ rin chen bsgrub par 'dod pa de // ma yi mya ngan yangs par bzhin /
/ rgya mtsho'i drung du phyin nas ni // gzings la rab tu zhon te song /
20a bsgrub] δ : sgrub β .

/ makarasphāranakharakrūrakrakacadāritam /
tatas tasya pravahaṇam kūle prājyam abhājyata // 92.21 //

/ ma ka ra spā ra na kha ra kru ra kra ka cā dā ri tām / {D244b} ta taḥ ta sya pra ba ha nam kū
le prā jya ma bha jya ta // [21]

怪魚マカラの巨大な鉤爪の恐ろしいギザギザ(のこぎり)に切り裂かれた、彼の大きな船は岸辺で壊された。

/ de nas de yi gzings chen ni // rab rno chu srin sen mo yi /
/ sog le drag pos dral bar byas // 'jug ngogs dag tu zhig par gyur /
21b rno] δ : rnon β (also right) || mo yi] DNQ : mo yis GT.

/ tasyotsiktamater mātur āśābhaṅgaguror bharāt /
bhagne pravahaṇe tasmin mohāḥ śāpa ivābhavat // 92.22 //

/ ta syotsikta ma termā tu rā śā bham ga gu (rotbha D : rodbha T) bata / bhagne pra ba ha ṇe
tasminmo heḥ śā pa i bā bha bata // [22]

高慢な考えの彼の、母の願いを破壊した(母を失望させた)重たい貨物のおかげで、その船が破壊された時、[彼は]まるで[母を足蹴にした罪による]呪詛のように、意識を失った。

/ blo gros rab 'phyar de yis ni // ma yi bsam bcom khur lci bas /
/ gzings ni zhig par gyur pa des // dmod pa bzhin du rmongs pa thob /

/ tataḥ phalahakāvāptyā śanaiḥ saṃjñām avāpya saḥ /
tīram āsādyā jaladher jagāhe gahaṇam mahat // 92.23 //

/ ta taḥ pha la ha kā bā ptyā śa naiḥ saṃ {T544a} jñā ma bā sya saḥ / tī ra mā sā dya ja la dhirja
gā he ga ha nam ma hata // [23]

それから木の板を得て、彼は次第に意識を取り戻し、海岸にたどり着き、大きな密林の中に入ってしまった。

/ de nas shing gi tshal pa thob // dal gyis 'du shes thob pa des /
/ chu gter gyi ni ngogs phyin nas // nags tshal chen po'i nang du zhugs /
23c gyi] δ : gyis β .

/ ekākī hāritadhṛtiḥ sa vrajan vijane cirāt /
ramyaṃ ramaṇakaṃ nāma nagaraṃ divyaṃ āptavān // 92.24 //
24d divyaṃ āptavān] B : divyaṃ a{ {vā} }ptavān A : divyaṃ avāptavān E.
/ e kā kī hā ri ta dhṛ tiḥ sa bra janbi ja ne ci rāta / ra myaṃ ra ma ṇa kaṃ nā ma na ga raṃ di
bya mā bha bata // [24]

勇気を奪われ、たった一人で無人の地を長い間歩いた彼は、ラマナカという美しい神々しい
都市に到着した。

/ gcig pu brtan nyams 'gro ba des // skye bo med par yun ring na /
/ grong khyer rtse dga' can zhes pa // dga' ba mchog ni thob par gyur /
24a brtan] δ : bstan β . 24b med par] δ : med sar β .

/ apsaroḥśī catasṛbhir vadanendutviṣāṃ cayaiḥ /
jyotsnāpūraṃ sṛjantībhiḥ kṛtātithyaḥ sa sādaram // 92.25 //
25a catasṛbhir] T : catasṛābhir ABE.
/ appa ro bhiśca ta (sre D : sṛ T) bhirba da nendu tvi ṣāṃ ca yayiḥ / jyotsna pu raṃ sṛ janti bhiḥ
kṛ tā ti thyaḥ sa sā da raṃ // [25]

美貌に月光の集積(輝き)をそなえて、月光の流れを発出している四人のアプサラス(天女)た
ちによって、恭しく[彼は]もてなされた。

/ bzhin ras zla zer tshogs rnam kyis // zla ba'i 'od ni spro byed pa /
/ lha yi bu mo bzhi dag gis // gus bcas mgron ni byas pa de /

/ hemapuṣkariṇīre ramye ratnalatāvane /
maṇimandiraśāyāsu tatra saṃbhogavān abhūt // 92.26 //
26a puṣkariṇī] A(post corr.)BET : puṣkaraṇī A(ante corr.).
/ he ma puṣka ri ṇī tī re ra mya ratnaṃ la tā ba ne / ma ṇi mandi ra śāyā su ta tra saṃ bho ga
bāna bhūta // [26]

黄金[で出来た]池の岸辺の、快い宝石の蔓草の森で、そこで彼は宝石の東屋にベッドをも
つ[女たち]の間で、快樂を楽しんだ。

/ gser gyi rdzing bu dag gi 'gram // rin chen 'khri shing dga' ba'i tshal /

/ nor bu'i khang pa khri stan can // der ni longs spyod ldan par gyur /

Note 26c khri stan can] この can は所有接尾辞ではない。can du の省略形として使われ「～に対して、に向かって」(= drung, 'khris, phyogs) という accusative 的な意味機能をもつ。Cf. STRAUBE (2006), S. 52.

/ vipadaḥ sukhaparyantāḥ kleśaprāntās ca saṃpadaḥ /
āvartinyo bhavanty eva paryāyeṇa śārīriṇām // 92.27 //

27b prāntās] AB : prāptās Ed. 27c āvartinyo] T (ā bartti nyo) : arvarttino A :
avartinyo BE. Cf. de JONG.

/ bi pa daḥ su kha paryantāḥ kle śa prī (tā D : tām T) śca sampa daḥ / ā bartti nyo bha baṃ tye
ba paryā ye {D245a} ṇa śa rī ri ṇām // [27]

どんな不幸も幸福で終り、どんな成功も苦しみで終る。生けるものたちにおいて、かわりばんこ
に (paryāyeṇa) [それらは] 転じる。

/ rgud pa dag ni bde ba'i mtha' // phun tshogs nyon mongs dag la *mtha' /
/ lus can rnam la re mos kyis // nges pa nyid du 'khor ba yin /

27b *mtha'] ex coni (cf. prāntāḥ) : mdza' β δ .

/ ratibhogapraṇayinā tās tena hariṇekṣaṇāḥ /
ramamāṇās ciraṃ prāpuḥ saubhāgyasya kṛtārthatām // 92.28 //

/ ra ti bho ga pra nī yi nā taste na ha ri nai kṣa (ṇāḥ D : ṇām T) / ra ma mā ṇāsci raṃ prā pūrbho
gya sya kṛ tārtha nām // [28]

性の享樂を欲する彼とともに、鹿の目をもつそれら[アプサラス]たちは長い間愉悦しながら、
大きな幸福を達成した。

/ dga' mgur spyod pa la chags pa'i // ri dwags mig can de dag rnam /
/ de dang rol pas yun ring du // skal bzang don byas nyid dag thob /

28b dwags] β : dags δ .

Note 28a chags pa'i] 梵文は praṇayinā で inst. であるが、chags *pas と修正せずに chags pa'i という形の
ままで読む。この修飾語は pāda b のアプサラスたちにかかるのではなく、pāda を飛び越えて、pāda c の de
dang (=tena) 「彼と」にかかる と解釈する。

/ nagare dakṣiṇaḥ panthā varjyaḥ sarvātmanā tvayā /
ity uktas tābhir adhikaṃ so 'bhūt tadgamanotsukaḥ // 92.29 //

29d so 'bhūt tadgamano] T, confirmed by tib. de ni 'gro (Skt. *tadgamana) : so bhūd
gamano A : so bhūc ca gamano BE : so 'py abhūd gamano Ed. Cf. de JONG (he didn't

consult T).

/ na ga re dakṣi ṇaḥ panthā barjyaḥ sarbbatma nā tva yā / i tyu ktaste bhi ra dhi kaṃ so
bhūttadga ma notsu kaḥ // [29]

[この]都城で、南に向かう道にあなたは絶対に近づいてはなりません、と彼女たちに言われた彼は、そこに行くことを強く欲した。

/ khyod kyis grong khyer lho yi lam // bdag nyid kun gyis spang bya zhes /
/ de dag gis brjod tshe na de // lhag par de ni 'gro 'dod gyur /

/ kāmam niyamavāmasya svādhīnānabhiḥ /
prāyeṇa vardhate jantor niṣedhenādhikādarah // 92.30 //

/ kā mam ni ya ma bā ma sya svā dhī nā na bhi lā ṣi {T544b} ṇaḥ / prā ye ṇa barbha te jenttonni
ṣe dha nā dhi ka da rah // [30]

確かに、禁戒を毛嫌いし自制を好まない人においては、禁止されることによって大抵はいつそ
う関心が増大するものである。

Note この格言めいた文章はもともと Avadānaśataka [36] Maitrakanyaka の次の文に基づく: sa yato
dakṣiṇāyāḥ paddhater nivāryate tataḥ suṣṭhutam utkaṇṭhito gantum / (SPEYER, I, p. 201, l. 5) 「彼は南への
道を禁じられたために、いつそ行くことを熱望した」。またこの Avadānaśataka の文は Divyāvadāna [38]
Maitrakanya の第97-98詩節でも、似た様に格言的な言葉に仕立てられている (Konrad KLAUS (1983):
Maitrakanyakāvadāna (Divyāvadāna 38), IeT 2, Bonn. S. 73-74)。

/ rang dbang mngon par mi 'dod cing // nges par bsdams pa'i mi mthun phyogs /
/ srog chags rnams ni bkag pa la // phal cher gus pa lhag par 'phel /

/ tataḥ sa kautukākṛṣṭas tena dakṣiṇavartmanā /
vrajan prāpa sadāmattaṃ nāma divyapuram param // 92.31 //

31c sadāmattaṃ] AT : sadāmakam BE. 31d divyapuram] AT : divyam puram BE (= Ed.)

/ ta taḥ (kau D : ko T) tu kā kṛṣṭaste na dakṣi ṇa bartma nā / bra janprā paḥ sa dā mattam nā ma
de bya pu ra pa ram // [31]

そして彼は好奇心に引かれて、その南の道を進み、サダーマッタという、別の神々しい都城に
到達した。

/ de nas dge mtshan gyis drangs de // lho yi phyogs kyī lam de nas /
/ song bas rtag tu myos zhes pa // lha yi grong khyer gzhan pa thob /

31a de] D : te β T. 31c myos] δ : myong] β .

Note 31a dge mtshan] この蔵訳者は梵語 kautuka, kutūhala をほとんど機械的に dge mtshan と訳すので、訳語 dge mtshan (吉兆)に元々「好奇心」という意味はないが、その意味を元の梵語から得る必要がある。

/ aṣṭāv apsarāṣas tatra tadavad bhogyatvam *āgatāḥ /
tasyopacāraracanāṃ ciraṃ cakrus tato 'dhikāṃ // 92.32 //

32b *āgatāḥ] ex conī (Ed.) : āgatā ABE.

/ aṣṭa bapsa ra pasta tra tadbaddho gya tva mā gra tā / ta syo pa cā ra ra ca nāṃ ci raṃ cakruṣṭa
syā dhi kā // [32]

そこで八人のアプサラスたちが同様に享受しうる者となった。彼女たちは長時にわたり、その[前の女たち]よりもいっそう[まめまめしく]彼への侍仕の営みをなした。

Note 32cd Alaṃkāra: Anuprāsa of the consonant of c.

/ der ni de bzhin lha mo brgyad // spyad bya nyid du gyur rnam kyis /
/ de la rim gro'i bkod pa dag // de las lhag pa yun ring byas /

/ tābhiḥ krameṇa tenaiva niṣiddhe dakṣiṇe 'dhvani /
sa kautukād gataḥ prāpa tṛtīyaṃ nandanam puram // 92.33 //

/ tā bhiḥ kra me ṇa te nai ba ni ṣirdhi da kṣi ṇe dhva ni / sa kau tu kādga taḥ prā pa tṛ tī yaṃ
nanda naṃ pu {D245b} raṃ // [33]

[先と]同じ様に事が進み、彼女たちによって南の道が禁じられると、彼は好奇心により行き、ナンダナという第三の都城に達した。

/ de dag rnam kyis rim pa des // lho yi lam ni bkag pa na /
/ de ni dge mtshan las song bas // grong khyer gsum pa dga' byed thob /

/ ṣoḍaśāpsarāṣas tasya ratibhogopabhogyatām /
tatra krameṇa tenaiva yayur līlāvilāsinah // 92.34 //

/ ṣo ḍa śāppa ra sasta sya ra ti bho go pa bho gya tāṃ / ta tra kra me ṇa te nai ba ya (yurī D :
yurī T) lā bi lā pi nah // [34]

そこで、[前と]同じ様に事が進み、十六人のアプサラスたちが、遊び戯れて愉しむ彼の快樂のために享受しうるものとなった。

/ der ni rim pa de nyid kyis // rtse dgas rnam par rol de la /
/ lha mo bcu drug dga' mgu yi // longs spyod spyad bya nyid du gyur /

34c mgu yi] NQ : mgu yis δ G.

/ tābhir niṣiddhena punar dakṣiṇena pathā vrajan /
brahmottarākhyam prāsādam āsasāda sa sādaraḥ // 92.35 //

/ tā bhirnni ṣiddhe na pu nardakṣi ṇe na pa thā bra jan / bra (hmotta D : hmatta T) rā khya prā sā
da mā sa pā da sa sā da raḥ // [35]

またも彼女たちに禁じられた南の道を通って進み、ブラフモータラという名の宮殿に、強い
関心をもって彼は近づいた。

Note 35cd Alamkāra: Anuprāsa of sa and da.

/ de dag gis kyang bkag pa yi // lho yi lam nas song gyur pa /
/ gus bcas de yis khang bzang ni // tshangs pa'i mchog ces bya bar phyin /

/ dvātriṃśad atha saṃprāpya tatrāpy apsarasah parāḥ /
saṃbhogasubhagas tadvad yayau dakṣiṇavartmanā // 92.36 //

36a dvātriṃśad atha] ABET : dvātriṃśad eva Ed. Cf. de JONG.

/ dvā trim śa da tha saṃ prā pya ta trā pyappa ra saḥ pa rāḥ / saṃ bho ga su bha gastadbadya
yau dakṣi ṇa bartma nā // [36]

するとそこでも別の三十二人のアプサラスたちが得られて、大きな幸運を享受した彼は、[前
と]同様に南の道を進んだ。

Note 話の展開として Ramaṇaka (4 apsaras), Sadāmatta (8 apsaras), Nandana (16 apsaras), Brahmottara
(32 apsaras) と進んでゆくのは、Avadānaśataka Maitrakanya (SPEYER, pp. 200-202) の記述と合致し、また
Divyāvadāna Maitrakanya (KLAUS, S. 75) と合致する。

/ de nas der yang lha mo gzhan // sum cu rtsa gnyis longs spyod kyi /
/ skal bzang gis ni yang dag thob // de bzhin lho yi lam nas song /
36b kyi] β : kyis δ .

/ sa vrajan nagaram prāpa durgaprāyam ayomayam /
paruṣam khalasauhārdam ivāyāsacayāśrayam // 92.37 //

37c paruṣam] AT : paruṣa BE. 37d āśrayam] ABET : āśayam Ed. Cf. de JONG.

/ sa dra janna ga raṃ prā pa durga prā ya ma yo ma maṃ / pa ru ṣaṃ kha la po hārda mi bā yā
{T545a} pa ca yā śra yaṃ // [37]

彼が進んでゆくと、[至る所]高所低所に充ちた、鉄で出来た都城に到着したが、そこはまるで
悪人どもの友情のように荒々しい、多くの悩みの住まいであった。

Note 37d āyāsacayāśrayam] ここには同義語の連想による言葉遊びがある。pāda b の ayomaya 「鉄製

の」から自然に連想される āyasa「鉄製の;鉄」という語に類似する語 āyāsa「労苦、悩苦」を用いた遊びで、
「多量の鉄の住まい」(āyasacayāśraya)に「多くの悩苦の住まい」(āyāsacayāśraya)が入れ替わる。

/ de ni song bas mi bsrūn pa'i // grogs bzhin nyon mongs tshogs kyi gnas /
/ lcags kyi rang bzhin rtsub po yi // grong khyer ngan 'gro mang po thob /
37a bsrūn] δ : srūn β . 37d mang po] δ : mang ba β .

/ tasya tatra praviṣṭasya kramād dvārāṇi bhūmiṣu /
kenāpi pihitānīva yayur niḥsaṃdhibandhatām // 92.38 //

38c pihitānīva] ABE : pi hi tā ni ba T : pihitāny eva Ed. Cf. de JONG.

/ ta sya ta tra pra biṣṭa sya kra māddvā ra ṇi bhū mi ṣu / ke nā pi pi hi tā ni ba ya yurnī sandhi
bandha nām // [38]

彼が次第にその中に入ってゆくと、[そのつど]各階にあるすべての扉は、まるで誰かが閉めたかのように、つなぎ目がみえないほど[固く]、閉ざされた。

/ der de nang du zhugs pa na // rim pas sa la sgo rnams ni /
/ su zhig dag gis bsgribs pa bzhin // mtshams med bsdams pa nyid du gyur /

/ tadantare mahākāyaṃ so 'paśyat puruṣaṃ sthitam /
sakalakleśadoṣāṇāṃ vistīrṇam iva bhājanam // 92.39 //

/ ta danta re ma hā kā yaṃ so pa śyatpu ru ṣaṃ sthi taṃ / sa ka la kle śa do ṣā ṇāṃ bistīrṇa mi
ba bhā ja na // [39]

その中に彼は大きな体の男が立っているのを見た。まるであらゆる煩惱や悪徳の巨大な器を見るかのようであった。

/ de yi nang na skyes bu ni // lus chen gnas pa de yis mthong /
/ mtha' dag nyon mongs skyon rnams kyi // snod ni shin tu che ba bzhin /

/ jvālāvalayitaṃ cakram tasya mūrdhni paribhramat /
tīkṣṇaṃ dadarśa baddhasya saktaṃ raktapravāhiṇaḥ // 92.40 //

40c baddhasya] ABET : cakrasya Ed. Cf. de JONG.

/ jvā lā bi la yi taṃ cakram ta sya {D246a} mūrdhni pa ri bhra mata / tīkṣṇaṃ da darśa baddha
sya saktaṃ raktaṃ pra bā hi ṇaḥ // [40]

炎に縁どられた回転する鋭い円盤が、血を流しているその縛られた者の頭頂に接しているのを[マイトラカンヤカは]見た。

/ bcings shing rgyun du khrag rgyun 'bab // de yi spyi bor 'khor lo ni /

/ rnon po 'bar bas *dkris pa dag // yongs su 'khor ba mthong bar gyur /

40a rgyun du] δ : rgyun tu β . 40c *dkris] ex conī (cf. valayitaṃ) : dkrigs β δ .

Note 40a rgyun du] ここで蔵訳者は「縛られてたえず (rgyun du) 血を流している」と訳しているが、この rgyun du は saktam の訳ではなく、*sadā か *satatam と読んだ可能性がある。

/ svaśīraḥprasrutaiḥ pūyaśoṇitair vihitāśanam /

taṃ dṛṣtvā tīvrānirvedād avadan maitrakanyakaḥ // 92.41 //

/ sva śī raḥ pra su taiḥ pū ya śo ṇi tirbi hi tā sa nāṃ /taṃ dṛṣtvā tī bra ṇirbe dā da ba danmai tra ka nya kaḥ // [41]

自らの頭頂から流れ出る膿汁と血によって食を与えられている彼を見て、激しい嫌悪から、マイトラカンヤカは語った。

/ rang gi mgo las zags pa yi // rnaḡ khrag gis ni zas bsgrubs pa /

/ de mthong drag po'i yid byung nas // mdza' bo'i bu mos rab smras pa /

41b bsgrubs] δ : sgrub β . 41c po'i] δ : pos β .

/ kas tvaṃ krūravyathākrāntaḥ kasyedaṃ karmaṇaḥ phalam /

prṣṭas teneti kārūṇyāt puruṣas taṃ abhāṣata // 92.42 //

42a ākrāntaḥ] AT : ākrāṃta BE.

/ kastvaṃ krū ra bya thā krāntaḥ ka sye daṃ karmaṇaḥ pha laṃ / prṣṭaste ne ti ka ru ṇyāta pu ru ṣasta ma bhā ṣa ta // [42]

「恐ろしい苦痛に襲われているあなたは誰ですか。これはいかなる業の結果ですか」。このような同情から彼が訊ねると、男は彼に答えた。

/ gdung ba drag pos non khyod su // 'di ni las dag ci yi 'bras /

/ zhes des snying rjes dris pa na // skyes bus de la rab smras pa /

42d bus] δ : bu β .

/ mātuḥ kṛtāpakāro 'haṃ tasyedaṃ karmaṇaḥ phalam /

etad ākarṇya so 'py āsīt pāpasamvādaśaṅkitaḥ // 92.43 //

/ mā tuḥ kṛ tā pa kā ro haṃ ta sye daṃ karmaṇaḥ pha laṃ / e ta dā karṇya so pya (pītpā D : pītpā T) pa sambāda śaṃ ki taḥ // [43]

「私は母に暴力をふるったのです。これがその業の結果です」。これを聞いて、彼も[自分の]悪行と符合するので不安になった。

/ bdag ni ma la gnod byed do // 'di ni las de nyid kyi 'bras /

/ de dag thos nas de yang ni // sdig pa dran nas dogs par gyur /

43a ni] δ : gi β .

Note 43d sdig pa dran nas] ここで蔵訳者は「罪を想起して」(sdig pa dran nas)と、pāpasamvāda を訳した。意識であろう。

/ so 'cintayan mamāpy asti pāpaṃ mātuh kṛtāgasah /
ayaṃ pāpasahādhyāyī dr̥ṣṭah smaraṇakṛn mayā // 92.44 //

/ sau cinta yanma mā pyasti pā paṃ mā tuḥ kṛ ta ga saḥ / a yaṃ pā pa sa hā dhyā yi dr̥ṣṭah sma
ra ṇa kṛnma {T545b} yā // [44]

彼は考えた。私も母に暴力をふるった罪をもつ。私はこの、罪における仲間(同学の者)を見て、記憶を思い出した。

/ de yis bsams pa bdag la yang // ma la gnod byas sdig pa yod /
/ sdig pa rab tu brjod pa'i grogs // dran par byed 'di bdag gis mthong /

/ nūnaṃ tenaiva kṛṣṭo 'haṃ pāpena sukhamāṇḍalāt /
saunikenā caran kāmam ajaḥ śaṣpavanād iva // 92.45 //

45cd kāmam ajaḥ] ABET : kāmam mṛgaḥ Ed. Cf. de JONG.

/ nū naṃ te nai ba kṛṣṭo haṃ pā pe na su kha maṇḍa lāta / so ni ke sa na ca rana kā ma ma jaḥ
śa sya ba nā di ba // [45]

きっとその罪が私を幸福の領域から引き出したのだ。狩人が若枝のある林の中から、ほしいままに食んでいる一匹の山羊を「誘い出す」ように。

/ khiy ra ba yis rtswa sngon gyi // nags nas ri dwags rgyu ba bzhin /
/ sdig des bde ba'i dkyil 'khor nas // nga nyid drangs pa ma yin nam /

45a ba yis] NQ : ba yi δ G. 45b dwags] NQ : dags δ G.

Note 45ab] この箇所では de JONG は "T translates pūrvam mṛgaḥ." という記述をするが (p. 225)、pāda a の sngon に *pūrvam という語を原語に想定したのであろうか。rtswa sngon は「青草」の意味である。pāda b の ri dwags は確かに *mṛgaḥ を想定させる訳語で、ajaḥ の訳として使われた典拠は見出せない。蔵訳が依拠した梵文には ajaḥ の代わりに mṛgaḥ と書いてあったか、それとも蔵訳者が写本を誤読したのか。

/ iti cintākule tasmin baddhadvāra*poraḥsthite /
uccacārāmbārād vāṇī hṛdayākampakāriṇī // 92.46 //

46b *poraḥsthite] ex conī, confirmed by tib. sngon na gnas pa'i tshe (Skt.
*poraḥsthite) : purasthite ABET.

/ i ti cinta ku le tasmīna baddhā dvā ra pu {D246b} rasthi te / u cca cā rāmba rādbā nī hr̥ da yā
kampa kā ri nī // [46]

このような思いに心乱れた彼が閉ざされた門の前に立っていると、虚空から声が高く響き、心臓を震わせた。

/ zhes pa'i bsaṃ pas de 'khrugs shing // sgo bsdams sngon na gnas pa'i tshe /
/ snying ni kun tu 'dar byed pa'i // skad ni mkha' las rab grags pa /
46a 'khrugs] δ G : 'khrungs NQ. 46b na] δ : nas β . 46d las] β : la δ .

/ cirabaddhāḥ pramucyantāṃ nibadhyantāṃ navāgatāḥ /
baddhamukṭinavābandheṣv ayam prāpto 'vadhikṣaṇaḥ // 92.47 //

47a pramucyantāṃ] ABT : pramucyato E : pramuñcyantāṃ Ed. 47c mukṭi] T :
mukṭir ABE. Cf. de JONG.

/ ci ra baddhāḥ pra mu cyantāṃ ni ba dhyantāṃ na bā ga tāḥ / bardha mukṭi na bā bandhe ṣva
yam (prāpto D : prāpta T) ba dhi kṣa ṇaḥ // [47]

久しく束縛された者は解放されよ。新たにやって来た者は拘束されよ。束縛からの解放と新たな束縛における、[入れ替わりの]時限として、この瞬間が来た。

/ yun ring bcings pa nges par khrol // gsar du 'ongs pa dam du chings /
/ gsar pa bcings la bcings pa grol // 'di ni mtshams kyi dus la bab /
47a yun] δ : yul β || ring] δ : rings β || khrol] β : grol δ . 47c pa bcings] β : pa
chings δ || grol] δ : 'grol β .

/ ity udīrṇe divaḥ śabde mukṭaḥ sa puruṣaḥ kṣaṇāt /
dīptaṇ ca cakram apatan maitrakanyasya mastake // 92.48 //

48c dīptaṇ ca cakram apatan] T : dīptaṇ cakram apatan A : dīptaṃ cakram tad apatan
BE : dīptaṃ tac cakram apatan Ed. Cf. de JONG (he suggests a reading *pradīptaṃ
cakram apatan in consideration of tib. rab tu 'bar ba [Skt. *pradīptaṃ]).

/ i tyutīrṇe di baḥ śabde mukṭaḥ sa pu ru ṣaḥ kṣa ṇāta / dīptaṃ ca cakra ma pa tanmai tra ka
nya sya masta ke // [48]

このように天空から声が発せられた時、たちまちその男は解放された。燃え輝く円盤はマイトラカンヤカの頭頂に落ちてきた。

/ ces sgra mkha' las grags pa'i tshe // skyes bu de grol skad cig las /
/ mdza' bo'i bu mo'i mgo la ni // 'khor lo rab tu 'bar ba lhung /

/ *navabaddhaḥ sa *tatkālaṃ marmacchedavyathāturaḥ /

taṃ muktabandham avadat puruṣaṃ maitrakanyakaḥ // 92.49 //

49a *navabaddhaḥ] ex conī (Ed.), confirmed by tib. gsar bcings (Skt. *navabaddha) and T (na ba baddheḥ) : bhavabaddha A (but in the margin of A, vana is written instead of bhava) : bhava<<ba>>ddhaḥ B : bhavabaddhaḥ E || sa *tatkālaṃ] ex conī (Ed.), confirmed by tib. de dus [...] des / (Skt. *sa *tatkālaṃ) : sātatkāla A : sa tatkāla BE : paḥ tatkā la T.

/ na ba baddheḥ paḥ tatkā la marmma cche da bya thā tu raḥ / taṃ mukta bandha ma ba datpu ru ṣaṃ mai tra ka nya kaḥ // [49]

この時、新たに束縛された者となったそのマイトラカンヤカは、最も痛い体の部所を切られる苦痛に苦しみながら、束縛から解放されたその男に語った。

/ de dus gnad gcod gdung bas gzir / gsar bcings mdza' bo'i bu mo des /

/ bcings pa grol bar gyur pa yi / / skyes bu de la rab smras pa /

tyaktvā purāṇi maṇimandirasundarāṇi

tāny apsaraḥsarasabhogamanoharāṇi /

kṛṣṭaḥ prakṛṣṭatarapātakakarmadāmnā

sūnām iva kṣitim imāṃ paśur āgato 'smi // 92.50 //

50c karmadāmnā] T (karmma dāmnā), confirmed by tib. las kyī thag pa (Skt. *karmadāman) : marmadāmnā AB

/ [50-51 of bilingual ed.:] tyaktvā pu ri pu rā ṇi mandi ra punda rā ṇi tā nyappa raḥ sa ra sa bho ga ma no ha rā ṇi / kṛṣṭaḥ pra kṛṣṭa ta ra pā ta ka karmma dāmnā kā le na kalpi ta pha lā ki la karmma ballā // su nā mi ba kṣi ti mi mām pa śu rā ga tosmi {T546a} karṣi tya laṃ ba la tī bha bi ṣya ta {D247a} bya tai yā / kṛṣṭasta yai ba ca bi śa tya ba śo ma nu ṣyaḥ / ya tra sya tiṣṭha ti pu raḥ pa ri sā ka bho gyā // (The tibetan translation of GNQ (= β) properly placed the pādas of 50-51; however the both skt. and tib. texts in DT (= δ) arranged those pādas wrongly. The arrangement of pādas of the both skt. and tib. texts in DT is 50a 50b 50c 51d ; 50d 51a 51b 51c.)

In A an other scribe filled a serious lack in the text of 50-51 by a correct addition in the margin. A reads 50-51 as follows : tyaktvā purāṇi maṇimandirasundarāṇi tāny apsaraḥsarasabhogamanoharāṇi / kṛṣṭaḥ prakṛṣṭatarapātaka <<marmmadāmnā sūnām iva kṣitim imāṃ paśur āgato smi // karṣaty alaṃ balavatī bhavitavyateva | kṛṣṭas tayaiva ca viśaty avaso manuṣyaḥ yatrāsyā tiṣṭhati puraḥ paripākabhogyā>> bhogyakāle kālēna kalpitaphalā kila karmavallī // (the text in italic letters within << >> means additional letters written by a later

hand in the margin of A). In B the whole shape of the text of 50-51 is correct. Here I can't judge whether B is a descendent copy from A with those additional letters or from a manuscript contaminated with a different lineage from A, but both A and B have the common mistakes of marmadāmnā (instead of karmadāmnā) and vyataiṣā (a mistake from misreading of vyataiva /).

Probably the lack and adding of the text of 50-51 in A in Nepal has a certain causal relationship with the disorder of pādas in the bilingual editions of DT by editorial work done in Tibet. The lack of the original text of A coincides with the mistake of order of pādas in DT. The original text of A forms 50a, 50b, 50c (the pāda-ending is pātakabhogakāle) and 51d; Later an other scribe interpolated into the place after a word pātaka- in 50c the lacking text of 50d, 51a, 51b, 51c as additional note in the margin.

宝石の家が美しい、アプサラスたちによる甘美な享樂によつて心を魅する、あれらの都城を捨て去り、罪惡のカルマというきわめて長い縄によつて曳かれて、私はこの地にやつて来ました。まるで家畜が[縄に曳かれて]屠殺場にやつて来るように。

Metre: Vasantatilaka.

/ lha mo rjes su chags ldan longs spyod yid ni 'phrog pa can // grong khyer nor
bu'i khang khyim mdzes pa de dag yongs btang nas /
/ sdig pa'i las kyī thag pa shin tu rab tu gyur pas drangs // khyi rnam la bzhin sa
'di nyid du phyugs bdag 'ongs par gyur /

50c shin tu] β : bzhin du δ . 50d khyi] δ : khyim β || bdag β .] dag δ . — Before 50d the following pāda is inserted between pāda c and d in DT (= δ) : / de yis bkug nas kyang ni dbang med mi rnam 'jug par byed / (cf. skt. text 51b: kṛṣṭas tayaiva ca viśaty avaśo manuṣyaḥ = tib. 51d).

Note 50d khyi rnam la] この箇所蔵訳は「屠殺場へ」を意味する梵語 sūnām を śūnām (G. of śvan) つまり「犬たちのため」(khyi rnam la)と解釈した。誤訳である。

/ karṣaty alaṃ balavatī bhavitavyataiṣā
kṛṣṭas tayaiva ca viśaty avaśo manuṣyaḥ /
yatrāsyā tiṣṭhati puraḥ paripākabhogyā
kālena kalpitaphalā kila karmavallī // 92.51 //

51a bhavitavyataiṣā] B : bhavitavyatheṣā A : bhavitavyataiṣā B : bhavitavyatiṣā E :
bha bi ṣya ta bya tai yā T : bhavitavyataiva Ed. 51cd paripākabhogyā kālena] BE :
<<[...] paripākabhogyā>> bhogyakāle kālena A (Here <<[...] paripākabhogyā>> are
added by a later hand in the margin. See my description of A in the above strophe.)

力強い、必然の運命は確かに曳き寄せる。それに曳かれた人間は無力に[定められた所に]入るが、そこでは時とともに果実を産出するカルマのつる草が、熟しおえて味わわれるべき[実をもつ]ものとして、彼の目の前に立っている。

Note 51 この詩節の発想源として Avadānaśataka [36] Maitrakanyaka の第3詩節を参照:

dūraṃ hi karṣati karma dūrāt karma pravartate /

tatra prakarṣate karma yatra karma vipacyate // (SPEYER, I, p. 203)

Divyāvādāna (COWELL & NEIL ed.), p. 566 にも若干の異読を有する同じ詩節がある。

Metre: Vasantatilaka.

/ gang na 'di yi las kyi 'khri shing cha yis yongs bsgrubs pa / / dus kyis yongs
smin spyad bya nyid du gyur pa mdun na gnas /
/ nges par spyad bya stobs ldan 'di yis mchog tu 'gugs par byed / / de yis bkug
nas kyang ni dbang med mi rnams 'jug par byed /

In DT (= δ) the whole pāda d is moved to the previous stanza 50 and is missing in this stanza.

Note 51a cha yis] この奇妙な cha yis の訳については、梵語 phalā を kalā と誤解した可能性が高い。

/ kleśabhogāvadhaḥ kālaḥ kiyān mātuh kṛtāgasām /
apy āgamiṣyati navaḥ kaścīd asmadvidho janaḥ // 92.52 //

/ kle śa bho gā ba dho kā laḥ ki yānmā tuḥ kṛ tā ga pām / a pyā ga mi śya ti na baḥ kaści
dasmadbi dhi ja naḥ // [52]

母を害した者たちは、苦しみを味わう期間として、どれほど長い時をもつのでしょうか。[その期限に]誰か私たちのような人が新たに来るのでしょうか。

/ ma la gnod pa byas rnams kyi / / nyon mongs spyod mtshams ji snyed dus /
/ skye bo kha cig bdag lta bu / / gsar du 'ong bar 'gyur ram ci /
52a kyi] β : kyis δ . 52d bar] β : ba δ .

/ iti jvalitacakrāgradīryamāṇasya dehinaḥ /
tasyārtasya vacaḥ śrutvā puruṣas tam abhāṣata // 92.53 //

53b dehinaḥ] AT, confirmed by tib. lus can (Skt. *dehinaḥ) : dāhinaḥ BE. Cf. de JONG.

/ i ti jva la te cakrā gra dīrya mā na sya de hi naḥ / tasyārtta sya ba caḥ śru tvā pu ru ṣasta ma
bhā ṣa ta // [53]

燃える炎の円盤の切先で切り裂かれて苦しんでいる人間、彼のその言葉を聞いて、男は彼に答えた。

/ zhes pa lus can 'khor lo ni / / rab tu 'bar ba'i rtses bcom zhing /

/ gzir ba de yi tshig thos nas // skyes bus de la rab smras pa /

53c de yi] DNQ : de yis GT.

/ ṣaṣṭivarṣasahasrāṇi ṣaṣṭivarṣaśatāni ca /

asya *kleśopabhogasya niyatīḥ pāpakarmaṇām // 92.54 //

54c *kleśopabhogasya] ex conī (de JONG), confirmed by tib. nyon mongs nye bar
longs spyod : kleśopabhogasya ABET.

/ ṣaṣṭhi rbarṣa sa ha srāṇi ṣaṣṭhi rbarṣa śa tā ni ca / a sya kle śo pa bho gya sya na ya tiḥ pā pa
karmma ṇām // [54]

六万六千年の間、この苦しみを味わう定めを、[その]悪業の者たちはもつ。

/ lo ni stong phrag drug cu dang // lo ni brgya phrag drug cu dag /

/ nyon mongs nye bar longs spyod 'di // sdig pa'i las can rnam la nges /

54b cu dag] δ : cu dang β .

/ ihāparāṇi ghorāṇi santi sthānāni pāpinām /

mātuḥ kṛtāgasām anye ye sameṣyanti tadvidhāḥ // 92.55 //

/ i hā pa rā ṇi bhi ṣa ṇa paṇ ti sthā nā na pā pi nām / mā tuḥ kṛ tā ga sā ma nya ye sā me ṣyanti
tadbi dhāḥ // [55]

ここには、母を害した悪人たちのための、恐ろしい場所が他にもある。これからここにやって来る他の者たちは[皆]そういう類いの者だ。

/ ma la gnod pa byas pa yi // sdig can rnam la 'di na gnas /

/ 'jigs su rung ba gzhan dag yod // gzhan yang de lta 'ong bar 'gyur /

55d lta] β : lta δ .

Note 55d gzhan yang] ここで蔵訳者は anye ye を anye pi と読んで、gzhan yang と訳した可能性がある。
ye と pi の誤読は文字の類似から十分にありうる。この場合 *anye 'pi より現梵文の anye ye が正しいと思
われる。api が pāda d の頭にくるのは避けられるべきである。

/ śrutveti duḥsahataram tenoktaṃ maitrakanyakaḥ /

svavyathāduḥkhasaṃvādāt parārtidayayāvadat // 92.56 //

/ śru tai tadduḥ sa ha ta raṇ te noktaṃ mai tra ka nya kaḥ / su bya thā duḥ kha sa svā dātpa
rārtti da ya yā ba {D247b} data // [56]

このように彼によって語られた極めて耐えがたい[言葉]を聞いて、マイトラカンヤカは、自らが
もつ痛み・苦しみとの類似から、他の人々の[味わうだろう]苦痛に同情して、[次のように]語っ

た。

/ des brjod shin tu bzod dka' de // mdza' bo'i bu mos thos gyur nas /
/ rab gdung sdug bsngal myong ba las // gzhan dag gzir la brtse bas smras /

Note 56c myong ba las] ここで蔵訳者は saṃvādāt を *saṃvedāt と読み myong ba las と訳したらしい。また svavyathā- を *suvyathā- と読んで rab gdung と訳したと思われる。しかし現梵文の語形の方が意味的によい。

/ adhunā ye sameṣyanti narāḥ pātakakāriṇaḥ /
teṣāṃ arthe mamaivedaṃ cakram tiṣṭhatu mastake // 92.57 //

/ a dhu nā ye sa me ṣyante na rāḥ pā ta ka kā ri ṇaḥ / te ṣā marthe ma mai be daṃ cakram tiṣṭha
tu {T546b} masta ke // [57]

今罪惡をなして[ここに]やって来るであろう者たち、彼らのために、この車輪が[永久に]私だけの頭頂にとどまりますように。

/ da ni sdig pa byed pa'i mi // gang zhig rab tu 'ong 'gyur ba /
/ de dag don du 'khor lo 'di // bdag gi mgo la gnas gyur cig /
57b zhig] δ : gis β .

/ kathaṃ sahante te tīvrāṃ dīrghāṃ evaṃvidhāṃ vyathāṃ /
ekasyaiva vyathā me 'stu sarve tiṣṭhantu nirvyathāḥ // 92.58 //

58b dīrghāṃ] AT : dīryām BE. 58c ekasyaiva] BT : ekasyeva A : ekasyaiṣa E.

/ ka thaṃ me sa hante tī bra dīrgha me baṃ bi dhāṃ bya thāṃ / e kasyai ba bya tha me tu
sarbbe (nirbṛ D : nirbraṃ T) tu nirbya thāḥ // [58]

どうして彼らがこのような激しい長い苦痛に耐えられようか。私ひとりだけに苦痛がありますように。あらゆる人が苦痛を免れてありますように。

/ 'di lta'i gdung ba drag cing ring // de dag rnams kyis ji ltar bzod /
/ bdag nyid gcig pu gdung gyur la // thams cad gdung med gnas gyur cig /

/ parārthe dhārayiṣyāmi cakram bhuktvā nijam phalam /
paravyathāṃ vijānāti na janaḥ svavyathāṃ vinā // 92.59 //

/ pa rārthe dhā ra yi ṣyā mi cakram (bhuktvō D : bhuktvā T) pha lam ni jam / pa ra bya thāṃ bi
jā nā ti na ja naḥ sva bya thāṃ bi nā // [59]

他の者たちのために、私は自分の果報を味わい終っても、円盤をつけたままにいたい。[そうすれば]人は自分の苦痛もなく、他人の苦痛も知らないだろう。

/ 'khor lo rang gi 'bras bcad nas // gzhan gyi don du bdag gis bzung /
/ skye bo rang nyid gdung med pas // gzhan gyi gdung ba yong mi shes /
59d yong] NQ : yongs δ G (also correct).

Note 59a bcad nas] ここで蔵訳者は bhuktā を *bhittvā と読んで、bcad nas と訳した可能性がある。

Note 59d yong mi shes] この強調の副詞 yong(s) + mi について参照: STRAUBE (2006), S. 46-47.

/ ity ukte karuṇārtena tena sattvahitaiṣiṇā /
satsaṃkalpaprabhāveṇa tac cakram agaman nabhaḥ // 92.60 //

/ i tyukte ka ru ṇārte na te na sa tva hi tai ṣi ṇā / satsaṃ kalpa pra bhā be na tacca kra ma ga
manna bhāḥ // [60]

同情心に悩み、生けるものたちの益を願う彼が、このように語った時、[彼の]『善い願い』
の[起こした]超自然力によって、その円盤は天空に去った。

/ sems can phan tshol snying rje yis // gzir ba de yis 'di brjod tshe /
/ dam pa'i kun rtog mthu yis ni // de yi 'khor lo mkha' la song /

/ tāpaṃ pallavitā nihanti tanute śubhram yaśaḥ puṣpitā
sadyaḥ saurabhabhavyabhogasubhagāṃ lakṣmīm vidhatte punaḥ /
kāruṇyārdratayā yadaiva hr̥daye sadbhiḥ samāropitā
satsaṃkalpalatā tadaiva sarasaṃ kiṃ kiṃ na sūte phalam // 92.61 //

61b subhagāṃ] T : subhagā ABE. Cf. de JONG. 61c yadaiva] BET : yadeva A : yad
eva Ed. Cf. de JONG. 61d tadaiva] A(in the margin written) : sadaiva ABET. Cf. de
JONG.

/ tā paṃ palla bi tā ni hanti ta nu te śu bhram ya śaḥ puṣpi tā sa dyaḥ sau ra bha bha bya bho ga
su bha gāṃ lakṣmīm̐bi dhatte pu naḥ / ka ru ṇyārdr̥a ta yā ya dai ba hr̥ da ye sadbhiḥ sa mā ro pi
tā satsaṃ kalpa la tā sa {D248a} dai ba sa ra saṃ kiṃ kiṃ na su te pha lam // [61]

慈悲[の灌水]で濡らされて、心の中で『善い願い』の祈願成就のつる草が([kalpa]latā) 善人
たちによって成長させられる時、そのつる草は、若枝を伸ばす時に苦熱を滅ぼし、花咲く時に
輝かしい名声を広げ、さらにまた芳香というすばらしい享樂の幸せをもつ繁榮をたちまち与え
て、美味なる果実を生じないことがどうしてあろうか。

Metre: Śārdūlavikrīḍita.

/ yal 'dab dag ni gdung ba 'phrog cing me tog grags snyan dkar po rgyas par byed
// 'phral la dri bzang legs ldan longs spyod skal bzang phun sum tshogs pa slar
yang 'dzin /

/ dam pa'i kun rtog 'khri shing snying rje'i brlan ldan dam pa nams *kyis snying
la ni // gang tshe yang dag btab pa de tshe ro ldan 'bras bu ci dang ci mi skyed /
61c nams *kyis] ex coni : nams kyi β δ . 61d ci mi] δ : cis ming β .

/ kārūṇyāt puṇyamāhātmyāt tatkṣaṇāt kṣatakilbiṣaḥ /
sa babhūva parityajya dehaṃ devaḥ surālaye // 92.62 //

/ kā ru ṇyātpu nya ma hātmyāttakṣa ṇātkṣa ta kilbi ṣaḥ / sa ba bhu ba pa ri tya jya de haṃ de
baḥ su ra la ye // [62]

同情心により[生じた]福德の偉大さによって、その瞬間に罪が滅した彼は、肉体を捨てて、天
界で神になった。

/ snying rje'i bsod nams bdag nyid kyis // skad cig de la sdig zad de /
/ lus ni yongs su btang nas de // lha yi gnas su lhar gyur to /

/ so 'ham evābhavaṃ pūrvam maitrātmā maitrakanyakaḥ /
pādenotsāraṇān mātuh prāptas tām duḥkha*vartanīm // 92.63 //

63d *vartanīm] ex coni : vartinīm ABET

/ so ha me bā bha baṃ pūrbbaṃ mai tryatmā mai trya ka nya kaḥ / pā de notpā ra ṇatmā tuḥ
prāptastām duḥ {T547a} kha bartti nīm // [63]

前世での、慈愛を自性とするマイトラカンヤカはほかならぬこの私だった。母を足で蹴り払った
ことにより、かの苦しみへの道を得たのだ。

Note 63d *vartinīm] 写本の vartinī の語は不審であるが、vartanī (= vartani) 「道」と取ると、よく文脈に合
う。荻原梵和大辞典には vartinī の語形で「広道」(出典:Sphuṭārthā Abhidharmakośa-vyākhyā) の漢訳語
があり、正しい綴りがやや崩れた俗語形か BHS かも知れないが、しかし Kṣemendra がわざわざそのような
語形を使うとは考えにくいので、*vartanī と訂正すべきであろう。蔵訳は「かの、苦しみの状態(sdug bsngal
gnas skabs)を得た」と訳す。恐らく vartinī / vartanī を vṛtti 「状態」の語の同義語として扱っている。

/ nga nyid sngon tshe byams bdag nyid // mdza' bo'i bu mo nyid gyur te /
/ ma ni rkang pas rab 'phangs pas // sdug bsngal gnas skabs de dag thob /

63a bdag] GQ : gdag DNT. 63c rkang pas] δ : rkang pa β || 'phangs pas] β :
'phangs pa'i δ .

/ kārṣaṇaṇārpaṇān mātuh prāptaś cāpsarasāṃ padam /
ity ūce bhagavān mātṛśuśrūṣādharmam uttamam // 92.64 //

64c mātṛ] ABT : mātu E : mātuh Ed.

/ kārṣā pa ṇātmā tuḥ pu jā prāptaścāppa ra saṃ pa daṃ / i tyū ce bha ga bāna mā tṛ śu śru saṃ
dharmma muttamaṃ // [64]

母にカールシャーパナを与えたことにより、アプサラスたちの住所を得た。このように世尊は母
への従順という最高の教えを説かれた。

/ kārṣa pa ṇas ma la ni // mchod pas lha mo'i gnas kyang thob /
/ de skad ma yi srid zhu ni // chos kyi mchog tu bcom ldan gsungs /
64a kārṣa] D : karṣa β : kar sha T. 64d gsungs] δ : gsung β .

/ mātā maṅgalamālikā guṇamayī vātsalyamauliḥ pitā
tau yeṣāṃ śīrasi priyāya kurutaḥ pādāmbujāropanam /
sarvāśāparipūraṇodyatayaśaḥsāmpatprakāśodayās
te puṇyābharaṇāḥ prayānti jagatāṃ nityotsavāḥ pūjyatām // 92.65 //

/ mā tā maṃ ga la mā li kā gu ṇa ma śī bā sai nya mau liḥ pi tā tau ye yāṃ śī ra si pri yā ya ku
ru taḥ pā dāmbu jā ro pa ṇa / sarbā śā pa ri pū ra ṇotyā ta ya śaḥ sampatpra kā śo da yā ste pu ṇyā
bha ra ṇāḥ pra yānti ja ga tāṃ ni tyotpa baḥ pū jya tāṃ // [65]

[子供に授ける]繁栄という花輪をもち、福德そのものである母上と、愛情という頭冠をもつ父
上、そのお二人は、[子供を]悦ばせるために、その[子供]の頭上に、足の蓮華を置いて下さ
る。[それによって]すべての方角に遍満し始める(udyata)名声と成功という、光輝の日の出を
有する彼ら[子供]は、福德を飾りとして、歓喜の祝祭[の時]を絶えずもち、世の人々から崇敬
されるに至る。

Note 65c sarvāśāparipūraṇodyata] ここで āśa の語は二重義をもつ。「すべての方角に遍満し始め
る」=「あらゆる希望が成就し始める」。

Metre: Śārdūlavikrīḍita.

/ ma ni bkra shis phreng ba yon tan dang ldan pha ni mnyes gshin cod pan te //
de dag dgyes slad gang gi spyi bor zhabs kyi padmo rab tu 'god byed pa /
/ phyogs kun yongs su 'gengs par brtson pa'i grags pa phun tshogs rab tu gsal ba
rgyas // rtag tu dga' ston bsod nams rgyan ldan de dag 'gro ba'i mchod bya nyid
du 'gyur /

65a pha] GNQT : pa D || mnyes] δ : gnyes β .

/ iti kṣemendraviracitāyāṃ bodhisattvāvadānakalpalatāyāṃ maitrakanya-
kāvadānaṃ dvānavatitamahā pallavaḥ //

/ i ti kṣe mendra bi ra ci tā yāṃ bo dhi sa tvā ba {D248b} dā na kalpa la tā yāṃ mai trya ka nya

kā ba dā naṃ dvā na ba ti ta maḥ palla vaḥ //

以上、クシェーメンドラ作『菩薩のアヴァダーナの祈願成就の蔓草』における「マイトラカンヤカのアヴァダーナ」という第92の小枝(章)。

/ zhes pa dge ba'i dbang pos byas pa'i byang chub sems dpa'i rtogs pa brjod pa dpag gsam gyi 'khri shing las mdza' bo'i bu mo'i rtogs pa brjod pa'i yal 'dab ste dgu bcu rtsa gnyis pa'o //

第92章の非重要な異読の報告

1. チベット訳の諸版の正字法上の異読

4d lha yi]] lha'i Q. **20a** chen]] cen T. **26b** chen]] cen T. **40d** yongs su]] yongsu G. **50a** rjes su]] rjesu G. **61b** longs spyod]] longspyod G. **65a** phreng]] 'phreng T. **65c** yongs su]] yongsu G.

2. チベット訳の諸版の特殊な異読(Sonderlesungen)

5b zhabs kyi]] zhal gyi T. **5c** mchog tu]] mchog la G. **6d** bla ma gsum]] bla gsum G. **9a** gzhan du]] gzhan la G. **11a** de yi]] da yi T. **12b** pha yis]] pha yi T || btags]] rtags T. **14b** 'gro ba]] 'gro ba'i G. **15d** nyis]] gnyis T. **20c** phyin]] phyi Q. **26b** tshal]] tshang T. **28a** mgur]] dgur G. **29c** na de]] de na G. **29d** gyur]] na G. **30d** cher]] chen Q. **36a** yang]] om. yang Q. **37c** rtsub]] rdu b Q. **39c** nyon]] nyo G. **44a** bdag]] dag G. **47a** nges]] ngas T. **48b** cig om. G. **49b** bo'i]] mo'i N. **50c** las kyi]] las kyis T. **51c** ldan]] can G. **55a** byas pa yi]] byas yi G. **55c** 'jigs]] 'jig G || gzhan]] bzhan N. **56a** de /]] des / G. **56b** mdza' bo'i]] mdza' ba'i N. **59b** bzung]] gzung G. **60c** kun rtog]] kun tu rtog G. **62c** yongs su]] yongsu G. **65a** ldan pa]] ldan pha G || cod pan]] cod paṇa G. **65c** 'gengs]] 'grengs G.

3. 梵文写本における特殊な異読(Sonderlesungen)

1a saiva]] śaiva B. **3a** paramaṃ]] parame E. **3c** dhanyāni]] dhamṇyāni B. **4c** garīyān na]] garīyān nu B. **4d** daivatam]] devatam A. **7a** ācāryaḥ]] ācāryāḥ E || kair]] kai A. **8c** kalāpaḥ]] kalāpa E. **10a** gr̥hapatir]] gr̥ha / patir E. **15a** pūrva]] pūrvaṃ E || vikrayo]] vivikrayo A. **19b** sphīta]] sphīti E || dhatte]] ddatte E. **19d** duṣputraḥ]] duḥputraḥ BE. **20b** sāgaram]] māgaram B. **24b** cirāt]] virāt B. **26b** latāvane]] la{ {la} }tāvane E. **28b** tās]] nās E. **28c** ramamāṇās]] ramamāṇā A. **29c** uktas tābhir]] uktās tābhir B : uktanābhir E. **31c** prāpa]] prāpaḥ A. **33d** nandanam]] naṃdane B. **35a** punar]] pune B. **35d** sādaraḥ]] mādaraḥ E. **36c** tadvad]] tacchad

B. **36d** vartmanā]] vratmanā A. **37d** ivāyāsa]] ivāyāsu E. **38d** bandhatām]] baṃdhatā B. **40d** saktam]] saṃktam A : sakta E. **41a** prasrutaiḥ]] praśrutaiḥ E. **45c** saunikena]] saunikeneva B : śokeneva E. **46a** tasmin]] tasmi E. **46c** uccacārā]] uccavārā B. **47b** nibadhyantām]] vibadhyantām B. **51d** kalpita]] kalpita{{kalpita}} E. **56c** svavyathā]] svavyadhī E. **57c** mamaivedam]] mamevedaṇ A. **60d** cakram agaman nabhaḥ]] cakragamaman nabhaḥ E. **61a** śubhram]] śubhre B. **61b** saurabhabhavya]] saurabhabhabhavya B. **61d** kiṃ kiṃ na]] kiṇ ki na A. **64d** śuśrūṣā]] śuśrūṣām E. **65b** tau]] to E || pādāmbu]] pādāmṣu E. **65c** sarvāśā]] sarvāmṣā B. **65d** prayānti]] prayāti B || nityotsavāḥ]] om. tsa E. (**Colophon:**) om. viracitāyām bodhisattvāvadānakalpalatāyām B : om. bodhisattvāvadāna-kalpalatāyām E || om. dvānavatitamahā pallavaḥ B.

カルマシャタカ

第125話シビ王と第126話シビ王和訳

Karmaśataka 125話 Śibi [1](第10類第11話)と126話 Śibi [2](第10類第12話)の翻訳を以下に挙げる。125話 Śibi [1] は Kṣemendra が Kalpalatā 91章を作成するにあたって源泉資料として依拠したと推測される作品である。彼が利用したのはカシュミールに伝わっていた Karmaśataka の一伝本の梵本であろう。梵本は現在のところ発見されていないので、チベット訳から翻訳を行う。

この翻訳によって Karmaśataka 125話と Kalpalatā 91章が内容的に極めて密接な関係にあり、前者から後者が作られたであろうことを学問的に確認する作業が開始できる。話型 (tale-type) を抽出する等の作業も、忠実な翻訳があつて初めてなしうる。Karmaśataka 126話は、125話と同じ話型の話であるが、千本の釘が出た板で圧搾するという別のモチーフが途中で使われており、125話の伝播の過程で異伝承が生じたことを伝えるものである。なおこの125, 126という数字は、L. FEER が Karmaśataka 全話の内容紹介の論文(JA 1901)につけた番号に基づく。

Karmaśataka 125話の研究として、松本純子 (2003) の論文がある:「Karmaśatakaにおける施身聞偈譚」、『印度学仏教学研究』、52巻1号、31-36頁。この松本論文は Karmaśataka 125話 Śibi (1) を最初に本格的に取り上げて論じた論文であり、実に有益であるが、Kalpalatā 91章との関係に関しては、「AK (= Avadāna-kalpalatā) が書かれた頃に Kś (= Karmaśataka) のシビ王物語と共通の伝承が存在していたことは確かなようである」(p. 462)とだけ述べるに留めている。漠然と関係を指摘し、Kalpalatā 91章との比較研究に深入りするのを避けたという印象を受ける。この松本論文の惜しむべき点は Karmaśataka 125話と関係が極めて近い Kalpalatā 91章

の比較検討という作業をわざと抜かしたままで、はるかに関係が遠い他の文献(涅槃經の雪山婆羅門本生)との比較に行ってしまうていることである。この点で今回のKalpalatā 91章ならびにKarmaśataka 125話と126話の翻訳はこの松本論文の欠けている点を補うことが出来るはずである。

Karmaśataka 125話は、有部の聖典資料の材料をコアにして作られた話である。125話はシビ王の前生話が始まる前に現在物語が置かれているが、その現在物語の中核にあるのは、有部が伝持した大般涅槃經の次の一つのエピソードである(それは WALDSCHMIDT 出版の梵文 MPS の 30a, 30b にあたる)。ヒラニヤヴァティー河とクシナガリーの間で、入滅間近の仏陀は再び新たな背痛に苦しみ、横たわるためにアーナンダに上衣を畳んで敷いてくれるように頼む。仏陀は横たわったまま、アーナンダに対して、七覺支に関する教えを説くように請う。アーナンダがその教えを説き終わると、仏陀はアーナンダに話しかけて、七覺支の中でも特に精進が重要であることを強調した。精進の力が修行者を悟りに導く。そう言いつつ、仏陀は起き上がり、結跏趺坐し、正念を確立した。その時、アーナンダの七覺支の説法を聞いた世尊が背痛の病から安らかに解放されたのを見て、一人の比丘が、一連の詩を唱える。

仏陀の最後の旅と死をめぐる出来事の一つであるこのエピソードは WALDSCHMIDT (1944): *Die Überlieferung vom Lebensende des Buddha*, S. 168-171 で研究され、他の並行資料と比較されたが、それによればこのエピソードは梵文 MPS と白法祖訳本と失訳本にしかない。つまりパーリ本と長阿含本と法顯訳本には欠ける。それ故 WALDSCHMIDT はこの箇所をC層と分類している。C層とは諸本共通の古い層に含まれない新しい伝説の層である。この有部の聖典中にしかない特別なエピソードがコアになり、その記事の上に新しい付加増広がなされて、Karmaśataka の現在物語を形成した。この新たな付加増広がどの箇所になされたかは興味深く、松本論文に簡単な分析がある。

このエピソードがシビ王の話にどう結びつくのかというと、仏陀が病の苦しみの中にあっても、アーナンダに七覺支の法を説くのを要請したが、それは仏陀は善説(subhāṣita)を聞くのが好きであったためである。その仏陀の善説への愛好は、実は今世に始まったことではなく、前世においてもそうであった、と仏陀は比丘たちに説く。そして前世において善説への愛好がどれほどのものであったかを示す例として、仏陀は自分がかつてシビ王であった時の事件を語るのである。シビ王が善説と引き換えに羅刹に自分の身を布施したというこの過去物語は、それとよく一致するものが他の仏教説話文献になく、Karmaśataka のみが伝える独自のものである。Kṣemendra はこの話の現在物語をほとんど省略して、主に過去物語の箇所を取り上げて詩形改稿し、作ったその章を「シビ[王]善説アヴァダーナ」と名づけた。この名称は Karmaśataka には無い。

以下の翻訳の作成にあたっては、Derge, 北京, Narthang, Lhasa の4版を参照した(Derge A

119b3-124b [= Ed. Taipei, pp. 299-301, fol. 238-248] ; Peking Hu 122a8-127a7; Narthang Sa 181b1-189a6 [= Lokesh CHANDRA ed., Śatapiṭaka Series, Vol. 74, 364-379]; Lhasa Sa 192b1-201a1 [IASWR microfiches, USA]。Karmaśataka 蔵訳テキストの場合、北京版は誤りが異常に多いし、私が参照した Lokesh CHANDRA の Narthang 版は刷りが汚くて読みづらいので、始めは Derge と Lhasa の2版だけ見て作業した方が仕事がはかどる。ただし厳密な校訂をなすにはそれら4版以外の版も参照する必要がある。今はそれを準備する時間がないので校訂テキストの作成は見送り、翻訳のみを示したい。

第125話 シビ王

シビ[王の]二つ[の話]。そこにおける第一のシビ[王の話]。

世尊はマツラ国において遊行をなしつつ、ヒラニヤヴァティー川^[1]とクシ城との途中で、道からはずれ、[その地で]具壽アーナンダに語られた：「アーナンダよ、如来の上衣を四つに畳んで、床に敷きなさい。私は背が痛む。しばらく休息したい」。

そこで具壽アーナンダは、「大徳よ、かしこまりました」と答えて、世尊がおっしゃることに従い、如来の上衣を四つに畳んで、床に敷いてから、世尊に申し上げた：「大徳よ、如来の上衣が四つに畳まれ、床に敷かれました。世尊は今がその時であるとお思いでしたら[御随意になさいますように]」。

すると世尊は重衣を厚く畳んで、腰に敷き^[2]、光明想をもち、正念をもち、正知をもち、発起(*utthāna)の想いに^[3]心で集中し、右脇で横臥して、[右]足の上に[左]足を置かれた。

[1] ヒラニヤヴァティー川] chu klung mtha' ldan. この川の名は Derge 版と北京版では mtha' ldan であるが Narthang 版と Lhasa 版では 'thab ldan という読みを示す。WALDSCHMIDT (1950-1951): *Das Mahāparinirvāṇasūtra*, II, S. 286 (3.4) を見ると、その語に相当する梵文の語は hiraṇyavatī である。Karmaśataka の奇妙な訳語は恐らく nadī hiraṇyavatī が誤伝した結果で、chu klung (Skt. *nadī) mtha' ldan (Skt. *antyavatī?) と蔵訳者は訳したのだろうか。なお蔵訳根本有部律雜事では chu bo dbyig ldan (Skt. *hiraṇyavatī) と問題なく訳されている。

[2] 腰に敷き] 'phongs su bzhag nas. 直訳すれば「臀部(*kaṭi)に置き」。相当する梵文を WALDSCHMIDT (1950-1951), *ibid.*, S. 286 に見ると「頭に置き」śirasi pratiṣṭhāpya とある。重衣を枕として使う梵文の伝承が正しいと思われるが、ここでは蔵訳が伝える言葉に従った。

[3] 発起の想いに] この箇所は、WALDSCHMIDT (1950-1951), *ibid.*, S. 286 (30.8) を参照して、蔵訳の shes bzhin dang ldan pa'i を shes bzhin dang ldan pa [*dang *ldang *ba] 'i と訂正して読む。*ldang ba'i は梵文の utthāna にあたる。その語が蔵訳に欠けているので補う。重字脱誤(haplography)、つまり二つの形の似た文字 dang ldan pa / dang ldang ba が続いたので、見誤り

その時、世尊は次のようにお考えになった：「いったいこの付近に集まり集合した凡夫の比丘たちは、そのすべてが仏によって教化されるのか。それとも声聞（仏の弟子）によって教化されるのか」。

その時世尊は思念された：「ここではある者たちは仏によって教化される。ある者たちは声聞によって教化される」。

【このように】思念してから、具壽アーナンダに話しかけられた：「アーナンダよ、あなたは〔七〕菩提分を説法してみなさい」。

このようにおっしゃって、世尊は付近のすべてが彼の声をもって満たされるように加持された（神通を発揮した）。すると多くの比丘たちは、そのように〔仏が〕語られている声を聞いて、彼らは考えた：「世尊が具壽アーナンダに、菩提分を説くように要請されたので、今、具壽アーナンダが、純化された蜂蜜のように甘美な法すべてを教示しようとしているのだ」。

【彼らは】世尊がいらっしゃる所に行って、集まり、世尊を囲んで坐った。

その時具壽アーナンダは比丘たちに説いた：「具壽たちよ、独居に拠り、離欲に拠り、滅諦に拠り、捨棄（解脱）という結果につながる、念という菩提の支分が、世尊自らによって知られ、現等覺者（仏）によって教示されました。具壽たちよ、独居に拠り、離欲に拠り、滅諦に拠り、捨棄（解脱）という結果につながる、択法・精進・喜・輕安・定・捨という菩提分法が、世尊自らによって知られ、現等覺者（仏）によって教示されました」。

具壽アーナンダは、これらの菩提の支分から始めて、比丘たちに、それに類する（*evamjātiya）法を教示したので、それによって声聞たちや善根を具えた者たちは、その座に坐ったままで、すべての煩惱を捨てて、阿羅漢の境地を証得した。

すると、世尊は具壽アーナンダの話が終わるまで、〔それを〕心で理解しながら居て、〔話が終わると〕結跏趺坐して、身体を真直ぐに立てて、正念を確立して〔その状態に〕とどまってから、世尊は具壽アーナンダにおっしゃった：「アーナンダよ、そなたは精進を教示したか」。

【アーナンダは】申し上げた：「世尊よ、精進を教示いたしました」。

【世尊は】おっしゃった：「アーナンダよ、そなたは精進を教示したか」。

【アーナンダは】申し上げた：「善逝よ、精進を教示いたしました」。

【世尊は】おっしゃった：「アーナンダよ、精進が無上正等覺をもたらすのだ」。

世尊はまさにこの菩提分から〔説法を〕始めて、それに類する法を教示されたので、それによって声聞たちと^[1]善根を具えた者たちは、その座席に坐ったままで、すべての煩惱を捨てて、

によって片方を飛ばしてしまった誤りと思われる。

^[1] 声聞たちと] bcom ldan 'das dang. 蔵訳の通りに訳せば「世尊と」なのだが、しかしこの文を「世尊と善根を具えた者たちは・・・」と、原文のとおり読むと、意味がおかしい。「声聞たちと

阿羅漢の境地を証得し、彼らは三界への欲望がない阿羅漢になり、黄金と泥とが同等になり、虚空を掌の如く思い、[水に]浸した梅檀のように冷涼になって^[1]、明智によって[無明の]卵殻を割り、[三]明と[六]神通と[四]無礙解を得て、生存の獲得と欲望と恭敬を顧みることなく、インドラ・ウペンドラと共なる神々によって供養され、崇拜され、恭敬をもって語るべき[尊敬の]対象となった。

するとその時、一人の比丘が[次の]詩節を唱えた。

[耳に]甘美な法を聞くために、師は病気であるがゆえに、要請した：「そなたに菩提の支分があるなら、比丘よ、[その]法を説くがよい」と^[2]。[1]

「素晴らしいことです(善哉)」と、学識あり名声あり聡明なる長老アーナンダは申し上げた。「勇者よ、あなたの所説にこの白浄なる法があります。[2]

念・択法・精進・喜・輕安・定・捨 — 穢れのないこれらが、あなたの[説かれた]菩提の支分です」と。[3]

[彼が説く]菩提の支分の精髓(*rasa)を聞き、菩提の支分の味(*rasa)を知り、世尊は重い病から、その悩害から出離された。[4]

この妙法の宝を教えたもうた法王みずからが、妙法を聞くことを欲したのに、まして他の者たちはどうしてそれを聞かないか(聞くべきである)。[5]

ウパティシュヤ(舍利弗)は十力をもつ方(仏)から比丘たちの中の智慧第一であると教示された方であつたけれど、彼すら法を聞きたいと欲して、苦悩した。[6]

[また]経や律や論母の伝持者たちは[皆]賢く、正行と悪行とを知る。彼らが妙法を聞いているのに、まして他の人はそれをどうして聞かないか。[7]

賢者(阿羅漢)の知を欲する心を確立してから、法を聴聞するにつれて、それに応じて、仏の

善根を具えた者たちは」と訂正して読む。

[1] 浸した梅檀のように冷涼になって tsan dan sbangs pa lta bur bsil bar gyur pa] この蔵訳の表現は誤訳らしい。出本充代は元の梵文を「斧で[切られるのも]梅檀[を塗られるのと]同様に感じるようになり」と訳す。『南アジア古典学』第2号、192頁の注50を参照。

[2] 以下に続く韻文については、次の論文・著書を参照した：WALDSCHMIDT (1955): "Zu einigen Bilinguen aus den Turfan-Funden", in: WALDSCHMIDT (1967): *Von Ceylon bis Turfan*, S. 238-257.; L. ALSDORF (1955): "Bemerkungen zu einem metrischen Fragment des Mahāparinirvāṇasūtra", in: *Kleine Schriften*, S. 266-269.; 中村元 (1985):『遊行経』下、〈佛典講座1〉、大蔵出版、497-505頁。ただし Karmaśataka 蔵訳の基になった梵文と、WALDSCHMIDT が報告する中央アジア出土の梵文は、テキストの語句が細かい点で違っていたと思われるので、それに留意して Karmaśataka 蔵訳の伝承を尊重して訳した。

過誤のない言葉に歓喜を得る。[8]

心が歓喜し、身体も軽安となり、また安楽を感受する。安楽となって、心は三昧にも到達する。

[9]

精神を統一して、諸行の[働く]領域を知り、[様々な]生存の輪廻を厭悪して、欲望を離れた心をもつ者は、解脱する。[10]

常に[様々な]生存の輪廻を厭悪して、神や人間[に生まれること]にも愛着せず、阿羅漢たちは、薪が無くなった火のように、涅槃に入る。[11]

妙法を聞くことの、他の多くの利益をも、勝者(仏)は教示された。それゆえ、「ここに居る」('dīrni yod)との思いで、師の[説かれた]言葉を聞くべきである。[12]

その時比丘たちは如来に申し上げた：「大徳世尊は善説を説かれ、善説を愛好されます。善説[を聞かんが]がために、世尊は具壽アーナンダに[それを]要望され、恭敬をもって[善説を]熱心にお聞きになられ、詳しく説くのをご覧になりました」。

世尊はおっしゃられた：「比丘たちよ、如来は今世のみ、善説を説き、善説を愛好するのではなく、如来は過去においても、善説を説き、善説を愛好したのだ。善説のために私がとても困難な行をいかに行ったか、それを聞きなさい」。

[過去世物語：シビ王]

比丘らよ、昔、過去世に、シヴァヴァティーという王都において、シビという王が統治していた。

その時、富に恵まれ、繁栄し、安穏で、食に恵まれ、多くの人で満ち溢れ、闘いや争いが鎮まり、暴動や騒乱や内戦、追剥や疫病や飢饉がなく、稲・砂糖黍・牛・水牛を豊かに有し、危難がなく、棘(治安を乱す賊)を滅ぼした[自らの]国を、まるで愛する一人息子に対して[親が]なすのと同じように[慈しみつつ]、法に従って統治していた。

かの王は慈しみを本性とし、憐れみをもち、生ける者たちにやさしく、布施を愛する者であり、彼は布施を与えつつ、福德を行じた。食物を求める者には食物を与え、飲物を求める者には飲物を与え、衣服を求める者には衣服を与え、装飾品を求める者には装飾品を与え、床臥具を求める者には床臥具を与え、乗物を求める者には乗物を与え、その他の資具を求める者には、その他の資具を与えた。病を癒すための施療院をもち、すべての資具を与え、医者たちや看護の者たちを手配し、病人や身寄りの無い人々を世話した。沢山の清浄な食物と飲物を準備して、空に住む・水に住む・陸に住む生物たちに布施をなした。

彼はまたこのような誓いを立てた：「今日より後、私はすべての者にすべてを与えよう。生けるものたちを十善業道に安立せしめよう」。そう誓って、彼はすべての生けるものたちを十善業道に安立せしめた。

その時十善業道を受持したおかげで、シビの下で人々は大半が天界に生まれたので、彼ら

によって天の住所は充満した。

その時神々の王インドラは考えた：「この者は何を達成するのか。インドラ神になることを達成するのか。あるいはブラフマー神になることを達成するのか」。そこで彼が観察すると、無上正等覺を成就しつつあった。

そこで神々の王インドラは考えた：「一体この者は堅固心(*sattva)をもっているか、それとも堅固心をもっていないかを、私は調べて、もし堅固心をもつなら恭敬供養しよう。この者を見て、堅固心をもっていない時は、この者の心を励ましてやろう」。

そう考えて、神々の王インドラは自ら羅刹(srin po)の姿に化作して、シビ王の宮殿の雨樋に^[1]に座り、偈頌の[前]半分を唱えた：

ああ諸行は無常であり、生じては滅する法を有する。

そう唱えて、人間ならざるもの(羅刹)の姿をもつ神々の王インドラは黙った。その時シビ王は、羅刹の姿をもつ神々の王インドラがそのような言葉を説いたのを耳にした。

聞いて、彼は考えた：「[これは]一方で、涅槃の[都城に通じる]縁起[という]開かれた門である。また他方で、正等覺への道を教示している」。

そしてシビ王は羅刹の姿をもった神々の王インドラがシビ王の宮殿の雨樋に座っているのを見た。

見てただちに立ち上がり、偏袒右肩して、羅刹の姿をもつ神々の王インドラに向かって合掌し、礼拝して、語った：「友よ、その偈頌を完全におっしゃってください。私は弟子となって、聴聞します」。

インドラは答えた：「あなたが私の弟子になって、何の益があろうか。私は飢えと渴きに呵まれている。いかなる食も知られないので、[偈頌を]説きながら[空腹を紛らせて]いる」。

菩薩は言った：「友よ、偈頌を完全なかたちでおっしゃってください。そうすれば私はあなたを食べ物で満足させましょう」。

羅刹の姿をもつ神々の王インドラは答えた：「友よ、あなたは私を食べ物で満足させることが出来るのか。私の食べ物・飲み物であるもの、それをあなたが与えるのは困難だが」。

菩薩は尋ねた：「あなたの食べ物・飲み物は何ですか」。

彼は答えた：「即死させない者の、暖かい肉を食べ、暖かい血を飲むのだ」。

その時菩薩は思った：「そのような肉と血は、[誰かを]殺さない限りは、得ることができないが、

[1] 雨樋に] char khebs la. Cf. NEGI, 1189b, s.v. char khebs, = char gab, "varṣasthālakam; varṣasthālī"; BHSD s.v. varṣasthāla. 雨樋あるいは雨桶。Divyāvadāna 244.13 によれば、仏塔では宝石を嵌め込んだ豪華な作りの雨樋が作られることもあった。

私は善説のために、誰か他人を害することはできない」。

そう思い、答えた：「もし私の肉と血を飲み食べていただけますなら、友よ、私は[それを]与えることができますから、どうか偈頌を完全なかたちで語って下さい。善説のために、私はあなたに自分の肉と血を与えましょう」。

そこで神々の王インドラは善説を完全なかたちで唱えた。

ああ諸行は無常であり、生じては滅する法を有する。

[それらは]生じては滅する。それらの寂滅は安樂である。

すると菩薩はこの完全な偈頌を恭敬をもって聴受し、長い間読誦してから、考えた：「これは涅槃の都城の、縁起[という]門である。これは涅槃の都城への道である。この道によって、すべての正等覺は度脱するのだ」。

こう考えてから、鋭い刀を手にとって、語った：「友よ、善説のための謝礼をお受けになられよ」。

[王は]胸の片側から肉を切って、羅刹の姿をもつ神々の王インドラに与えてから、尋ねた：「友よ、満腹されましたか」。

かの[羅刹]は答えた：「満腹していない」。

[王は]同様に、胸のもう片側から肉を切って、与えた。

同様に、上腕の肉を、そして全身の肉を切って、[それらを]与えてから、尋ねた：「友よ、満腹されましたか」。

かの[羅刹]は答えた：「満腹していない」。

そこで菩薩は思った：「今や、全身をまるごと与える、その時が来た」。

そう思い、無上正等菩提への誓願を立てて、語った：「ああ、どうかこの善根により、私は[この]盲目の、導き手がなく、教師がいない世界において、如来・阿羅漢・正遍知・明行足・善逝・世間解・調御丈夫・無上士・天人師・仏・世尊になることができますように」。

そして[次の]偈頌を述べた：

この偉大な布施により、世界における自存者・仏に[私は]なりたい。

[自ら彼岸に]渡った後に、以前の勝者によって未だ[彼岸に]渡されていない、
多くの衆生を、渡したい。

このように無上正等菩提への誓願を立ててから、[羅刹に]語った：「友よ、私のこの体を好きなようになされよ」。

その時、菩薩が[菩提]心を発するや否や、大地が六種に振動した。

虚空にいる神々も、花の雨を投げ降らし、称讃の声を与えた：

「友よ、すばらしい、すばらしい。あなたは最高に困難な行いをした」。

その時、神々の王インドラは思った：「この菩薩は最高の難行をなした。私はこの体を以前のよう[インドラの姿に]変えることができるけれど、しかし私はこの者を羽目を外さぬ程度に喜ばせてやるべきである」。

そう考えて、菩薩に語った：「友よ、あなたは自ら肉を切り、筋と多くの脈管を^[1]断ち割った時に、厭嫌の心が少しでも生じなかったか」。

菩薩は答えた：「友よ、自分の肉を切り、筋と多くの脈管を断ち割った時に、厭嫌の心は少しも生じず、私は[切断の]苦しみを感じた時に、地獄と畜生と餓鬼に生まれた衆生たちのみに対する同情に支配されました」。

羅刹の姿をもつ神々の王インドラは語った：「友よ、あなたのその言葉を誰が信じるだろうか」。

菩薩は答えた：「この『真理にかけての祈願』(*satyopayācana)により、私はあなたに信じることを示しましょう」。

インドラは言った：「このようにあなたが『真理にかけての祈願』を決意したならば、あなた自身のこの身体は、『真理にかけての祈願』[の力]により、元通りになれ」。

この言葉が言われるや否や、菩薩は言った：「もし、このように私の肉を切り、筋と多くの脈管を断ち割った時に、厭嫌の心が少しでも生じなかったし、私が[切断の]苦しみを感じた時に、地獄と畜生と餓鬼に生まれた衆生のみに対する同情に支配されたのが[真実]ならば、その真実と真実語[の力]によって、[体が]元通りになれ」。

この言葉を言うや否や、菩薩の体は元通りになった。

[1] 多くの脈管を] rtsa brang breng. 古語辞典 *Brda dkrol*, p. 561, s.v. brang breng, (2) では、この Karmaśataka の文を用例として挙げて、cung zad, chang chung の意味とする。すると rtsa brang breng は「少しの、わずかの脈管」という意味になるが、これは文脈上、納得できる意味ではない。NEGI 3877a, s.v. brang breng を見ると、莫大な数の単位 vicāra, visāra (Gaṇḍavyūha, ed. VAIDYA, pp. 82, 103)を表現するのに、この訳語が使われる。すると「莫大な量の」という意味になるかもしれない。また NEGI 3877b, s.v. brang breng thogs pa の下にある1用例文 (Śikṣāsamuccaya, ed. VAIDYA, p. 116)をみると、brang breng は che rgyus brang breng という表現において、名詞 che rgyus (= chu rgyus = snāyu "sinew, tendon") にかかる形容詞として使われている可能性がある： keng rus dang sha dang khraḡ ra ri chags pa che rgyus brang breng thogs pa = Skt. asthisāṅkalikāṃ māmśaśoṇitamrakṣitāṃ snāyu-vinibaddhāṃ ("a skeleton smeared with flesh and blood and the tendons attached"). この用例文では che rgyus brang breng を「多くの腱」と訳せそうである。そのためこの Karmaśataka の文でも brang breng を「多くの」という意味で訳した。ただし NEGI の辞書は brang breng thogs pa = Skt. vinibaddha と、蔵梵を対応させる。その場合、brang breng は動詞 thogs pa に対して副詞的に使われていると見なすのであろうが、その場合も「多量に、甚だしく」という意味をあてはめて解釈できよう。

その時、それを見るや否や、神々の王インドラは喜悅して、[羅刹の]姿を消して、本当の姿に変わり、菩薩の足を頂礼して語った：「私はあなたを害するつもりで、苦惱させたのではありません。私はあなたに喜悅を生じさせるため、あなたを苦惱させたのです。あなたのこのような精進、このような熱心さによって、疑いなくあなたは正等覺を証得するでしょう。その時はどうか私をお導きください」。

その時神々の王インドラは菩薩に許しを請い、その場で姿を消した。

[過去世物語終わり]

比丘たちよ、どう思うか。その時シビ王となって、菩薩行に住していたのは、この私であった。その時も私は善説を説き、善説を愛好していたのに、今、如来となった時に、善説を説き、善説を愛好することをどうしてしないことがあろうか。それはなぜかというと、比丘たちよ、私は教えを[何よりも]第一とするからである。「このように仏は説かれた。」

第126話 シビ王

第二のシビ[王の話]。因(現在の出来事)と前因(過去世の出来事)は前[のシビ王]と同様であるので[省略する]。

神々の王インドラは菩薩に語った：「あなたが私の弟子になって何の益があるでしょうか。私はあなたを害することを[これから]語りますが、もし害を受けようとも、それをあなたは実行することができるなら、その後で、あの偈頌を私はあなたに語りましょう」。

菩薩は答えた：「友よ、その偈頌を語ってください。あなたが私を害する時、[私に]何をさせようとも、そのすべてを私はします。友よ、完全なその偈頌をお説きください」。

こう[王が]が語ると、ただちに神々の王インドラは、菩薩の前で、完全なその偈頌を唱えた。

すると菩薩は偏袒右肩して、人間ならざる者(羅刹)の姿をもつ神々の王インドラの方に向かって合掌して礼拝し、完全な偈頌を聴受し、長い間読誦した後に、四指の長さをもつ千本の釘を木の板に突き通した、そのような二枚の板の間に、自ら横たわって、[両側から]締めつけさせた。

彼はそこにとどまったままで、無上正等菩提を誓願して、語った：「ああ、どうかこの善根により、私は[この]盲目の、導き手がなく、教師がいない世界において、如来・阿羅漢・正遍知・明行足・善逝・世間解・調御丈夫・無上士・天人師・仏・世尊になることができますように」。

[そして次の]偈頌を唱えた。

この偉大な布施により、世界における自存者・仏に[私は]なりたい。

[自ら彼岸に]渡った後に、以前の勝者によって未だ[彼岸に]渡されていない、多くの衆生を、渡したい。

そして、木の板の間に圧搾されるや、たちまち菩薩の全身から血が流れ出て、大地が六種に振動した。

天空にいる神々は花の雨を降らせて、「すばらしい」と感嘆して讃えた。[この話の]残りは、シビ[王]の前話と同様に、「真理にかけての祈願」[の力]により、体が元通りに回復した、までが説かれるべきである。

APPENDIX

Avadānakalpalatā 梵文と蔵訳の語の対応関係の確認

将来の索引作りのために、最後に付録として、梵蔵を一字一句対照させておきたい。

以下の表記に関する注意：梵文と蔵訳の語の対応関係を示す際に、代名詞と動詞は、語尾変化が付いた活用形で示す。副詞も不変化辞でなければ、活用形で示す。しかし名詞と形容詞については、語尾変化形をいちいち出さず、基本的に語幹の形で示し、語幹の後につけた1～8の数字で梵語の八つの格を示す。例：aśva1 = aśvaḥ, aśva2 = aśva (voc.), aśva3 = aśvam, aśva4 = aśvena, aśva5 = aśvāya, aśva6 = aśvāt, aśva7 = aśvasya, aśva8 = aśve. 両数と複数の場合も、格の表現には単数と同じ数字を用いる：aśva1 = aśvau, aśvāḥ.

第55章 Sarvaṃdadāvadāna

/ yid bzhin nor bu (=cintāmaṇi1) nges par (=kila) rnam bsams (=vicintita-) dngos po (=vastu-) ster byed cing (=dātṛ1) / / dpag bsam shing (=kalpadruma1) yang (=ca) yongs su brtags pa (=parikalpita3) kho na (=eva) skyed par byed (=sūte) / / lus ni (=deha-) rab sbyin dam tshig dag la (=pradānasamaya8) rang nyid (=svayam) brtson pa (=udyata1) gang (=yaḥ) / / de dag (=tasya) bstod la (=stuti8) yang dag 'os pa'i (=samucita1) tshig ni (=pada1) gang zhig (=kāni) yin // 55.1 //

/ ghā ṭa (=ghāṭa-) *u pa ghā ṭa ka (upaghāṭa3) / / smyo byed (=unmada-) gsang ba pa (=guhyaka3) btul nas (=vinīya) / / skra can (=keśinī-) nags las (=kānana6) mi snang bar (=antarhita1) / / ston pa (=śāstrī1) nags tshal (=vana3) gzhan du (=anya3) gshegs (=yayau) // 55.2 //

/ der ni (=tatra) sngon byung (=prāgvṛtta-) dran gyur nas (=smaṇa-) / bzhin 'dzum mdzad la (=smeravadana1) 'dzum pa'i rgyu (=smitakāraṇa3) / / brgya byin gyis ni (=śakra4) gus pas (=praṇayāt) dris (=prṣṭa1) / / de yis (=sa1) slar yang (=punar) rab gsungs pa (=abravīt) // 55.3 //

/ grong khyer (=nagarī1) thams cad ldan pa (=sarvāvatī1) zhes (=nāma) / / nor bu'i ba gam (=maṇi-harmya-) nam mkha' la (=gagana-) / / reg pa'i (=ālagna-) 'od zer rgod pa can

(=aṃśuhāsinī1) / / phun tshogs kun gyi (=sarva-sampad7) gnas su (=vasati1) gyur (=abhūt) // 55.4 //

/ der ni (=tasyām) rgyal po'i zla ba dag (=rājendu1) / / dri med 'od ldan (=amala-dyuti1) kun ster (=sarvaṃdada1) byung (=āsīt) / / gang gi (=yasya) grags pa (=kīrti1) zla 'od kyis (=jyotsnā1) / / srid gsum (=tribhuvana-) nyin dang mtshan mor (=divānīśam) mdzes (=babhau) // 55.5 //

/ mdzes ldan (=śobhā-juṣ7) legs byas (=sukṛta-) snying po'i (=sāra-) gnas skabs dag gi (=daśā-) khyad par gyis (=viśeṣa4) / / 'dul ba'i lam du (=vinayavartman8) gnas pa thob cing (=labdhasthiti7) gzugs bzang ldan (=bhadramūrti7) gyur pa / / gang gi (=yasya) legs smra (=sādhuvāda1) dul ba'i (=vinaya-, v. note) rgyan ldan sgrogs pa'i rnga nyid du (=maṇḍana-ḍiṇḍimatva) / sbyin *pas (=dāna4) gyur te (=āyayau) glang po'i bdag po dag gi (=kuñjarapati7) bzhin du 'o (=iva) // 55.6 //

/ nam zhig (=kadācit) sa yi brgya byin (=bhūmiśatakratu1) de (=sa) / / skye rgu'i (=prajā-) bya ba (=kārya-) lta byed cing (=darśana-) / / rjes su gzung la (=anugraha-) mngon phyogs pas (=unmukha1) / / phyi rol khyams (=bāhyāṅgaṇa-) gnas (=sthāna-) sa gzhi (=bhū3) bsten (=bheje) // 55.7 //

/ der ni (=tatra) mtha' yas (=ananta-) rgyal phran gyi (=sāmanta-) / / mgo bo'i rin chen la (=mauliratna8) snang (=bimbata1) des (=sa) / / lus ni (=vigraha4) grangs med dag *gis (=aśaṃkha4) bzhin (=iva) / / sa yi bya ba (=pṛthivī-kārya4) thos par gyur (=śuśrāva) // 55.8 //

/ de yi (=tasya) rkang stegs (=pādapīṭha8) zla shel gyi / / rang bzhin la ni (=candrakāntamaya8) 'phos gyur cing (=saṃkrānta1) / / mdun du (=puras) rab btud (=praṇata1) slong ba rnams (=arthin1) / slar yang (=punar) bsam pa'i gdung ba (=cintā-tāpa3) btang (=tatyajuh) // 55.9 //

/ skabs (=antara8) der (=atra) phug ron (=pārāvata1) rab skrag cing (=paritrasta1) / / 'dab gshog zad pa (=srastapakṣa1) bzhin du ni (=iva) / / 'gro ba med pas (=agati1) sa bdag gi (=kṣitipati7) / byin pa'i rtsa la (=ūrumūla3) rab tu bsten (=aśīśriyat) // 55.10 //

/ rab skrag (=kātaratara-) mig ni (=netra3) 'khrul byed cing (=udbhrānta-) / / yan lag (=aṅgaka3) kun tu 'khums pa (=saṃkocita-) de (=tam) / / mthong nas (=dṛṣṭvā) sa yi bdag po ni (=pṛthivīpati1) / / 'phral la (=sahasā) brtse ba'i dbang du (=dayāvidheya1) gyur (=abhūt) // 55.11 //

/ 'di yi (=asya) 'jigs pa (=bhaya1) gang las (=kutas) shes (=iti) / / rab rgyas (=samutphulla-) padma'i (=kamala-) 'phreng ldan gyis (=āli4) / / padmo can ltar (=kamalinī-) 'od gsal ba'i (=tvīṣ4) / / spyang gyis (=dṛṣ4) myur du (=kṣipram) phyogs rnams (=āśā3) bltas (=vyalokayat) // 55.12 //

/ skabs der (=tasminn avasare) smin pa gsod byed ni (=pākaśāsana1) / / snying stobs (=sattva3) brtag par 'dod pa yis (=jijñāsu1) / / sgyu mas (=māyā4) rngon pa'i rnam par ni (=lubdhakākāra1)

// 'ongs nas (=samabhyetya) mi bdag la (=nrpa3) smras pa (=abravīt) // 55.13 //

/ lha gcig (=deva) yun ring na (=cira-) rnyed pa'i (=avāpta4) / / bdag gi (=mama) bza' ba
(=bhakṣya3) bya (=vihaṃgama3) de (=?) thong (=muñca) / / 'di ni (=iyam) ma bslangs
(=ayācita1) mi zlog pa'i (=anivṛtti1) / / bdag cag (=naḥ) lhan skyes (=sahaja1) 'tsho ba (=vṛtti1)
yin // 55.14 //

/ 'gro ba'i bdag po (=jagatīpati2) bdag gi zas (=me bhojana1) / / rang bzhin gyis ni (=nisarga-)
grub pa (=siddha1) 'di (=etat) / / med na (=nāsti) 'tsho ba (=jīvita1) gtong bar 'gyur (=tyajāt7) / /
gang phyir (=hi) zas ni (=aśana-) srog gi (=prāṇa1) gzungs (=dhāraṇa1) // 55.15 //

/ dus 'dir (=kṣaṇe 'smin) zas ni chad pa las (=aśanaccheda6) / / bdag gi (=mayi) 'tsho ba btang
gyur na (= samtyaktajīvita8) / / bdag gi (=me) khyim thab (=kuṭumbinī1) bu dang bcas
(=saputra1) / / re ba chad pas (=viluptāśā1, v. note) rnam nyams 'gyur (=vinamṣyati) // 55.16 //

/ chos ldan (=sadharmā1) gang gis (=yaḥ) gcig (=eka-) nyid ni (=eva) / / bsrungs pas
(=saṃrakṣaṇa4) gang du (=yatra) mang po dag (=bahu-) // chos las (=dharmāt?) nyams par gyur
na (=kṣaya3) bkye (=?, v. note) / / de la (=tatra) chos ni (=dharma1) ci zhig 'dra (=kīdṛṣa1) //
55.17 //

/ phug ron la ni (=pārāvata-) byams pa yis (=prīti4) / / bdag la (=mayi) zhe sdang (=dveṣa3) bya
mi 'os (=kartum arhasi) / / gang phyir (=hi) khyod nyid lta bu ni (=bhavadvidha1) / / *rgyu ldan
(=kāraṇa-) chags pas (=rāga4) 'jug pa min (=na pravartante) // 55.18 //

/ ji ltar (=yathā) 'di (=ayam) nyid (=eva) de bzhin (=tathā) bdag (=aham) / / khyed la (=tava)
nged gnyis (=āvayoḥ) bye brag (=viśeṣa1) ci (=kaḥ) // dam pa (=sat1) 'byung po kun la
(=sarvabhūta-) snyoms (=sama1) / / gcig la (=ekatra) brtse ba (=kṛpā3) byed pa min (=na
kurvate) // 55.19 //

/ des (=tena) 'di smras tshe (=ity ukte) mi bdag gi (=nrpati1) / / lag pa gdub bu'i (=kaṅkaṇa-)
sgra ldan pas (=rāvin4) / / 'jigs par mi bya (=na bhetavya1) zhes (=iti) smra (=āha) bzhin (=iva) /
/ bya ni (=khaga3) phyag gis (=pāṇi4) rab bsgribs te (=pracchādyā) // 55.20 //

/ de nas (=tatas) sems can (=sattva-) gzir ba (=ārti-) kun (=sarva-) / / yongs bskyab
(=paritrāṇa-) dus ni byas pa (=kṛtakṣaṇa1) des (=sa) / / char sprin (=jīmūta-) 'jam pa'i (=snigdha-)
sgra dbyangs (=ghoṣa-) ltar (=?) / / zab pa'i (=gambhīra4) tshig gis (=gir4) rab smras pa (=uvāca)
// 55.21 //

/ skad cig (=kṣaṇa-) tshim pa (= tṛpti-) don gnyer bas (=arthin1) / / mi bzad (=viśama3) srog
chags (=prāṇin-) gsod (=vaiśasa3) ma byed (=mā kṛthāḥ) / / lus can (=śārīrin7) srog la chags pa
yi (=prāṇasneha1) / / gdung ba'i (=vyathā-) rnam 'gyur (=vikāra1) mtshungs pa (=tulya-) nyid
(=ayam?) // 55.22 //

/ gzhan gyi srog ni (=paraprāṇa-) phrogs pa yis (=apahāra4) // gang zhig (=yā) yongs su 'tsho
byed pa (=vṛttiḥ parikalpyate) // de yi (=sā, v. note) dge legs (=śreyas7) ldog 'gyur te (=nivṛtti1)
// gang phyir (=hi) sdig pa'i (=pāpa-) gdung ba (=tāpa3) ster (=prayacchati) // 55.23 //

/ da lta nyid du (=adhunaiva) ma chad par (=aparicchinna or *aparicchinne) // rang (=nija-)
'dod (=icchā-) yang dag bzhed cing (=saṃmata-) gus (=ādara1) // bdag gi don du (=madartham)
zas (=āśana1) gang gang (=yad yad) // nye bar bsgrubs pa (=upakalpita1) blang bar mdzod
(=grhyatām) // 55.24 //

/ ces pa (=iti) rgyal po'i tshig (=rājavacana3) thos nas (=śrutvā) // yongs su bzhin log
(=parimlānānana1) shugs rings can (=śvasat1) // longs spyod (=upabhoga-) mchog la (=vara-)
yid byung ba'i (=vīmanas1) // rñgon pas (=lubdhaka1) lan ni rab smras pa (=pratyaabhāṣata) //
55.25 //

/ bdag cag (=vayam) nags na gnas rnams kyis (=vanavāsin1) // rgyal po'i longs spyod
(=rājabhoga7) ro mi shes (=na rasajñā1) // 'bru (=sasya-) zas (=āśana-) nyams su ma myong
ba'i (=v. note) // ri dwags (=mṛga1) la dus (=modaka4) dga' ma yin (=na modante) // 55.26 //

/ tsher ma'i (=kaṇṭaka-) 'khri shing (=latā3) 'dab med (=niṣpattā3) mya ngan dag la (=maru-)
yongs 'driś (=paricita3) ma thob nas (=alabdhvā) // nags tshal (=vana8) ljang zhing (=śyāma8)
snum par (=snigdha-) rñga mo (=karabha1) mya ngan dag gis (=śuc4) ci yang (=kim api) skam
(=śuśyati) // tsū ta (=cūta) rab smin (=sāmpāka3) dug (=viṣa3) bzhin (=iva) bya rog gis ni
(=kāka1) za bar mi byed de (=na kavalayati) // rang bzhin dag gi (=svabhāva7) dbye bas
(=bheda6) 'os pa (=ucita1) 'dir ni (=iha) kun la (=sarva7) bde ba ster (=sukhada1) // 55.27 //

/ rgyal la 'os zas (=rājārhabhoga3) ding (=adya) zos nas (=bhuktvā) // nang par (=prātar) slar
yang (=punar) bdag ci za (=bhoktāsmi kim) // gang zhig (=yad) nyin gzhan (=anyedyus) rnyed
dka' min (=na durlabha1) // de dag (=tad) zos na (=bhuktaṃ1) bde ba (=sukham3) skyed
(=ādhatte) // 55.28 //

/ rgya che (=udāra-) ro ldan (=rasa-) kha zas (=āhāra4) yongs 'driś (=paricita1) ro dang bral ba
(=virasa3) za mi byed (=na āśnāti) // 'khor gyi (=parijana-) rtsom pa (=ārambha-) mang por
(=bahu-) ltung rnams (=patita1) gcig pu nyid du (=ekākin1) gnas mi byed (=na tiṣṭhati) // shing
rta (=ratha-) zhon pa (=ārūḍha1) rkang pas (=pad4) 'gro ba'i dus na (=gamanasamaya8) shin tu
mya ngan byed (=śocatitarām) // don (=artha-) thob (=avāpta-) nyams na (=bhraṃśa1) mi bzad
(=viṣama-) nyon mongs (=kleśa-) rtsub mor (=paruṣa1) shin tu gdung bar byed (=kaṣati) // 55.29
//

/ lha gcig (=deva) rgyal po la 'os zas (=rājārhabhoga1) // khyod kyi spyen gyis (=tvadṛṣṭi-)
gzigs rnams la (=dṛṣṭa7) // rtag tu (=satatam) rnyed dka' (=durlabha1) min mod kyang (=naiva

kiṃ tu) // skye bar sngon med (=janmāpūrva1) bdag mi dga' (=na me priya1) // 55.30 //

/ rñgon pas (=mṛgayā-) mñgon par bsad pa'i (=abhihata1) sha (=māṃsa1) // bdag cag rñams
kyi (=asmākam) srog ltar spyod (=jīvitāyate) // des na (=tat) rang lus (=svadeha-) rab chod la
(=samutkr̥tta) // bya yi (=khaga-) nyis 'gyur (=dviguṇa1) sbyin par mdzod (=arpyatām) // 55.31
//

/ mi bdag (=nṛpa1) bsam pa (=cintā-) 'khrugs pa yis (=viṣaṇṇa1) // tshig (=vacana3) de (=etad)
thos nas (=śrutvā) 'phral la ni (=sahasā) // dga' bas (=praharṣa-) spyang gyi (=nayana-) chu skyes
dag (=ambhoruḥa1) / rab tu rgyas pas (=utphulla-) de la smras (=tam abhāṣata) // 55.32 //

/ bya (=khaga7) dang (=ca) khyod kyi (=tava) srog dag ni (=prāṇa-) // bsrung slad (=rakṣā5)
mtshungs pa'i (=tulya-) the tshom la (=saṃśaya8) // blo bzang (=sudhī4) khyod *kyis (=tvayā)
thabs (=upāya1) 'di ni (=ayam) // gsal bar (=spaṣṭa1) bdag la (=mama) nye bar bstan
(=upadiṣṭa1) // 55.33 //

/ gnyis ka'i srog la (=ubhayaprāṇa-) the tshom gyi (=saṃdeha-) // khyogs la (=dolā-) zhon pas
(=rohaṇa-) 'khrugs gyur pa (=vihvala1) // bdag gi (=me) yid ni (=manas1) grogs kyis
(=vayasya4) bzhin (=iva) / khyod nyid kyis (=tvayaiva) ni brtan par byas (=dhr̥tim ānīta1) //
55.34 //

/ khyod kyi mig (=tvadṛṣṭi-) zhags kyis (=pāśa-) bcings pa'i (=baddha1) // bya (=vihaga1) 'di
(=ayam) rab tu gtang bar mdzod (=pravimucyatām) // da lta nyid du (=saṃprati) bdag gi shas
(=manmāṃsa4) // re zhig (=tāvat) srog gi gzungs thag (=prāṇadhāraṇa1) mdzod (=kriyatām) //
55.35 //

/ rgyal po (=rājan4) dam bca' bden pa yis (=satyapratijñā4) // snying rje las ni (=kāruṇya6) 'di
brjod tshe (=ity udīrite) // dug ldan (=viṣadigdha4) mda' yis (=śara4) phug pa (=viddha1) bzhin
(=iva) // blon po rñams ni (=amātya1) rmongs par gyur (=mumuhuḥ) // 55.36 //

/ sbyin pa'i skabs su (=dānāvasara8) phan mi phan (=hitāhita1) // grogs kyis (=saciva4) bdag la
(=me) brjod mi bya (=na vācya1) // zhes pa (=iti) de yi (=tasya) dam tshig gis (=samaya1, v.
note) // lus ni gtong bar (=śarīratyāga-) nges par gyur (=niścaya1) // 55.37 //

/ de nas (=atha) mi bdag gis (=narapatī1) smras pa (=abravīt) // gang zhig (=yaḥ) bdag gi
(=me) lus las (=tanu6) sha (=māṃsa3) // bcad nas (=utkr̥tya) srang la (=tulā3) 'debs byed pa
(=āropayati) // de la (=tasmai) nor ni (=vitta3) rab tu byin (=prayacchata) // 55.38 //

/ de nas (=tatas) rgyal po (=rājan4) gser gyi char // 'bebs pas (=hiraṇyavarṣin4) bos pa'i
(=samāhūta1) skye bo rñams (=jana1) // ngan pa'i las kyi (=kukarma-) blo (=dhī1) rmus phyin
(=kūṇita-) // rna ba (=śravaṇa3) bsgribs shing (=pidhāya) song bar gyur (=yayuh) // 55.39 //

/ gdug pa'i (=dāruṇa-) blo (=matī1) zhes bya ba (=nāmnā) gcig (=eka1) // ser skya'i (=kapila-)

mig ni (=?) ser po yis (=piṅgala1) / / gser dag (=kaṇaka3) blangs nas (=ādāya) gdug pa yi (=krūra-) / / las la (=karman8) chas su zhugs par gyur (=saṃnaddha1) // 55.40 //

/ gdug pa las ni (=kraurya6) sog le (=krakaca7) bzhin (=iva) / / drang po (=sarala-) gcod la (=cheda-) mkhas gyur cing (=dakṣa7) / / rang bzhin gyis ni (=nisargatas) 'khyog pa yi (=vakra7) / / gdug pa'i bdag nyid (=durātman7) ci (=kim) mi byed (=akṛtya1) // 55.41 //

/ gang zhig (=yad) mtshon gyis (=śastra4) mi nus (=na śakya1) de dag (=tad) kyal ka'i (=keli-) tshig gis (=vacas4) 'joms par byed (=vidalayati) / / gang zhig (=yad) brjod par (=vaktum) mi nus (=na śakya1) ci yang (=kim api) de dag (=tad) 'phral la (=sahasā) sgrub par byed (=kurute) / / gang zhig (=yad) bya bar (=kartum) mi nus (=na śakya1) de dag (=tad) kyang ni (=api) yid kyis (=manas4) sems par byed (=kalayati) / / ma bsdams (=apratihata1) brlang po dag gis (=khala1) spyod pas (=carita4) ngo mtshar (=āścarya3) thams cad (=sarva-) rgyas par byed (=kīrati) // 55.42 //

/ de nas (=atha) de yis (=sa) phug ron ni (=pārāvata3) / / srang la (=tulā3) gzhal nas (=āropya) sa bdag gi (=mahīpati7) / / byin pa (=ūru-) g.yas pa'i (=dakṣiṇa-) sha dag ni (=māṃsa3) / / rab bcad (=samutkr̥tta3) de dang mtshungs par (=tattulya3) bkod (=ādadhe) // 55.43 //

/ de nas (=atha) sa yi bdag po yi (=bhūbhartṛ7) / / khrag (=rudhira-) thigs (=bindu4) dang po (=prathama4) reg pa yis (=spr̥ṣṭa1, v. note) / / 'khrugs pa (=vihvala1) bzhin du (=iva) sa gzhi ni (=mahī1) / / yun ring (=suciram) rnam par g.yos par gyur (=vighūrṇamāna1) // 55.44 //

/ de nas (=atha) phug ron (=pārāvata8) lei ba (=gurutā3) dang (=ca) / / sha ni (=māṃsa8) yang ba nyid (=laghutā3) gyur tshe (=gata8) / / sha ni (=māṃsa3) gzhan dag (=anyad3) rab chod la (=utkr̥tya) / / byin (=dīyatām) zhes (=iti) sa yi bdag pos (=bhūpati1) smras (=āha) // 55.45 //

/ brla dang dpung pa'i (=ūrubhuja) sha (=māṃsa8) bcad (=kr̥tta-) kyang (=api) / / bya (=khaga-) dang mtshungs pa nyid (=tulyatā3) ma gyur (=na prāpta8) / / 'jig rten gyi ni (=trailokya-) the tshom (=saṃśaya-) dang / / mtshungs pa'i (=tulā3) srang (=tulā3) der (=?) mi bdag (=nr̥pa1) zhugs (=āruroha) // 55.46 //

/ mi bdag (=nr̥pati8) chu rgyus (=snāyu-) lhag ma'i (=śeṣa-) lus (=tanu8) / / rang nyid (=svayam) srang la (=tulā3) 'dzegs pa'i tshe (=ārūḍha8) / / de yi gtong ba (=tat-tyāga-) bzung dka' bas (=durgraha-) / / yid byung (=udvigna1) grags pa (=kīrti1) phyogs mtshams (=digantara3) song (=yayau) // 55.47 //

/ de yi dus na (=tasmin kṣaṇe) sa yi bdag po dag gi (=kṣitipati7) brtan pa ni (=dhairya4) / / nyams pa med pas (=aparikṣata4) ya mtshan gyur pa'i (=vismayamaya1) lha yi (=tridaśa-) bu mo rnams (=aṅganā7) / / gtsug phud (=dhammilla-) 'phreng bar (=mālya-) 'os pa'i (=?, v. note) padmos (=padma1) yongs gang (=paripūrṇa-) lag pa yis (=pāṇi-) / / de yi spyod tshul dag la

(=tat-carita8) mchod pa'i (=pūjā-) gus pa (=ādarā1) ci yang (=kim api) byung (=babhūva) // 55.48 //

/ rnam 'gyur med par (=nirvikāra3) sa yi bdag (=mahīpati3) / / srang la (=tulā-) 'dzegs pa (=ārūḍha3) mthong gyur nas (=samālokya) / / skyes bu (=puruṣa1) gdug pa byed pa po (=krūrakārin1) / / skrag bcas (=sasādhvasa1) de yis (=sa) de la (=tam) dris (=papraccha) // 55.49 //

/ lus kyi sbyin pa (=dehadāna4) 'di yis ni (=anena) / / khyod ni (=tava) ci (=kim) bzhed (=īpsita3) yong mi shes (=na jāne) / / gang phyir (=hi) lus can (=dehin7) rnyed pa kun (=sarvalābha-) / / yang dag rtsom pa (=samārambha1) lus kyi don (=śārīrārtha1) // 55.50 //

/ gal te (=yadi) lus ni btang la (=tanutyāga8) sems (=citta1) / / nyams pa (=khaṇḍita1) med dam (=na) bden par (=satyam) smros (=brūhi) / / zhes smras (=iti bruvāṇa3) de la (=tam) rgyal po ni (=rājan1) / / bzhin (=ānana1) 'dzum ldan pas (=sasmita-) rab smras pa (=babhāṣe) // 55.51 //

/ 'jig rten (=loka8) 'di na ni (=asmin) thob bya (=prāpya1) / / bdag la (=me) ci yang (=kiṃcid) med mod (=asti na) kyi (=kiṃ tu) / / 'gro ba kun la (=sarvajagat7) phan pa'i slad (=hita5) / / bla med (=anuttara3) rdzogs pa'i byang chub (=samyaksambodhi3) 'dod (=arthaye) // 55.52 //

/ gal te (=yadi) bdag gi (=me) sems (=citta1) 'di ni (=idam) / / nyams pa med na (=akhaṇḍita1) bden pa (=satya4) des (=tena) / / lus ni (=śārīra1) yongs su ma nyams shing (=aparikṣata1) / / rang bzhin rdzogs pa nyid (=prakṛtim āpanna1) gyur cig (=astu) // 55.53 //

/ ces pa (=iti) brjod pa tsam nyid kyis (=udīritamātra4) / / sa bdag (=bhūpati7) bden pa'i (=satya-) ngang tshul gyis (=śīla7) / / lus kyi (=vapus1) rma ni (=vraṇa1) rab gsos te (=rūḍha-) / / ma nyams (=aklība-) zla ba (=candra-) ltar mdzes (=rucita1) gyur (=abhūt) // 55.54 //

/ de nas (=tatas) phug ron (=pārāvata8) rgon pa dag (=lubdhaka8) / / song zhing (=yāta8) sa skyong (=bhūpāla-) 'od ldan ni (=bhāsvat-) / / shar tshe (=udaya8) spro ba chen po (=mahotsava1) dang (=ca) / / rab gsal (=prakāśa-) 'byor ba ldan par (=vibhava1) gyur (=abhavat) // 55.55 //

/ gang zhig (=yaḥ) nges par (=kila) sa yi bdag po (=kṣītipati1) thams cad ster (=sarvaṃdada1) gyur pa (=babhūva) / / de (=saḥ) nyid (=eva) nga (=aham) yin (=?) skyes bu (=puruṣa1) ser skya (=piśaṅga1) de yang (=sa ca) lhas byin no (=devadatta1) / / de yi sngon byung (=tadvṛtta-) yang dag dran nas (=saṃsmaraṇatas) bdag gis (=aham) 'dzum pa (=smita-) spros (=prasṛta-) / / zhes pa (=iti) ston pa las (=śāstr6) thos (=śrutvā) 'chi med (=amara-) bdag po (=adhipati1) dga' bar gyur (=nananda) // 55.56 //

第91章 Śibisubhāṣitāvadāna

/ snang ba med pa'i (=anāloka-) gnas rnams dag tu (=pada8) sgron me bzhin (=dīpavat) // legs par bshad pa (=subhāṣita1) bden pa'i (=satya-) lam ni (=patha-) gsal bar (=prakāśana3) byed (=karoti) // de nyid phyir na (=ata eva) rtag tu (=sadā) nye bar mkho ba las (=upakāra6) // bdag nyid che rnams (=mahātman7) dben pa (=viveka-) spyod la (=caryā8) yid du 'ong (=vallabha1) // 91.1 //

/ gang tshe (=yadā) gyad kyi (=malla-) skye ba'i gnas (=janāspada8) // ku sha'i grong du (=kuśīpurī8) bcom ldan 'das (=bhagavat4) // dge ba (=kuśala-) 'tshol bas (=eṣin4) dge slong tshogs (=bhikṣugaṇa1) // dgra bcom gnas la (=arhatpada3) bkod gyur pa (=prāpita1) // 91.2 //

/ de tshe (=tadā) phan tshun (=mithas) snyan par (=madhura3) chos (=dharma3) // smra byed (=kathayat7) dge slong rnams dag gi (=bhikṣu7) // legs bshad (=subhāṣita3) bde bar gshegs pa ni (=sugata1) // dgyes pa dang ldan (=prītiyukta1) rang gis (=svayam) gsan (=śuśrāva) // 91.3 //

/ de yi (=tasya) legs bshad la (=subhāṣita-) gcags pa (=vyasanitā3) // de (=tām) mthong (=dṛṣṭvā) dge slong rnams kyi ni (=bhikṣu1) // de la (=tam) gsol ba (=ūcuḥ) kun mkhyen nyid (=sarvajña2) // nged kyi tshig la (=asmad-vacas1) ji ltar (=katham) dgyes (=priya1) // 91.4 //

/ dge slong tshogs kyi (=bhikṣusamṅha4) de brjod tshe (=ity ukte) // bcom ldan (=bhagavat1) rgyal bas (=jina1) bka' stsal pa (=abhyadhāt) // bdag ni (=me) skye ba gzhan du (=janmāntara8) yang (=api) // legs bshad dag la (=subhāṣita1) mchog tu (=param) dga' (=vallabha1) // 91.5 //

/ grong khyer (=purī8) zhi ldan dag tu (=śivavati8) ngon (=purā) // mi dbang (=nareśvara1) shi bi (=śibi1) zhes bya ba (=nāma) // 'byung po kun la (=sarvabhūta7) brtse ba yi (=dayā-) // yid 'ong (=dayita) gnyen du gyur pa (=bāndhava1) byung (=babhūva) // 91.6 //

/ de yi bsod nams (=tatpuṇya-) bkar (=śāsana-) gnas pa'i (=āsīna4) // mi yis (=nara4) mtho ris (=svarga3) kun gang ba (=āpūrta3) // mthong nas (=dṛṣṭvā) de yi (=tasya) snying stobs ni (=sattva3) // *brtag tu (=jñātum, v. note) mchod sbyin brgya pa (=śatakratu1) 'ongs (=samāyayau) // 91.7 //

/ de ni (=saḥ) rin chen khang bzang (=ratnaprāsāda-) rtser (=śikhara-) / 'dzegs pa'i (=ākrānta3) mi bdag can (=nṛpati3, v. note) song nas (=etya) // 'jigs rung (=ugra3) srin po'i (=rakṣas-) gzugs (=rūpa3) bsgrubs te (=vidhāya) // de yi (=tad-) mdun du (=agra-) mngon phyogs (=abhimukha1) smras (=abravīt) // 91.8 //

/ 'du byed (=saṃskāra1) mi rtag (=anitya1) shin tu g.yo ba'i (=taralatara-) glog (=vidyut-) rab mdzes pa dag dang (=dyuti-) mtshungs (=nibha1) // rab tu skyes shing (=samutpanna-) skyes shing (=utpanna-) 'jig pa'i (=pralaya-) yongs su 'gyur ba dag la (=pariṇāma-) chags (=praṇayin1) // 91.9 //

/ zhes pa'i (=iti) legs bshad (=subhāṣita-) phyed (=ardha3) brjod nas (=uktvā) // srin po

(=rākṣasa1) de ni (=saḥ) mi smra gyur (=tūṣṇīm āsīt) // sa yi bdag pos (=kṣitipati1) thal sbyar nas (=kṛtāñjali1) // phyag 'tshal (=praṇamya) de la (=tam) rab smras pa (=abhāṣata) // 91.10 //

/ dge ba (=sādhu2) legs par bshad pa'i (=subhāṣita-) phyed (=ardha3) / / yid bde (=maṇaḥsukha3) lhag ma (=śeṣa3) gsung bar mdzod (=śaṃsa) / / byang chub yan lag (=bodhyaṅga-) gyur (=bhūta-) skad (=vāṇī3) de (=tām) // slob mar (=śiṣya1) gyur nas (=bhūtvā) bdag (=aḥam) nyan no (=śṛṇomi) // 91.11 //

/ dul bas (=vinaya6) de (=iti) smra (=bruvāṇa3) mi bdag la (=nṛpa3) / / srin po yis ni (=rākṣasa1) rab smras pa (=provāca) / / rgyal dbang (=rājendra2) slob ma (=śiṣya4) 'bras bu med (=niṣphala4) // khyod kyis (=tvayā) bdag la ci zhig bya (=karomi kim) // 91.12 //

/ skom pas (=pipāsā-) bdag ni (=aḥam) yongs nyen cing (=paribhūta1) / / bkres pas (=bubhukṣā4) dku ni (=kukṣi1) yongs su nyams (=kṣuṇṇa-) / / rgyal po bdag ni (=rājan2) bla ma yi (=guru-) // zhe sa (=gaurava1) 'ba' zhig (=kevala1) 'di (=etat) mi (=na) 'dod (=īpsita1) // 91.13 //

/ bkres (=kṣudh-) skom dag gis (=tṛṣṇā-) gzir gyur pas (=vyākulātā4) // gang zhig (=yad) cung zad (=kimcid) bdag smra'o (=pralapāmy aḥam) / / lhag ma (=śeṣa3) brjod par (=vaktum) yongs (=?) mi nus (=na śaknomi) // bdag la (=me) sdug bsngal (=kadarthanā3) ma mdzad cig (=mā kṛthāḥ, v. note) // 91.14 //

/ snyan pa'i gdangs ldan (=mādhuryadhurya1) ro ni 'os pa can (=rasocita1) // legs par bshad pa (=subhāṣita1) rab tu rgyas gyur pa (=saṃcāryamāṇāni?, v. note) // tshim la (=trpta7) bde ba ster byed (=sukhaprada1) 'di dag ni (=etāni) // nges par bkres dang (=kṣudh3) skom pa (=tṛṣṇā3) *zad byed min (=na kṣapayanti) // 91.15 //

/ thos dang (=śruta1) glu dang (=gīta1) snyan dngags (=kāvyā1) ngal bas (=śrama-) yongs 'dris (=paricaya1) dge mtshan (=kautuka-) sgrub byed dang (=vidhi1) / / nor bu shes dang (=mañijñāna1) 'byung po (=bhūta-) gdon (=graha-) nad (=gada-) dug dang (=viṣa-) smyo ba (=unmāda-) zhi byed dang (=śamana1) / / sa 'dzin (=bhūbhṛt-) bsten dang (=sevā1) chu gter (=jalanidhi-) sgrol bar byed dang (=taraṇa1) gser 'gyur dag dang (=hemakaraṇa1) rtsis (=gaṇita1) / / 'di dag (=etad) ma lus (=akhila1) mthar thug (=paryante) 'bras bu (=phala3) mi rnams dag gi (=nṛ8) bza' ba (=bhojana-) yin // 91.16 //

/ 'phral la (=sadyas-) bcad pa'i (=kṛta7) sha (=māṃsa1) dang ni (=ca) // khrag dag (=rudhira1) bdag la (=mama) tshim byed pa (=tarpaṇa1) / / 'tshe med (=ahiṃsā-) sdom pas (=niyama6) bcings gyur pa (=baddha-) // khyod las (=tvattas) shin tu rnyed par dka' (=atidurlabha1) // 91.17 //

/ khyod dang nye bar (=tvatsamīpa8) bdag ci byed (=karomi kim) // 'ga' zhig la ni (=kaṃcid)

slong du (=yācitum) 'gro (=gacchāmi) // zas dang (=āhāra-) gnas ni (=vihāra7) mtshungs pa yi
(=tulya-) // rtsed mo (=krīḍā1) dang ni (=ca) gtam dag (=kathā1) mdzes (=śobhante) // 91.18 //

/ zhes (=iti) des (=tena) brjod tshe (=ukta1) mi bdag ni (=nṛpati1) // gus dang bcas pas
(=sādhara1) de la smras (=tam abhāṣata) // rang gi lus ni (=nijadeha-) rab bcad pa'i (=samutkṛta3)
/ khrag bcas (=sāsṛj3) sha ni (=māṃsa3) khyod la (=te) sbyin (=dadāmi) // 91.19 //

/ rgya che blo gros ldan pa (=?, v. note) khyod (=tvam1) // rten cing 'brel 'byung
(=pratītyasamutpāda) dang po'i (=pūrva-) sgo (=dvāra1) // khyod kyi (=tava) legs bshad
(=subhāṣita1) myang 'das kyi (=nirvāṇa-) // grong khyer gyi ni (=nagara7) lam gyi (=pathin1)
mchog (=agrya1) // 91.20 //

/ rgyal po zla bas (=rājacandra4) 'di (=iti) brjod tshe (=ukte) // mtshan mo rgyu bas
(=kṣapācara1) de la smras (=tam uvāca) // blo gros bzang po (=sumati2) myur du (=tūrṇam)
nyon (=śrūyatām) // dam bcas pa dag (=pratiśruta1) sbyin par mdzod (=dīyatām) // 91.21 //

/ 'du byed (=saṃskāra1) mi rtag (=anitya1) shin tu g.yo ba'i (=taralata1) glog (=vidyut-) rab
mdzes pa dag dang (=dyuti-) mtshungs (=nibha1) // rab tu skyes shing (=samutpanna-) skyes
shing (=utpanna-) 'jig pa'i (=pralaya-) yongs su 'gyur ba dag la (=pariṇāma-) chags (=praṇayin1)
// des bskyed (=taduttha4) 'khor zhing (=bhramaṇa-) yongs su sgyur bas (=parivarta4) srog
chags dag ni (=jantu7) dbang bral zhing (=vivaśa7) // ngal dub ldan pa rnams la (=śramavat7)
nyer zhi (=upaśama1) 'gog pas (=nirodha6) ngal gso (=viśrānti3) ster bar byed (=disati) // 91.22
//

/ de dag (=etad) thos nas (=ākaraṇya) mi bdag ni (=nṛpati1) // dga' mgu (=praharṣa-) mig dag
rab rgyas pas (=utphullalocana1) // rang gi lus ni (=svadeha3) bcad pa'i (=utkṛtya) sha
(=māṃsa3) // khrag dang bcas pa (=saśoṇita3) de la (=tasmai) byin (=dadau) // 91.23 //

/ rang sha (=svamāṃsa3) bcad cing bcad cing ni (=utkṛtyotkṛtya) // ster bar byed pa (=dadat7)
sa bdag gi (=mahīpati7) // snying stobs (=sattva4) rnam 'gyur med pa yis (=nirvikāra4) //
mtshan mo rgyu ba (=nīśācara1) ya mtshan (=vismita1) gyur (=abhūt) // 91.24 //

/ de yis (=saḥ) lus ni thams cad las (=sarvagātra6) // sha za dag la (=piśitāśin5) sha (=piśita3)
byin nas (=dattvā) // sems can thams cad (=sarvasattva-) sgrol ba la (=saṃtāraṇa8) // smon lam
(=praṇidhāna3) mi yi bdag pos (=nṛpa1) byas (=vyadhāt) // 91.25 //

/ de nas (=tatas) de la (=tam) gcugs pa las (=praṇaya6) // 'bhyer 'jig (=puraṇḍara1) srin po'i
gzugs kyis (=rakṣorūpa1) smras (=ūce) // khyod kyi (=te) gnad ni (=marman-) bcad pa la
(=viccheda8) // gdung bas (=vyathā1) mi dga' (=viśāda-) bskyed (=jananī1) dam ci (=api) //
91.26 //

/ skabs gsum rgyal pos (=tridaśarāja4) dris pa na (=prṣṭa1) // rgyal po'i rgyal pos (=rājarāja1)

der smras pa (=tam abravīt) / / lus kyis (=deha8) gzhan la (=para-) phan pa dag / / byas la
(=upakaraṇīkṛta8) bdag ni (=me) mi dga' med (=na viṣādo 'sti) // 91.27 //

/ gal te (=yadi) gdung ba dag la (=vyathā8) bdag (=aham) / / rnam 'gyur med na (=nirvikāra1)
bden pa (=satya4) des (=tena) / / bdag gi (=me) lus (=vapus1) 'di (=idam) sngon gzugs bzhin
(=pūrvarūpa1) / / rma med (=nirvraṇa1) bsos pa (=svastha1) nyid (=eva) gyur cig (=astu) // 91.28
//

/ ces smras (=iti bruvāṇa7) sa yi (=bhū7) bdag po yi (=pati7) / / bden pa'i tshig ni (=satya-)
brjod pa las (=upayācana6) / / 'phral (=sahasā) nyid (=eva) lus ni (=vapus1) sngon gyi gzugs
(=pūrvarūpa1) / / rma dang bral ba nyid du gyur (=nirvraṇatām yayau) // 91.29 //

/ mkha' la rgyu bas (=nabhaścara4) me tog char (=puṣpavarṣa4) / / yangs pas (=vipula4) de ni
(=tam) g.yogs byas shing (=chādyamāna4) / / lha yi dbang pos (=sureśvara1) srin po'i gzugs
(=rakṣorūpa3) / / yongs su btang nas (=parityajya) rab tu bsngags (=praśaśaṃsa) // 91.30 //

/ brgya byin (=śatakratu8) snying stobs (=sattva8) mthong ba yis (=dṛṣṭa-) / / mi bdag la ni
(=nṛpati3) dad byas so (=prasādyā) / / de yis (=tad) legs bshad (=subhāṣita3) bdud rtsi yi (=sudhā-)
/ / nyams myong (=āsvāda3) sa yi bdag pos (=bhūpati1) bsams (=acintayat) // 91.31 //

/ nga nyid (=aham) sngon gyi skye ba la (=pūrvajanman8) / / mi dbang (=nareśvara1) shi bi
(=śibi1) der (=saḥ) gyur te (=abhavam) / / de ltar (=iti) srog gi (=prāṇa-) zong gis (=paṇa4) bdag
(=me) / / legs bshad la ni (=subhāṣita1) dga' bar (=vallabha1) gyur (=abhūt) // 91.32 //

/ rang gi (=nija3) skye ba gzhan gyi (=janmāntara-) gtam (=kathā3) / / de bzhin gshegs pas
(=tathāgata4) gsungs pa dag (=kathita3) / / thos nas (=ākarma) ya mtshan ldan pa yi
(=savismaya1) / dge slong (=bhikṣu1) kun gyis (=sarva1) rab tu bsngags (=praśaśaṃsuḥ) // 91.33
//

/ mthong dang ma mthong (=dṛṣṭāḍṛṣṭa-) bde la (=sukha8) lam ni (=mārga) legs bshad kyis gsal
(=subhāṣitaruci1) sgron ma lta bur spyod (=pradīpāyate) / / legs bshad (=subhāṣita-) bdud rtsi'i ro
ni (=amṛtarasa1) nyams myong ldan pas (=sāsvādena?) mchog tu (=para3) dga' ba'i (=prīti3)
char dag 'bebs (=varṣati) / / legs bshad (=subhāṣita-) don gnyer (=artha-) yul la (=viśaya8) gnyer
bya (=arthanīya1) kun mkhyen dag (=sarvajña1) kyang (=api) don gnyer nyid du 'gyur
(=arthitām yāti) / / de slad (=tasmāt) dam pa rnams la (=sat7) legs bshad dang (=subhāṣita4)
mtshungs (=sadṛśa1) dga' ba (=vallabha1) ci yang (=kiṃcid) yod ma yin (=nāsti) // 91.34 //

第92章 Maitrakanyakāvadāna

/ bla ma rnams kyi (=guru7) mdun dag tu (=agre) yang (=api) shin tu bla ma'i (=gurutara-) gnas

su (=pada8) che (=mahat1) / / 'byung po rnams ni (=bhūta7) 'dzin byed (=dharitrī1) mtha' dag
 (=sakala-) ro yi snying po (=rasasāra-) rab tu bskrun (=prasavin1) / / lus ni (=śārīra3) mdza'
 gcugs (=praṇaya3) bzhin du (=iva) rgyas byed (=puṣṇāti) skabs gsum (=tridaśa-) chu bo
 (=taṭinī-) gtsang ba'i (=pāvana-) lus (=tanu1) / / ma (=mātr1) de nyid ni (=saiva) rtag tu (=sadā)
 mkhas pas (=sat4) mchod bya (=pūjya1) yin gyi (=?) nor 'dzin min (=na vasudhā1) // 92.1 //

/ mnyan yod dag gi (=śrāvastī8) rgyal byed tshal (=jetavana8) / / dga' bar (=ramya8) rgyal bas
 (=jina1) rgya che'i (=vistara3) chos (=dharma3) / / rab tu bstan nas (=pratipādyā) mdor bsod pa
 (=saṃkṣipta3) / / slar yang (=punar) dge slong tshogs la (=bhikṣusaṃgha3) gsungs (=abravīt) //
 92.2 //

/ pha ma (=pitarau) mchog tu (=paramaṃ) tshangs pa (=brahman1) ste / / g.yo ba'i
 (=jaṃgama1) bsod nams dag gi grogs (=puṇyasaṃgama1) / / gang zhig (=yeṣām) de mchod
 (=tadarcana1) chos (=dharma1) ldan pa'i (genitive of yeṣām) / / rigs (=kula1) de (=tāni) bsngags
 par 'os pa (=dhanya1) yin // 92.3 //

/ 'jig rten gsum na (=triloka8) bden mtshungs (=satyopama1) dka' thub (=tapas1) med (=nāsti) /
 / 'tshe med mtshungs pa'i (=ahiṃsāsādṛśa1) chos ni (=dharma1) gang na'ang (=kvāpi) med
 (=nāsti) // bla ma (=guru1) lci ba (=garīyas1) pha las (=pitṛ6) gzhan (=para1) yod min (=nāsti) / /
 lha yi (=daivata1) mchog ni (=para1) ma las (=mātr6) gzhan pa (=anya1) min (=nāsti) // 92.4 //

/ gang zhig (=yaiḥ) lhag par gus pa rab rgyas pas (=prasabhabhaktinirbhara4) / / bla ma'i
 (=guru7) zhabs kyi padma zung (=pādapuṣkarayuga1) mi bsten (=na sevita1) / / de dag (=te)
 mchog tu (=param) chur sred 'ba' zhig gis (=jalaruc4 eva kevalam) / / 'jug ngogs kun tu song
 (=sarvatīrthagamana8) yang (=api) 'bras bu med (=niṣphala1) // 92.5 //

/ bde bas (=sukhaiḥ) bsten bya (=sevyā1) phyi rol mi phyogs (=avimukha1) rtag tu (=satatam)
 bzod pa 'dzin (=kṣamābhṛt1) / / drag po'i brtul zhugs la sogs (=tīvravratādi-) nges pas (=niyama4)
 gdung ba ster mi byed (=avitīrṇaśoṣa1) / / gus pa'i rim gro (=praṇayopacāra8) chung ngu la
 (=alpa8) yang (=api) mi chung 'bras bu ster (=analphalada1) / / pha dang ma dang (=pitṛ7
 mātr7 ca) mnyam pa'i (=sama1) bla ma (=guru1) gsum pa (=tṛtīya1) yod ma yin (=nāsti) // 92.6 //

/ legs byas don ston byed pas (=sukṛtārthadeśikatā4) slob dpon (=ācārya1) rtag tu (=sadā) su yis
 (=kaiḥ) mngon par dga' mi bya (=na abhinandya1) / / srog rnams (=prāṇa7) skyed byed
 (=janaka1) bla ma rnams kyi (=guru7) bla ma (=guru1) pha ni (=janaka1) ji ltar (=katham)
 mchod mi bya (=na pūjya1) / / de bas kyang ni (=tatrāpi) mchog tu (=param) skad cig mngal gyi
 (=kṣaṇagarbha-) khur bzung (=dhāraṇabhara-) ma yi (=mātr7) ngal dub la (=kleśa7) / / bu lon
 dag par (=ānṛnya-) sgrub byed (=vidhāna-) bsod nams tshogs ni (=puṇyanicaya4) ci yis (=kena)
 dag pa (=nirvṛti1) thob par 'gyur (=āsādyate) // 92.7 //

/ dben pa ma smin (=avivekapāka-) sdig pa'i tshogs ni (=pātakagaṇa1) yang dag thob gyur pa (=saṃprāpta-) // gang gis (=yaḥ) ma la (=māṭṭ7) smod pa'i cha (=nikārakaṇa3) yang (=api) nges par (=kila) sgrub byed pa (=karoti) // sdig pa'i brtul zhugs (=pāpavrata8) de yi (=tasya) spyi bor (=mūrdhan8) ral pa'i tshogs dag ni (=jatākaṭapra) // rab 'bar (=jvalat-) me yi dra ba'i (=jvalanajāla-) rtse mo'i tshogs pa dag tu (=śikhākālāpa1) 'gyur (=bhavati) // 92.8 //

/ skye ba gzhan du (=aparajanman8) ma la ni (=māṭṭ7) // smod par byed pa (=nikārakārin4) bdag gis (=mayā) kyang (=api) // sdig dmod rang bzhin (=pāpaśāpamaya1) mi 'dod pa (=tāpa1?) // yongs su rdzogs pa'i (=paryāpta-) gdung ba (=vaiśasa1?) thob (=prāpta1) // 92.9 //

/ bā rā ṇa sī dag tu (=vārāṇasī8) sngon (=purā) // khyim bdag (=gr̥hapati1) mdza' bo (=maitra1) zhes pa (=nāma) byung (=abhavat) // de yi (=tasya) chung ma (=patnī1) nor 'dzin ma (=vasundharā1) // zhes pa (=nāma) shin tu yid 'ong (=ativallabha1) gyur (=abhūt) // 92.10 //

/ de yi (=tasyāḥ) bu rnams (=putra8) skyes tsam na (=jātamātra8) // lnga pa nyid ni (=pañcatā3) thob pa'i tshe (=prāpta8) // na tshod (=vayas8) mtha' ru (=paścima8) bu dag ni (=sūnu1) // dpal dang ldan pa (=śrīmat1) gcig (=eka1) btsas gyur (=ajāyata) // 92.11 //

/ de yang (=tasyāpi) 'chi bas 'jigs pa yis (=vipattibhīti4) // pha yis (=pitṛ1) bu mo (=kanyā-) zhes par btags (=nāmākarot) // de yis (=tena) mdza' bo'i bu mo zhes (=maitrakanyakanāma1) // byis pa (=śīśu1) de ni (=asau) grags par (=viśruta1) gyur (=abhūt) // 92.12 //

/ de yi (=tasya) pha ni (=janaka8) rgya mtsho ru // song zhing (=samudragamana8) shi bar gyur pa'i tshe (=nidhanam gata8) // bu gcig pa (=ekaputra1) nyid (=eva) ma yis ni (=jananī1) // gter dang mtshungs pa dag tu (nidhitulya3) bsrungs (=rarakṣa) // 92.13 //

/ rigs kyi rim pas (=kulakrama-) 'ongs pa yi (=āgata3) // gling du 'gro ba (=dvīpayātrā3) bzlog nas (=nivārya) des (=sā) // de la (=tasya) 'tsho thabs (=jīvikā3) rang yul du // 'os pa (=svadeśārha3) chung ngu 'tshong ba (=svalpavikraya-) bstan (=ādideśa) // 92.14 //

/ dang por tshong las (=pūrvavikraya-) skyes pa ni (=utpanna3) // karṣa pa ṇa bzhi dag (=kāṛṣāpaṇacatuṣṭaya3) dang // de nas (=tatas) nyi ma gzhan la ni (=anyasmin dine) // de las (=atha) nyis 'gyur (=dviguṇa3) bzhi 'gyur (=caturguṇa3) dang // 92.15 //

/ de nas (=tatas) brgyad 'gyur dag (=aṣṭaguṇa3) kyang (=ca) rnyed (=lābha3) // thams cad (=sarva5) de yis (=sa) ma la (=māṭṭ5) phul (=nyavedayat) // de nas (=atha) gling bgrod (dvīpayātrā3) rigs la ni // 'os pa (=kulocita3) thos nas (=śrutvā) 'dod ldan (=sotsuka1) gyur (=abhūt) // 92.16 //

/ rgya mtshor 'gro ba (=samudragamana-) rtsom pa yi (=ārambha-) // tshogs la (=saṃbhāra-) chags shing (=rasa-) gus ldan (=sādara1) de (=saḥ) // ma yis (=māṭṭ4) bzlog par gyur (=vāryamāṇa1) mod kyang (=api) // ldog pa nyid du (=nivartanam3) khas ma blangs

(=nāmanyata) // 92.17 //

/ de nas (=tatas) ma ni (=jananī3) mya ngan gyis (=śoka-) // 'khrugs shing (=vihvala3) rkang pa
la 'gyel bas (=pādapatita3) // gdug pa (=dṛpta1) de yis (=saḥ) dpal (=śrī3) bzhin du (=iva) //
rkang pas (=caraṇa4) rab tu spangs nas (=utsārya) song (=viniryayau) // 92.18 //

/ dang por (=?) byis pa (=śīśu1) 'khrul zhing (=skhalita-) yi ge phyed (=ardhavarṇa-) brjod
(=ālāpa4) yid 'ong (=lalita-) bdud rtsi'i (=peyūṣa3) char dag 'bebs (=varṣati) // de nas (=tatas) dul
bas (=vineya1) yid la re ba'i (=manoratha-) dga' ston (=utsava-) rgyas pa (=sphīta-) brgya yis
(=śata4) dga' ba (=prīti3) 'dzin (=dhatte) // phyi nas (=paścāt) mi bzad (=utkaṭa-) lang tsho'i tsha
ba (=yauvanoṣma-) drag pos (=vikāṭa-) brlang po dag tu smra byed (=aḥamkāravādin1) mkhas
(=paṭu1) // gsal bar (=sphuṭa-) nag po brtsegs pa ltar (=kālakūṭa-) rtsub (=kaṭuka1) ngan pa'i bu
yis (=duṣputra1) sdug bsngal (=vyathā3) gdung bar (=kaṣṭa3) byed (=karoti) // 92.19 //

/ rin chen bsgrub par 'dod pa (=ratnārjanotsuka1) de (=saḥ) // ma yi mya ngan (=jananīśoka3)
yangs par (=vipula3) bzhin (=iva) // rgya mtsho'i drung du (=sāgara3) phyin nas ni (=prāpya) //
gzings la (=pravahāṇa3) rab tu zhon te (=samāruhya) song (=yayau) // 92.20 //

/ de nas (=tatas) de yi (=tasya) gzings (=pravahāṇa1) chen ni (=prājya1) // rab rno (=sphāra-)
chu srin (=makara-) sen mo yi (=nakhara-) // sog le (=krakaca-) drag pos (=krūra-) dral bar byas
(=dārita1) // 'jug ngogs dag tu (=kūla8) zhig par gyur (=abhajyata) // 92.21 //

/ blo gros rab 'phyar (=utsiktamati7) de yis ni (=tasya) // ma yi (=mātr7) bsam bcom
(=āśābhaṅga-) khur (=bhara6) lci bas (=guru6) // gzings ni (=pravahāṇa8) zhig par gyur pa
(=bhagna8) des (=tasmin) // dmod pa (=śāpa1) bzhin du (=iva) rmongs pa (=moha1) thob
(=abhavat) // 92.22 //

/ de nas (=tatas) shing gi tshal pa thob (=phalahakāvāpti4) // dal gyis (=śanais) 'du shes
(=saṃjñā3) thob pa des (=avāpya saḥ) // chu gter gyi ni (=jaladhi7) ngogs (=ūra3) phyin nas
(=āsādyā) // nags tshal chen po'i nang du (=gahana3 mahat3) zhugs (=jagāhe) // 92.23 //

/ gcig pu (=ekākin1) brtan nyams (=hāritadhṛti1) 'gro ba (=vrajat1) des (=saḥ) // skye bo med
par (=vijana8) yun ring na (=cirāt) // grong khyer (=nagara3) rtse dga' can (=ramaṇaka3) zhes pa
(=nāma) // dga' ba (=ramya3) mchog ni (=divya3) thob par gyur (=āptavat1) // 92.24 //

/ bzhin ras (=vadana-) zla zer (=indutviṣ7) tshogs rnams kyis (=caya4) // zla ba'i 'od ni
(=jyotsnāpūra) spro byed pa (=srjat4) // lha yi bu mo (=apsaras4) bzhi dag gis (=catur4) // gus
bcas (=sādaram) mgron ni byas pa (=kṛtātithya1) de (=saḥ) // 92.25 //

/ gser gyi rdzing bu dag gi 'gram (=hemapuṣkarīṇīūra8) // rin chen 'khri shing (=ratnalatā-) dga'
ba'i (=ramya8) tshal (=vana8) // nor bu'i khang pa khri stan can (=maṇimandiraśayyā8) // der ni
(=tatra) longs spyod ldan par (=saṃbhogavat1) gyur (=abhūt) // 92.26 //

/ rgud pa dag ni (=vipad1) bde ba'i mtha' (=sukhaparyanta1) // phun tshogs (=sampad1) nyon
mongs dag la *mtha' (=kleśaprānta1) // lus can rnam la (=śārīn7) re mos kyis (=paryāyeṇa) //
nges pa nyid du (=eva?) 'khor ba (=āvartinya1) yin (=bhavati) // 92.27 //

/ dga' mgur spyod pa la (=ratibhoga-) chags pa'i (=praṇayin4) // ri dwags mig can
(=hariṇekṣaṇa1) de dag rnam (=tāḥ) // de dang (=tena) rol pas (=ramamāṇa1) yun ring du
(=ciraṃ) // skal bzang (=saubhāgya7) don byas nyid dag thob (=kṛtārthatām prāpuḥ) // 92.28 //

/ khyod kyis (=tvayā) grong khyer (=nagara8) lho yi (=dakṣiṇa1) lam (=pathin1) // bdag nyid
kun gyis (=sarvātmanā) spang bya (=varjya1) zhes (=iti) // de dag gis (=tābhiḥ) brjod tshe na
(=ukta1) de (=saḥ) // lhag par (=adhikam) de ni (=?) 'gro 'dod gyur (=gamanotsuka1) // 92.29 //

/ rang dbang (=svādhīna-) mngon par mi 'dod cing (=anabhilāṣin7) // nges par (=kāmaṃ)
bsdams pa'i (=niyama-) mi mthun phyogs (=vāma7) // srog chags rnam ni (=jantu7) bkag pa la
(=niṣedha4) // phal cher (=prāyeṇa) gus pa (=ādara1) lhag par (=adhika-) 'phel (=vardhate) //
92.30 //

/ de nas (=tatas) dge mtshan gyis (=kautuka-) drangs (=ākṛṣṭa1) de (=saḥ) // lho yi phyogs kyi
lam (=dakṣiṇavartman4) de nas (=tena) // song bas (=vrajat1) rtag tu myos (=sādāmatṭa3) zhes
pa (=nāma) // lha yi (=divya3) grong khyer (=pura3) gzhan pa (=para3) thob (=prāpa) // 92.31 //

/ der ni (=tatra) de bzhin (=tadvat) lha mo (=apsaras1) brgyad (=aṣṭa1) // spyad bya nyid du
gyur rnam kyis (=bhogyatvam āgata1) // de la (=tasya) rim gro'i (=upacāra-) bkod pa dag
(=racanā3) // de las (=tatas) lhag pa (=adhika3) yun ring (=ciraṃ) byas (=cakruḥ) // 92.32 //

/ de dag rnam kyis (=tābhiḥ) rim pa (=krama4) des (=tena) // lho yi (=dakṣiṇa8) lam ni
(=adhvan8) bkag pa na (=niṣiddha8) // de ni (=saḥ) dge mtshan las (=kautuka6) song bas
(=gata1) // grong khyer (=pura3) gsum pa (=tṛtīya3) dga' byed (=nandana3) thob (=prāpa) //
92.33 //

/ der ni (=tatra) rim pa (=krama4) de nyid kyis (=tenaiva) // rtse dgas (=līlā-) rnam par rol
(=vilāsin7) de la (=tasya) // lha mo (=apsaras1) bcu drug (=ṣoḍaśa1) dga' mgu yi (=rati-) //
longs spyod (=bhoga-) spyad bya nyid du gyur (=upabhogyatām yayuḥ) // 92.34 //

/ de dag gis (=tābhiḥ) kyang (=punar) bkag pa yi (=niṣiddha4) // lho yi (=dakṣiṇa4) lam nas
(=pathin4) song gyur pa (=vrajat1) // gus bcas (=sādara1) de yis (=saḥ) khang bzang ni
(=prāsāda3) // tshangs pa'i mchog ces bya bar (=brahmottarākhyā3) phyin (=āsasāda) // 92.35 //

/ de nas (=atha) der yang (=tatrāpi) lha mo (=apsaras1) gzhan (=para1) // sum cu rtsa gnyis
(=dvātriṃśat1) longs spyod kyi (=saṃbhoga-) // skal bzang gis ni (=subhaga1) yang dag thob
(=saṃprāpya) // de bzhin (=tadvat) lho yi lam nas (=dakṣiṇavartman4) song (=yayau) // 92.36 //

/ de ni (=saḥ) song bas (=vrajat1) mi bsrin pa'i (=khala-) // grogs (=sauhārda3) bzhin (=iva)

nyon mongs tshogs kyi (=āyāsacaya-) gnas (=āśraya3) // lcags kyi rang bzhin (=ayomaya3) rtsub po yi (=paruṣa3) // / grong khyer (=nagara3) ngan 'gro (=durga-) mang po (=prāya3) thob (=prāpa) // 92.37 //

/ der (=tatra) de (=tasya) nang du zhugs pa na (=praviṣṭa7) // / rim pas (=kramāt) sa la (=bhūmi8) sgo rnams ni (=dvāra1) // su zhig dag gis (=kenāpi) bsgribs pa (=pitita1) bzhin (=iva) // mtshams med (=niḥsaṃdhi-) bsdams pa nyid du gyur (=bandhatām yayuḥ) // 92.38 //

/ de yi nang na (=tadantara8) skyes bu ni (=puruṣa3) // / lus chen (=mahākāya3) gnas pa (=sthita3) de yis (=saḥ) mthong (=apaśyat) // / mtha' dag nyon mongs skyon rnams kyi (=sakalakleśadoṣa7) // / snod ni (=bhājana3) shin tu che ba (=vistīrṇa3) bzhin (=iva) // 92.39 //

/ bcings shing (=baddha7) rgyun du (=v. note) khrag rgyun 'bab (=raktapravāhin7) // / de yi (=tasya) spyi bor (=mūrdhnan8) 'khor lo ni (=cakra3) // / rnon po (=tīkṣṇa3) 'bar bas (=jvālā-) *dkris pa dag (=valayita3) // / yongs su 'khor ba (=paribhramat3) mthong bar gyur (=dadarśa) // 92.40 //

/ rang gi mgo las zags pa yi (=svaśiraḥprasruta4) // / rnag khrag gis ni (=pūyaśoṇita4) zas bsgribs pa (=vihitāśana3) // / de (=tam) mthong (=dṛṣṭvā) drag po'i yid byung nas (=tīvrānirveda6) // / mdza' bo'i bu mos (=maitrakanyaka1) rab smras pa (=avadat) // 92.41 //

/ gdung ba drag pos (=krūravayathā-) non (=ākṛānta1) khyod (=tvam) su (=kaḥ) // / 'di ni (=idam) las dag (=karman7) ci yi (=kasya) 'bras (=phala1) // / zhes (=iti) des (=tena) snying rjes (=kāruṇya6) dris pa na (=prīṣṭa1) // / skyes bus (=puruṣa1) de la (=tam) rab smras pa (=abhāṣata) // 92.42 //

/ bdag ni (=aḥam1) ma la (=mātr7) gnod byed do (=kṛtāpakāra1) // / 'di ni (=idam) las (=karman7) de nyid kyi (=tasya) 'bras (=phala1) // / de dag thos nas (=etad ākarṇya) de yang ni (=so 'pi) // / sdig pa dran nas (=pāpasamvāda-) dogs par (=śaṅkita1) gyur (=āsīt) // 92.43 //

/ de yis (=saḥ) bsams pa (=acintayat) bdag la yang (=mamāpi) // / ma la (=mātr7) gnod byas (=kṛtāgas7) sdig pa (=pāpa1) yod (=asti) // / sdig pa (=pāpa-) rab tu brjod pa'i grogs (=sahādhyaṇin1) // / dran par byed (=smaraṇakṛt1) 'di (=ayam) bdag gis (=mayā) mthong (=dṛṣṭa1) // 92.44 //

/ khyi ra ba yis (=saunika4) rtswa sngon gyi (=śaṣpa-) // / nags nas (=vana6) ri dwags (=ajal?; v. note) rgyu ba (=carat1) bzhin (=iva) // / sdig (=pāpa4) des (=tena) bde ba'i dkyil 'khor nas (=sukhaṃḍala6) // / nga nyid (=aḥam) drangs pa (=kṛṣṭa1) ma yin nam (=nūnam) // 92.45 //

/ zhes pa'i (=iti) bsam pas (=cintā-) de (=tasmin) 'khrugs shing (=ākula8) // / sgo (=dvāra-) bsdams (=baddha-) sngon na gnas pa'i tshe (=puraḥsthita8) // / snying ni (=hr̥daya-) kun tu 'dar byed pa'i (=ākampakārin1) // / skad ni (=vāṇī1) mkha' las (=ambara6) rab grags pa (=uccacāra1) //

92.46 //

/ yun ring bcings pa (=cirabaddha1) nges par khrol (=pramucyantām) // gsar du (=nava-) 'ongs pa (=āgata1) dam du chings (=nibadhyantām) // / gsar pa bcings la bcings pa grol (=baddhamuktinavābandha8) // / 'di ni (=ayam) mtshams kyi dus la (=avadhikṣaṇa1) bab (=prāpta1) // 92.47 //

/ ces (=iti) sgra (=śabda8) mkha' las (=dyu6) grags pa'i tshe (=udīrṇa8) // skyes bu (=puruṣa1) de (=saḥ) grol (=mukta1) skad cig las (=kṣaṇāt) // / mdza' bo'i bu mo'i (=maitrakanyaka7) mgo la ni (=mastaka8) // 'khor lo (=cakra1) rab tu 'bar ba (=dīpta1) lhung (=apatat) // 92.48 //

/ de dus (=tatkālam) gnod gcod (=marmaccheda-) gdung bas (=vyathā-) gzir (=ātura1) / gsar bcings (=navabaddha1) mdza' bo'i bu mo (=maitrakanyaka1) des (=saḥ) // / bcings pa grol bar gyur pa yi (=muktabandha3) // / skyes bu (=puruṣa3) de la (=tam) rab smras pa (=avadat) // 92.49 //

/ lha mo (=apsaras-) rjes su chags ldan (=sarasa-) longs spyod (=bhoga-) yid ni 'phrog pa can (=manohara3) // / grong khyer (=pura3) nor bu'i khang khyim (=maṇimandira-) mdzes pa (=sundara3) de dag (=tāni) yongs btang nas (=tyaktvā) // / sdig pa'i (=pātaka-) las kyi thag pa (=karmadāman4) shin tu rab tu gyur pas (=prakṛṣṭatara-) drangs (=krṣṭa1) // / khyi rnams la (=śvan7) bzhin (=iva) sa (=kṣiti3) 'di nyid du (=imām) phyugs (=paśu1) bdag 'ongs par gyur (=āgato 'smi) // 92.50 //

/ gang na (=yatra) 'di yi (=asya) las kyi 'khri shing (=karmavallī) cha yis (=kalā? v. note) yongs bsgrubs pa (=kalpita-) // / dus kyis (=kālena) yongs smin (=paripāka-) spyad bya nyid du gyur pa (=bhogya1) mdun na (=purā) gnas (=tiṣṭhāti) // / nges par spyad bya (=bhavitavyatā1) stobs ldan (=balavat1) 'di yis (=tayā) mchog tu (=alam) 'gugs par byed (=karṣati) // / de yis (=tayā) bkug nas (=krṣṭa1) kyang ni (=eva ca) dbang med (=avaśa1) mi rnams (=manuṣya1) 'jug par byed (=viśati) // 92.51 //

/ ma la (=mātuḥ) gnod pa byas rnams kyi (=kṛtāgas7) // / nyon mongs spyod (=kleśabhoga-) mtshams (=avadhi8) ji snyed (=kiyat1) dus (=kāla1) // / skye bo (=jana1) kha cig (=kaścid) bdag lta bu (=asmadvidha1) // / gsar du (=nava1) 'ong bar 'gyur ram ci (=apy āgamiṣyati) // 92.52 //

/ zhes pa (=iti) lus can (=dehin7) 'khor lo ni (=cakra-) // / rab tu 'bar ba'i (=jvalita-) rtse (=agra-) bcom zhing (=dīryamāṇa7) // / gzir ba (=ārta7) de yi (=tasya) tshig (=vacas3) thos nas (=śrutvā) / / skyes bus (=puruṣa1) de la (=tam) rab smras pa (=abhāṣata) // 92.53 //

/ lo ni stong phrag drug cu (=śaṣṭivarṣasahasra3) dang (=ca) // / lo ni brgya phrag drug cu dag (=śaṣṭivarṣaśata3) // / nyon mongs (=kleśa-) nye bar longs spyod (=upabhoga7) 'di (=asya) // / sdig pa'i (=pāpa-) las can rnams la (=karmanām) nges (=niyati1) // 92.54 //

/ ma la (=māṭṭ7) gnod pa byas pa yi (=kṛtāgas7) // sdig can rnam la (=pāpin7) 'di na (=iha) gnas (=sthāna1) // 'jigs su rung ba (=ghora1) gzhan dag (=apara1) yod (=santi) // gzhan yang (=anye 'pi? v. note) de lta (=tadvidha1) 'ong bar 'gyur (=sameṣyanti) // 92.55 //

/ des (=tena) brjod (=ukta3) shin tu bzod dka' (=duḥsahatara3) de (=saḥ?) // mdza' bo'i bu mos (=maitrakanyaka1) thos gyur nas (=śrutvā) // / rab (=su-?) gdung (=vyathā) sdug bsngal (=duḥkha-) myong ba las (=saṃvedāt? v. note) // gzhan dag gzir la (=parārti-) brtse bas (=dayā4) smras (=avadat) // 92.56 //

/ da ni (=adhunā) sdig pa byed pa'i (=pātakakārin1) mi (=nara1) // gang zhig (=ye) rab tu 'ong 'gyur ba (=sameṣyanti) // de dag (=teṣām) don du (=artha8) 'khor lo (=cakra1) 'di (=idam) // bdag gi (=mama) mgo la (=mastaka8) gnas gyur cig (=tiṣṭhatu) // 92.57 //

/ 'di lta'i (=evaṃvidha3) gdung ba (=vyathā3) drag cing (=tīvra3) ring (=dīrgha3) // de dag rnam kyis (=te) ji lta (=katham) bzod (=sahante) // bdag nyid (=me) gcig pu (=ekasya) gdung (=vyathā1) gyur (=astu) la // thams cad (=sarve) gdung med (=nirvyatha1) gnas gyur cig (=tiṣṭhantu) // 92.58 //

/ 'khor lo (=cakra3) rang gi (=nija3) 'bras (=phala3) bcad nas (=bhittvā? v. note) // gzhan gyi don du (=parārtha8) bdag gis bzung (=dhārayiṣyāmi) // skye bo (=jana1) rang nyid (=sva-) gdung med pas (=vyathāṃ vinā) // gzhan gyi gdung ba (=paravyathā3) yong mi shes (=vijānāti na) // 92.59 //

/ sems can phan (=sattvahita-) tshol (=eṣin4) snying rje yis (=karuṇā-) // gzir ba (=ārta4) de yis (=tena) 'di brjod tshe (=ity ukte) // dam pa'i kun rtog (=saṃkalpa-) mthu yis ni (=prabhāva4) // de yi (=tat) 'khor lo (=cakra1) mkha' la (=nabhas3) song (=agamat) // 92.60 //

/ yal 'dab dag ni (=pallavita1) gdung ba (=tāpa3) 'phrog cing (=nihanti) me tog (=puṣṭita1) grags snyan (=yaśas3) dkar po (=śubhra3) rgyas par byed (=tanute) // 'phral la (=sadyas) dri bzang (=saurabha-) legs ldan (=bhavya-) longs spyod (=bhoga-) skal bzang (=subhaga3) phun sum tshogs pa (=lakṣmī3) slar yang (=punar) 'dzin (=vidhatte) // dam pa'i (=sat-) kun rtog (=saṃkalpa-) 'khri shing (=latā1) snying rje'i (=kāruṇya-) brlan ldan (=ārdratā4) dam pa rnam *kyis (=sat4) snying la ni (=hr̥daya8) // gang tshe (=yadā) yang dag btab pa (=samāropita1) de tshe (=tadā) ro ldan (=sarasa3) 'bras bu (=phala3) ci dang ci mi (=kiṃ kiṃ na) skyed (=sūte) // 92.61 //

/ snying rje'i (=kāruṇya6) bsod nams bdag nyid kyis (=puṇyamāhātmya6) // skad cig de la (=tatkaṣṇāt) sdig zad de (=kṣatakilbiṣa1) // lus ni (=deha3) yongs su btang nas (=parityajya) de (=saḥ) // lha yi gnas su (=surālaya8) lhar (=deva1) gyur to (=babhūva) // 92.62 //

/ nga nyid (=aham eva) sngon tshe (=pūrvam) byams (=maitra-) bdag nyid (=ātman1) // mdza'

bo'i bu mo nyid (=maitrakanyaka1) gyur te (=abhavam) / / ma ni (=māṭṭ7) rkang pas (=pādena)
rab 'phangs pas (=utsāraṇa6) / / sdug bsngal gnas skabs (=duḥkhavartini3) de dag (=tām) thob
(=prāpta1) // 92.63 //

/ kārṣa pa ṇas (=kārṣāpaṇa-) ma la ni (=māṭṭ7) / / mchod pas (=arpaṇa6) lha mo'i (=apsaras7)
gnas (=pada3) kyang (=ca) thob (=prāpta1) / / de skad (=iti) ma yi (=māṭṭ7) srid zhu ni
(=śuśrūṣā-) / / chos kyi (=dharma3) mchog tu (=uttama3) bcom ldan (=bhagavat1) gsungs (=ūce)
// 92.64 //

/ ma ni (=māṭṭ1) bkra shis phreng ba (=maṅgalamālaka1) yon tan dang ldan pa ni
(=guṇamayā1) mnyes gshin (=vātsalya-) cod pan (=mauli1) *pha (=pitṭ1) / / de dag (=tau1)
dgyes slad (=priya5) gang gi (=yeṣām) spyi bor (=śīras8) zhabs kyi padmo rab tu 'god
(=pādāmbujāropaṇa3) byed pa (=kurutaḥ) / / phyogs kun (=sarvāśā-) yongs su 'gengs par
(=paripūraṇa-) brtson pa'i (=udyata-) grags pa (=yaśas-) phun tshogs (=sampat-) rab tu gsal ba
(=prakāśa-) rgyas (=udaya1) / / rtag tu dga' ston (=nityotsava1) bsod nams rgyan ldan
(=puṇyābharaṇa1) de dag (=te) 'gro ba'i (=jagat7) mchod bya nyid du 'gyur (=pūjyatām prayānti)
// 92.65 //

※本研究は科研費(19520052)の助成を受けた。また三島海雲記念財団からの援助を賜った。

<Keywords> Avadāna, Bodhisattvāvadānakalpalatā, Karmaśataka, Avadānanaśataka,
Sarvaṃdada, Śibi, Maitrakanyaka

(九州大学大学院教授, Ph.D.)